

# 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VIII

平成4年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1993年3月

## 序

キャンパスのあちこちで、大は新築工事から小は電柱の移設に至るまでの多くの工事がなされています。これらの工事に際しては、各学部御理解御協力もあり、今は、必ず埋蔵文化財調査室による調査が行われるようになっております。平成四年中に調査した結果を、ここに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅷ』として発行する運びになりました。

ここには、平成4年1月～3月迄の試掘調査1件、立会調査11件を第Ⅰ部として、同年4月～12月迄の発掘調査3件、試掘調査1件、立会調査3件を第Ⅱ部としてそれぞれ掲載してあります。

工学部地区の地域共同センター予定地の試掘では、情報工学科棟建設地で確認された河川跡の範囲を推定するのに資する地域であることが明確になり、また、教育学部地域の発掘調査では、古墳期のピットや溝状遺構が確認されております。さらに、図書館の樹木移植にともなう立会調査によって密度の高い遺物包含層を確認しており、同地域の本調査は時間をかけた調査の必要性を窺わせております。

このような調査の継続により、郡元キャンパスの地下の地図が次第に描かれつつありますが、毎年の発掘により出土する遺物も大量になり、その整理保管も重要な課題になりつつあります。長期的展望に立ち、各学部共同利用の「大学博物館」を設立し、そこに埋蔵文化財調査室を含めるというプランを検討する時期にきているのではないかと思います。

各学部のさらなるご協力をお願いする次第です。

平成5年3月

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会  
委員長 安藤 保

# 例 言

1. 本年報は鹿児島大学構内において鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成4年1月から12月までに行った調査活動の成果をまとめたものである。調査報告は平成3年度分（平成4年1月～3月）を第Ⅰ部、平成4年度分（平成4年4月～12月）を第Ⅱ部とする。ただし、平成4年度に行った郡元団地P-4・5区と郡元団地O-7区における発掘調査については、本年報においてはその概要を記すのにとどめ、本報告は来年度年報に掲載する予定である。
2. 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と宇宿団地とに設定した。  
その設置基準は以下のようである。
  - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系（ $X = -158.2000$ ,  $Y = -42.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。（図版2参照）。
  - (2) 宇宿団地では、国土座標第2座標系（ $X = -161.600$ ,  $Y = -44.400$ ）を基点として一辺50mの方形地区割りを行った。
3. 層位断面図横の数値は、すべて海拔高である。
4. 本年報において報告を行った調査地点については、立合調査地点を除き、図版2にその位置を示している。
5. 付編を除く本年報の執筆は第Ⅰ部については第1・2章を中村直子が、第3章を有馬孝一が担当し、第Ⅱ部については第1・4章を中村が、第2章を前幸男が、第3章を大西智和が担当している。
6. 本年報掲載の遺構・遺物の実測・製図・遺構の写真撮影は中村・大西・黒木綾子・有馬・前・松村みどりが行い、遺物の写真撮影は大西・松村・中村が行った。
7. 付編は、平成3年度埋蔵文化財調査室が行った鹿児島大学工学部情報工学科棟建設地内の発掘調査の際、河2から出土した遺物の報告で、『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』に掲載の調査報告の欠を補うものである。中村・黒木が執筆した。
8. 第Ⅰ部の第2章の遺物、第Ⅱ部第2・3章の層位・遺物、付編の遺物の色調については、『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）の標記方法によった。
9. 稲盛ホール建設予定地内の調査に際し、森脇広氏（鹿児島大学法文学部助教授）には本調査区検出の土層の観察を中心として、多くのご教示を賜った。また、本田道輝氏（鹿児島大学法文学部助手）には地域共同センター試掘調査において、また、付編に掲載した工学部情報工学科河2出土の遺物について、数々の御教示を賜った。岡本満子氏にも同遺跡の縄文土器の底部について、貴重なご教授を賜った。
10. 本書の編集は室長上村俊雄の指導を受けて、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。

# 目 次

第Ⅰ部 平成3年度（平成4年1月～3月）鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告 .....	1
第1章 平成3年度（平成4年1月～3月）調査の概要 .....	3
第2章 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査報告 .....	4
1. 調査に至る経過 .....	4
2. 調査組織 .....	4
3. 調査の経過 .....	4
4. 層序 .....	4
5. 遺物 .....	6
6. まとめ .....	6
第3章 平成3年度（平成4年1月～3月）立合調査報告 .....	8
第Ⅱ部 平成4年度（平成4年4月～12月）鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告 .....	13
第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要 .....	15
第2章 郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査報告 .....	17
1. 調査に至る経過 .....	17
2. 調査組織 .....	17
3. 調査の経過 .....	17
4. 層序 .....	17
5. まとめ .....	18
第3章 郡元団地L-11・12区（稲盛ホール建設予定地）における試掘調査報告 .....	19
1. 調査に至る経過 .....	19
2. 調査組織 .....	19
3. 調査の経過 .....	19
4. 層序 .....	20
5. 遺構 .....	21
6. 遺物 .....	22
7. まとめ .....	23
第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査 .....	24
・鹿児島大学構内遺跡調査要項 .....	26
・購入・受贈図書目録 .....	29



付 編

I. 鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区, 工学部情報工学科建設地発掘調査河2  
出土遺物の紹介 ..... 41

II. 鹿児島大学構内遺跡(郡元団地H-11区地域共同センター建設予定地)に  
おけるプラント・オパール分析結果 ..... 69

## 挿 図 目 次

・郡元団地H-11区(地域共同研究センター建設予定地)における試掘調査

第1図 調査区位置図 ..... 4

第2図 層位断面図 ..... 5

第3図 出土遺物 ..... 6

・平成3年度立合調査

第4図 農学部舗装工事ともなう立合調査位置図 ..... 8

第5図 電気幹線改修工事に伴う立合調査位置図 ..... 9

第6図 農学部実習地建柱工事・自家給水施設高架水槽用量水器改修工  
事・自家給水施設7号井戸揚水設備工事に伴う立合調査位置図 ..... 9

第7図 連合農学研究科棟前造園及び移植工事・連合農学研究科駐車場  
舗装工事に伴う立合調査位置図 ..... 10

第8図 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査位置図 ..... 11

第9図 教育学部前造園工事に伴う立合調査位置図 ..... 11

・郡元団地K-12区(工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地)における発掘調査

第10図 調査地点位置図 ..... 17

第11図 層位断面図 ..... 18

・郡元団地L-11・12区(稲盛ホール建設予定地)における試掘調査

第12図 調査位置図 ..... 19

第13図 層位断面図 ..... 20

第14図 No.1 トレンチ遺構平面図 ..... 22

第15図 出土遺物 ..... 22

・平成4年度立合調査

第16図 鹿児島大学Q T N e t 回線引き込み工事に伴う立合調査位置図(1) ..... 24

第17図 鹿児島大学Q T N e t 回線引き込み工事に伴う立合調査位置図(2) ..... 24

第18図 図書館自転車置き場移転工事・樹木移植工事に伴う立合調査位置図 ..... 25

・郡元団地H-11・12区(工学部情報工学科棟建設予定地)発掘調査における河2出土遺物の紹介

第19図 出土遺物(1) ..... 44

第20図 出土遺物(2) ..... 45

第21図 出土遺物(3) ..... 47

第22図 出土遺物（４）	48
第23図 出土遺物（５）	49
第24図 出土遺物（６）	50
第25図 出土遺物（７）	51
第26図 出土遺物（８）	52
第27図 出土遺物（９）	53
第28図 出土遺物（10）	54
第29図 出土遺物（11）	55
第30図 出土遺物（12）	56
第31図 出土遺物（13）	57
第32図 出土遺物（14）	58
・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果	
第33図 プラント・オパール定量分析結果	70

## 表 目 次

・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査	
表1 出土遺物観察表	7
・郡元団地L-11・12区（稲盛ホール建設予定地）における試掘調査	
表2 層の対応	21
・郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科棟建設予定地）発掘調査における河2出土遺物の紹介	
表3 河2出土遺物観察表	59
・郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果	
表4 プラント・オパール定量分析結果	69

## 図 版 目 次

図版1 鹿児島市地図	73
図版2 鹿児島大学郡元団地構内図	74
・鹿児島大学郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査	
図版3 郡元団地H-11区における試掘調査（１）	75
図版4 郡元団地H-11区における試掘調査（２）	76
図版5 郡元団地H-11区における試掘調査（３）	77
・郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査	
図版6 郡元団地K-12区における発掘調査	78
・郡元団地L-11・12区（稲盛ホール建設予定地）における試掘調査	
図版7 郡元団地L-11・12区における試掘調査（１）	79
図版8 郡元団地L-11・12区における試掘調査（２）	80

・郡元団地H-11・12区工学部情報工学科棟建設地発掘調査河2出土遺物の紹介

図版9	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(1)	81
図版10	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(2)	82
図版11	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(3)	83
図版12	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(4)	84
図版13	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(5)	85
図版14	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(6)	86
図版15	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(7)	87
図版16	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(8)	88
図版17	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(9)	89
図版18	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(10)	90
図版19	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(11)	91
図版20	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(12)	92
図版21	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(13)	93
図版22	郡元団地H-11・12区における発掘調査河2出土遺物(14)	94

第 I 部 平成 3 年度（平成 4 年 1 月～ 3 月）  
鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告

- 第 1 章 平成 3 年度（平成 4 年 1 月～ 3 月）調査の概要
- 第 2 章 鹿児島大学郡元団地 H-11 区における試掘調査報告
- 第 3 章 平成 3 年度（平成 4 年 1 月～ 3 月）立合調査報告

## 第1章 平成3年度（平成4年1月～3月）調査の概要

平成4年1月～3月においては、下記の試掘調査（1件）、および下記の工事ともなう立合調査（11件）を実施した。

### 試掘調査

- ・工学部地域共同研究センター建設予定地における埋蔵文化財試掘調査（平成4年2月10～27日、郡元 団地H-11区）

### 立合調査

- ・農学部舗装工事（平成4年1月16日、郡元団地E-7・8区）
- ・農学部実習地建柱工事（平成4年1月21日、郡元団地F-12区）
- ・電気幹線改修工事（平成4年1月21～23日、郡元団地H-8・I-10区）
- ・自家給水施設高架水槽用量水器改修工事（平成4年1月22日、郡元団地I-9区）
- ・課外活動施設（厩舎）新宮給排水工事（平成4年2月5日、郡元団地B-8区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備工事（平成4年2月18・19日・3月12・14・17～19日、郡元団地F・G-10区）
- ・連合農学研究科棟前造園及び移植工事（平成4年3月16日、郡元団地E・F-3・4区）
- ・連合農学研究科駐車場舗装工事（平成4年3月16日、郡元団地F・G-3・4区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事（平成4年3月18日・19日、郡元団地H-10区）
- ・銀杏並木通り側溝フタ補修等工事（平成4年3月19日、郡元団地K-5～8区）
- ・教育学部前造園工事（平成4年3月21日、郡元団地M-3～7区）

試掘調査の地点は、平成2年度に発掘調査を行った工学部情報工学科棟建設地の北に隣接する。情報工学科棟建設地では、東西方向と南北方向に流れる河川跡を確認した<sup>1)</sup>が、今回の調査地点でも、その埋土と類似した層を検出し、情報工学科棟建設地の調査の際に明らかにできなかった河川跡の範囲を推定できる重要な資料となった。

立合調査においてはいずれも掘削深度が浅く、埋蔵文化財に影響が認められたものは少なかった。ただし、自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事ともなう立合調査では、上述した工学部情報工学科の北側に当たり、河川跡の続きであると考えられる砂層を検出している。以上のことより、付近一帯に連続する流路が推定でき、今後、掘削等による現状の変更がある場合には注意が必要である。

### 註

- 1) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年

## 第2章 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設予定地）における試掘調査

### 1. 調査に至る経過

鹿児島大学では、地域共同研究センターの建設工事を計画している。建設予定地は、郡元団地の西部に位置し、この地点南側に隣接する工学部情報工学科棟建設地においては、平成元年度に行った校舎建設にともなう事前の調査によって、古墳時代を中心とする遺物の包含層とそれを含む東西、南北方向に流れる河川跡を検出した。よって、今回の調査でもこれらの遺構や遺物包含層の存在が予想された。このため、埋蔵文化財調査室では本予定地において埋蔵文化財確認試掘調査を実施した。

### 2. 調査組織

本試掘調査は以下の体制で平成4年2月10日から27日まで行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

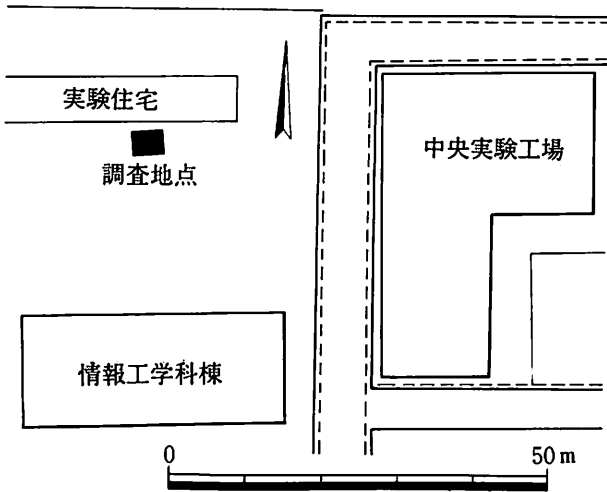
室長 上村俊雄

室員 中村直子・有馬孝一

発掘調査作業員 石谷サチ子・盛満アイ子・福永花江・名越ヒデ子・寺光ミツ子・元田順子

### 3. 調査の経過

本調査では、第1図に示す建設予定地内に東西方向に4m、南北方向に3mのトレンチを設定した。南に隣接する工学部情報工学科の発掘調査では、調査区外北側に広がる河川跡を検出しており、今回の調査でも河川跡の存在を予想していたが、調査の結果9層以下から河川跡の埋土と考えられる砂層を検出した。調査は地山と考えられる地表下約3mの黒色粘質土上面を検出した時点で調査を終了した。また、宮崎大学の藤原宏志教授にプラントオパール分析を依頼した（付編Ⅱ参照）。

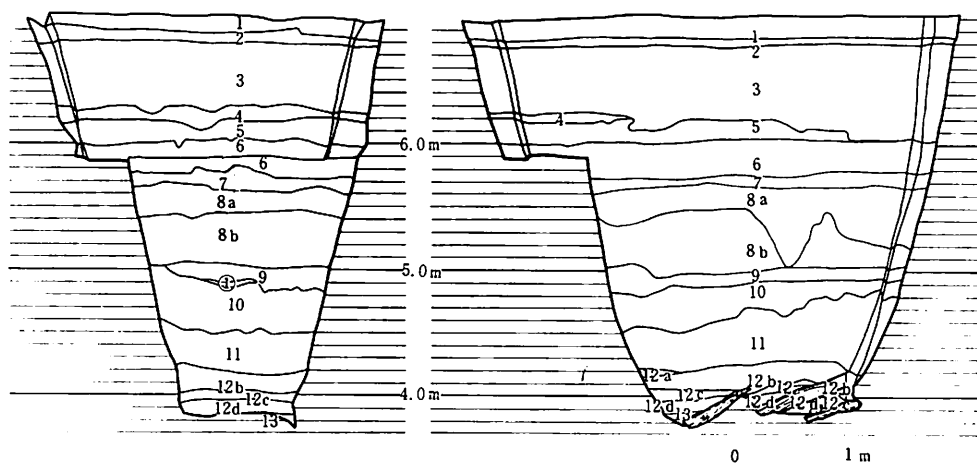


第1図 調査地点位置図 (1/1,000)

### 4. 層序 (第2図)

基本土層として1層から13層までを確認した。以下、その説明を行う。

1層 茶褐色 礫混じりシルト質砂層 (盛土)。

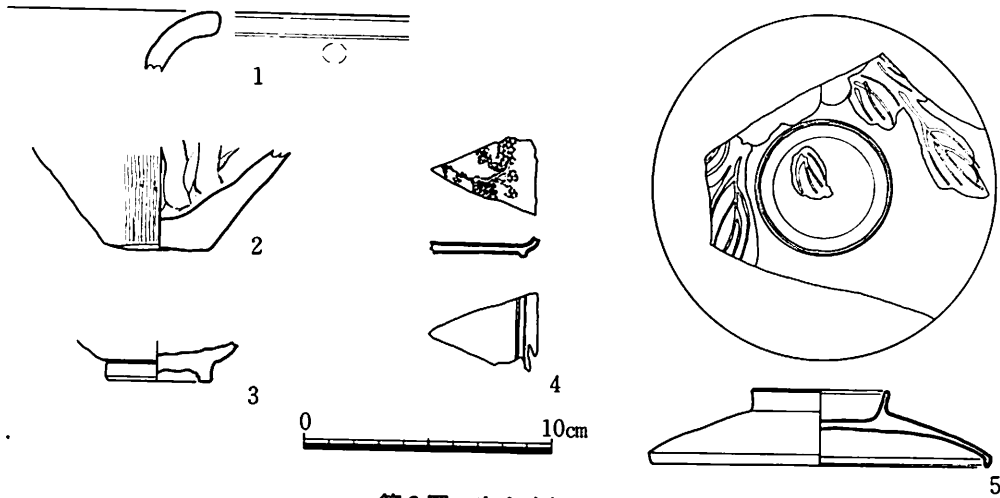


第2図 層位断面図 S=1/60

- 2層 黒褐色シルト質砂層。
- 3層 明茶褐色を基調とする暗灰褐色混じりシルト質砂層。礫・ブロックを含む。
- 4層 暗灰褐色シルト質砂層。軽石粒を微量含む。
- 5層 灰褐色を基調とした茶褐色混じりシルト質砂層（マンガン浸透）。
- 6層 明灰褐色を基調とした橙褐色混じりシルト質砂層。
- 7層 明灰褐色シルト質砂層。
- 8 a層 明灰褐色を基調とした暗褐色混じりシルト質砂層（7層よりも灰色味を増す）。
- 8 b層 8 a層と非常に似ているが、明茶褐色の鉄分が縦長のリング状に混ざる。シルト質砂層（粒子細かい）。
- 9層 灰褐色シルト質砂層。粒子が細かく、①層土と8 b層土をブロック状に含む。
- 10層 黒灰色砂質シルト層。粘質が強く、粒子が細かい。①層土と9層土をブロック状に含む。
- 11層 明灰褐色を基調とする粗砂や細砂が縞状に堆積しており、軽石を多く含む。
- 12 a層 茶褐色粗砂層。
- 12 b層 灰白色粗砂層。
- 12 c層 明茶褐色粗砂層。
- 12 d層 灰白色粗砂層。12 b層を基調とし、軽石を多く含む。
- 13層 黒色砂質シルト層（粒子が細かい）。
- ①層 白色シルト層（粒子が非常に細かい）。

1層から3層まではブロック塊等を含み、現代の攪乱を受けている。9層以下は情報工学科建設地の発掘調査の際に検出した河川跡<sup>1)</sup>の埋土に類似しており、トレンチの位置がその流路の延長線上に当たる。また、13層の上面は河川跡の河底と類似しており、河川跡である可能性が高い。

河3は調査区を南北方向に流れており、今回の調査区はその流れの延長線上にあることから、河川の埋土と考えられる。河の底部と推定できる13層上面からは径10cm前後の木片が3本出土している。



第3図 出土遺物 S=1/3

る。根元は13層に食い込んでおり、また表面が平坦なものも見られた。これらは南壁面に張りつくようにして出土したため、表面の観察のみに留まったが、杭である可能性も考えられる。昭和51年に調査を行った釘田第8地点<sup>2)</sup>は今回の調査区の約300m東に位置するが、多量の古墳時代を中心とする遺物を包含する埋土をもつ河川が検出しており、この河川の底から杭列が検出されている。情報工学科棟建設地における発掘調査で検出した河川埋土の遺物も同時期の遺物が多く、当調査区の木片もあるいは同時期の杭列ではないかと推測できる。今回の調査では木片は取り上げず埋め戻しを行い、本調査時に詳細な検討を行うことにした。

#### 5. 遺物（第3図・表1）

出土した遺物のうち図化できるもののみ提示した。3は陶器、4・5は磁器の染め付けで、いずれも1層から出土している。2は5層から出土した壺の底部である。歪んだ平底を呈する。1は12層から出土したものである。1は壺の口縁部で、摩滅している。

#### 6. まとめ

今回試掘調査を行った地点は情報工学科棟建設地の北側に隣接し、調査開始当初、河川跡の存在や古墳時代を中心とする遺物包含層の存在を容易に推定できた。今回の調査はその予測を十分に裏付けるもので、河川跡の埋土と考えられる土層の堆積や、それに含まれる遺物、また、杭列の一部ではないかと考えられる木片などが検出した。

情報工学科建設予定地における発掘調査で検出した河川は東西方向に流れる河1・2と南北方向に流れる河3が確認されている。今回の調査区はその北側に位置し、これらの河川跡と連続していると推定できる。また、古墳時代を中心とした遺物包含層の確認もできた。以上の結果から、今後、本地点での現状の変更がある場合は、埋蔵文化財への十分な配慮が必要であると考えられる。



註

- 1) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建設予定地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年
- 2) 「第三章 鹿児島大学埋蔵文化財調査室設置以前の調査」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅰ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1985

表1 出土遺物観察表

図番号	器種	部位	出土層	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
3-1	壺	口縁部	1 3	外面; 明褐色7.5Y R 5/6. 内面; 明褐色7.5Y R 5/6. にぶい黄褐色10Y R 7/3.	砂粒~細砂粒を含む. 角閃石.	外面; ユビオサエのちナデ. 内面; ナデ.	
3-2	壺	底部	5	外面; にぶい赤褐色5Y R 4/3. 下部黒色7.5Y R 1.7/1. 内面; にぶい褐色7.5Y R 5/4.	細砂粒を含む. 黒色粒.	外面; ミガキ(0.8mm幅), 内面; オビオサエのちナデ, 底面; ナデ.	底径; 4.0cm.
3-3	碗	底部	1	外面; 赤褐色5Y R 4/6. 内面; にぶい赤褐色2.5Y R 4/4.	微細な砂粒を含む.	回転ナデ.	底径; (4.2)cm.
3-4	皿	底部	1	釉; 透明釉.	白色.	内面; 染め付け, 高台; 無釉, 他; 施釉.	
3-5	皿	蓋	1	釉; 透明釉.	白色.	外面; 染め付け, 施釉.	口径; (13.4)cm.

### 第3章 平成3年度（平成4年1月～3月）立合調査報告

平成3年度（平成4年1月～3月）においては、下記の工事に伴い、立合調査を実施した。

- ・農学部舗装工事（平成4年1月16日，郡元団地E-7・8区）
- ・農学部実習地建柱工事（平成4年1月21日，郡元団地F-12区）
- ・電気幹線改修工事（平成4年1月21～23日，郡元団地H-8・I-10区）
- ・自家給水施設高架水槽用量水器改修工事（平成4年1月22日，郡元団地I-9区）
- ・課外活動施設（厩舎）新営給排水工事（平成4年2月5日，郡元団地B-8区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備工事（平成4年2月18・19日・3月12・14・17～19日，郡元団地F-10～12・G-10区）
- ・連合農学研究科棟前造園及び移植工事（平成4年3月16日，郡元団地E・F-3・4区）
- ・連合農学研究科駐車場舗装工事（平成4年3月16日，郡元団地F・G-3・4区）
- ・自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事（平成4年3月18・19日，郡元団地H-10区）
- ・銀杏並木通り側溝フタ補修等工事（平成4年3月19日，郡元団地K-5～8区）
- ・教育学部前造園工事（平成4年3月21日，郡元団地M-3～7区）

#### 農学部舗装工事に伴う立合調査（第4図A）

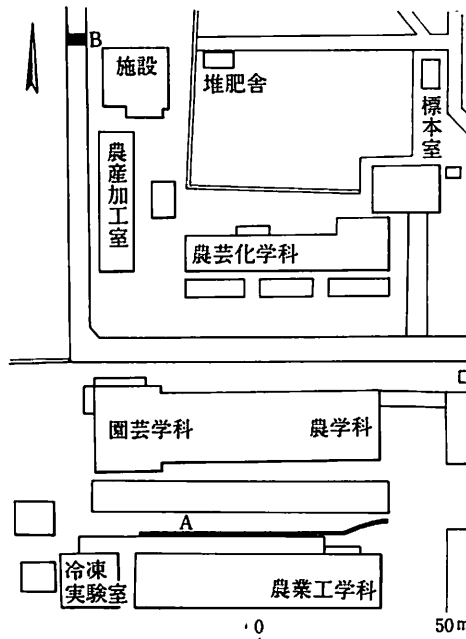
本工事では、農学部農業工学科棟の北側を幅1m，長さ65mにわたって溝状の掘削を行った。掘削は地表下30～60cmに及んだが、盛土・攪乱層土内であり埋蔵文化財への影響はなかった。

#### 農学部実習地建柱工事に伴う立合調査（第6図A）

本工事では、農学部実習地通用門南側を直径約30cm，地表下1.2mまでの掘削を行った。堆積状況は以下の通りである。

- I層 盛土（層厚20cm）
- II層 暗茶褐色土層（層厚20cm）
- III層 明茶褐色（鉄分）混じり灰色土層
- IV層 灰色土層

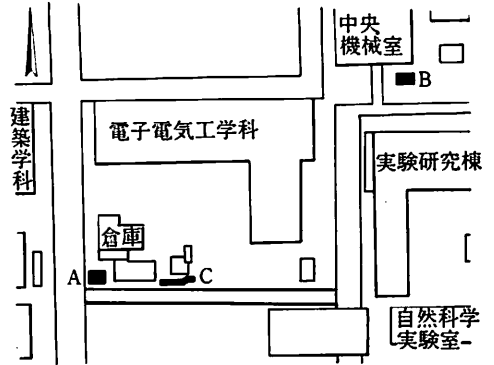
III，IV層は水田層ではないかと思われる。なお掘削面積が狭いため，III層以下の層厚については判別不可能であった。遺物の出土は認められなかった。



第4図 農学部舗装工事・課外活動施設（厩舎）新営給排水工事に伴う立合調査位置図  
S=1/2,000

**電気幹線改修工事に伴う立合調査（第5図A・B）**

本工事では、電子電気工学科棟南側倉庫の南側部分（A）を4.5m×3m、実験研究棟の北側部分（B）を3.2m×2.7mの範囲、地表下0.8m～1mにおよぶ掘削を行ったが、掘削は全て既掘部内にとどまり、埋蔵文化財への影響は認められなかった。



**自家給水施設高架水槽用量水器改修工事に伴う立合調査（第6図C）**

本工事では、電子電気工学科棟南側部分を長さ6.6m、幅0.4m、地表下0.7mにわたり溝状に掘削したが、掘削は盛土・攪乱層土内にとどまり埋蔵文化財への影響はなかった。

第5図 電気幹線改修工事・自家給水施設高架水槽用量水器改修工事に伴う立合調査位置図  
S=1/2,000

**課外活動施設（厩舎）新宮給排水工事に伴う立合調査（第4図B）**

本工事では、厩舎建設予定地東側部分を長さ2.6m、幅0.6m、地表下1.07mにわたり掘削を行った。堆積状況については以下の通りである。

- I層 盛土・バラス（層厚17cm）
- II層 明茶褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- III層 明灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- IV層 灰褐色混じり暗茶褐色シルト質砂層（層厚70cm）

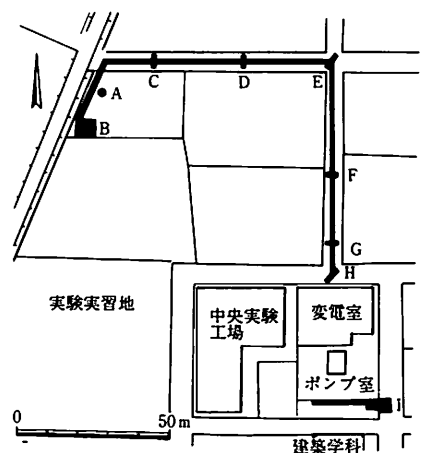
I～IV層の全ての層においてブロックの混入が認められ、掘削部は既掘部であることが確認された。なおI層土中から陶器片が2点出土した。

**自家給水施設7号井戸揚水設備工事ともなう立合調査（第6図B～H）**

本工事では、農学部実習地通用門から変電室東側まで7号井戸揚水設備に付随する（C～H）水道管埋設工事を行うことになり、それに先駆けて6カ所の部分掘りを行い、土層の観察を行った。ここではまず、プライマリーな層の検出された2地点について、堆積状況の説明を行う。

**第C地点**

- I層 盛土（層厚25cm）
- II層 灰褐色シルト質砂層（層厚25cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚30cm）
- IV層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）



第6図 自家給水施設7号井戸揚水設備工事に伴う立合調査  
S=1/2,000

第H地点

- I層 盛土（層厚25cm）
- II層 灰褐色シルト質砂層（層厚10cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚20cm）
- IV層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚20cm）

第H地点の廃土中からは、青磁片を1点採集した。

次に予備立合調査後の掘削工事の際に確認されたV・VI層と、7号井戸部分で確認された堆積状況について説明を加える。

- V層 黒灰色シルト層（地皮下110cmから層厚10cm）
- VI層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層（地皮下120cmから130cm）

VI層は、IV層とほとんど同質であるが、粘質性がやや弱いようである。

7号井戸部分（長さ2m、幅2m、深さ2m）（B）

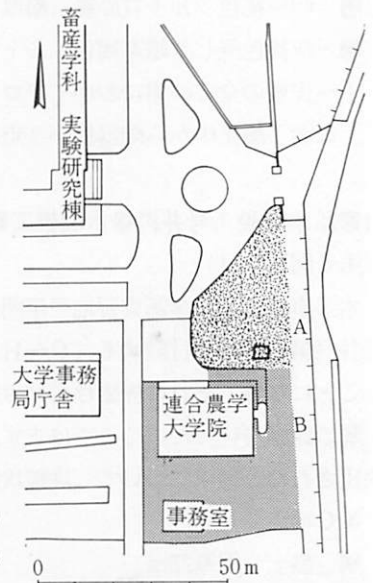
北壁土層

- I層 盛土・攪乱層（層厚80cm）
- II層 黄褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚15～31cm）
- III層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（層厚25cm）
- IV層 暗灰色シルト質砂層（層厚18cm）
- V層 明灰褐色砂層（層厚18～30cm）
- VI層 橙褐色粗砂層（層厚10cm）
- VII層 明黄灰色砂層

東壁南隅土層

- 1層 盛土・攪乱層（層厚100cm）
- 2層 黄褐色混じり灰褐色シルト質砂層（境界線不明、層厚II層+III層が25cm）
- 3層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層
- 4層 暗灰色シルト質砂層（層厚10cm）
- 5層 黄白色砂層（層厚5cm）
- 6層 黒灰色シルト層（層厚13cm）
- 7層 明白褐色細砂質シルト層（層厚30cm）
- 8層 黒色シルト層

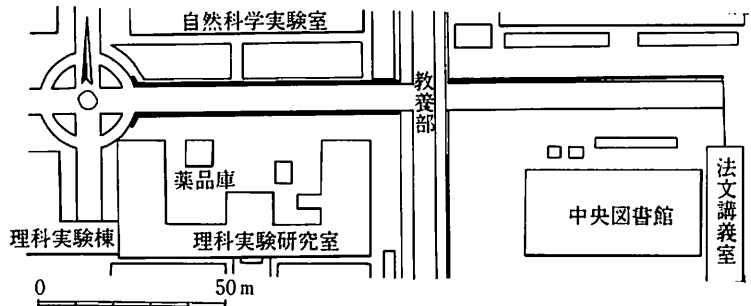
II・III層は水田層であろうと思われる。北壁断面にみられるIV・V層は工学部情報工学科発掘調査の際に検出された河1の埋土に類似している。またそれ以下に続く層も河の埋土ではないかと思われる。東壁南隅の土層は1層から4層までは北壁と同様であるが、5層以下、特に6層以下はシルト層の堆積となり、河の埋土であるのか、プライマリーな層であるか判別でき



第7図 連合大学院農学研究科棟前造園及び移植工事・連合大学院駐車場舗装工事に伴う立合調査位置図  
S = 1/2,000

なかった。

本調査では一点の遺物しか出土していないが、攪乱をうけた層の下部に水田層と思われるプライマリーな層が検出され、さらに河川的作用でできたと思われる堆積層が確認された。今後、付近の掘削工事の際は埋蔵文化財への配慮が必要となろう。



第8図 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査位置図  
S=1/2,000

#### 連合農学研究科棟前造園及び移植工事に伴う立合調査（第7図B）

本工事では、連合農学研究科棟北側を掘削したが、掘削部は全て盛土内にとどまっており埋蔵文化財への影響は認められなかった。

#### 連合農学研究科駐車場舗装工事に伴う立合調査（第7図A）

本工事では、大学院連合農学研究棟の周囲を南側を中心に地表下10cmから15cmにわたり掘削を行ったが、この範囲は客土のため埋蔵文化財への影響は認められなかった。

#### 自家給水施設7号井戸揚水設備電気工事に伴う立合調査（第6図I）

本工事では、第2ポンプ室南側を地表下60cmから100cmの深さで、幅65cm、長さ15mにわたり溝状に掘削を行った。なお配管の都合上、一部は地表下175cmまで掘削を行った。調査の結果、深堀部分でプライマリーな層を確認することができた。以下堆積状況の説明を行う。

I層 盛土・攪乱層（層厚100cm）

II層 茶褐色混じり灰褐色シルト質砂層（II層、III層の境界線は不明瞭。層厚II層+III層が70cm）

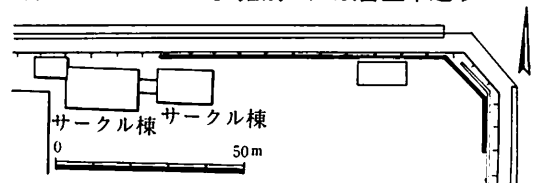
III層 橙褐色混じり灰褐色シルト質砂層

IV層 黒灰色シルト層

II・III・IV層は、郡元地区自家給水施設7号井戸揚水設備工事の際（C～H地点）に確認されたIII・IV・V層と一致するものと思われる。

#### 銀杏並木通り側溝フタ補修等工事に伴う立合調査（第8図）

本工事は、手続きの遅れのため掘削終了後立合調査を行うこととなった。掘削は、銀杏並木通りの側溝横を幅15cm、深さ10cm、総延長約120mの溝状に行われたが、盛土内にとどまり埋蔵文化財への影響は認められなかった。



第9図 教育学部前造園工事に伴う立合調査  
S=1/2,000

#### 教育学部前造園工事に伴う立合調査（第9図）

本工事は、手続きの遅れのため掘削終了後立合調査を行うこととなった。教育学部キャンパス北西隅の掘削は長さ81m、幅80cm、深さ50cmに及んで行われたが全て盛土内にとどまってお埋蔵文化財への影響は認められなかった。

## 第Ⅱ部 平成4年度（平成4年4月～12月） 鹿児島大学構内遺跡発掘調査報告

- 第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要
- 第2章 郡元団地K-12区における発掘調査報告
- 第3章 郡元団地L-11・12区における試掘調査報告
- 第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査報告

## 第1章 平成4年度（平成4年4月～12月）調査の概要

平成4年度においては発掘調査3件、試掘調査1件、立合調査3件を行った。以下、その概要について述べる。

### 本調査

- ・工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地発掘調査（平成4年6月18～25日、郡元団地K-12区）
- ・教育学部音楽美術棟建設予定地発掘調査（平成4年6月16日～10月3日、郡元団地O・P-4・5区）
- ・教育学部福利厚生施設建設予定地発掘調査（平成4年10月 日～12月25日、郡元団地O-7区）

### 試掘調査

- ・工学部稲盛ホール建設予定地試掘調査（平成4年10月20日～30日、郡元団地L-11・12区）

### 立合調査

- ・鹿児島大学Q T N e t 回線引き込み工事（平成4年9月2日、郡元団地H-9・L-10区）
- ・附属図書館南側自転車置き場移設工事（平成4年12月17・18日、郡元団地L-6・K-8・9区）
- ・附属図書館南側樹木移植及び撤去工事（平成4年12月17・18日、郡元団地L-6・J-4区）

工学部は応用化学工学科のエレベーター建設予定地と稲盛ホール建設予定地の調査を行ったが、エレベーター建設予定地は応用化学工学科棟に隣接した場所であったため、ほとんどが攪乱されており、わずかに水田層らしきものを残すのみであった。一方、稲盛ホール建設予定地に関しては、遺物の出土は少なかったものの、氾濫層と推定できる砂層の堆積と、その下に、黒色の粘質土で植物の繊維を多く含んでいる層を確認しており、当時低湿地であったことを示唆している。次に述べる教育学部の福利厚生施設建設予定地でも同一層確認しており、周辺の当時の環境を解明する上でも、今後の注意が必要であると考えられる。

教育学部では、近接する2地点の発掘調査を行った。教育学部は過去数回にわたって調査を行ってきたが、福利厚生施設の試掘調査結果<sup>2)</sup>から予想されていたとおり、古墳時代の遺物包含層を確認し、ピットや溝状遺構などの該期の遺構を確認した。両地点とも、該期の住居跡が確認されている鹿児島大学教育学部付属小・中学校や理学部・教養部の中間に位置し、この地点での遺構の確認は、当時の集落の復元に重要な資料となった。

教養部では図書館の樹木移植工事ともなう立合調査を行ったが、この地点は、古墳時代の住居跡が確認されている釘田第一地点<sup>3)</sup>の北側にあたり、古墳時代の遺物包含層の存在を確認した。遺物は小片が多かったが、遺物包含の密度は高く、また、工学部や教育学部での調査で出土したような摩滅したものではないため、遺構が存在している可能性が高い地点だと考えられる。



## 註

- 1) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅵ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年
- 2) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1989年
- 3) 「付編 釘田第1地点（鹿児島大学教養部）遺跡発掘調査報告」『南部九州における原始・古代の諸様相に関する総合的研究』鹿児島大学法文学部 1992年

## 第2章 郡元団地K-12区（工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地）における発掘調査報告

### 1 調査に至る経過

鹿児島大学工学部応用化学工学科では、身障者用施設としてエレベーターを設置する予定である。近隣の工学部危険物薬品庫<sup>1)</sup>、および工学部情報工学科<sup>2)</sup>では、以前の調査から、古墳時代から中世にかけての遺物や水田層、河川跡の存在が確認されている。このため、本建設予定地においても埋蔵文化財の包蔵が予想されたため、下記の体制で平成4年6月18日から25日にかけて発掘調査を行った。

### 2. 調査組織

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄  
調査担当 鹿児島大学鹿児島大学埋蔵文化財調査室  
室長 上村俊雄  
室員 前幸男・中村直子  
発掘調査作業員 石谷サチ子, 岩戸エミ子, 盛満アイ子, 脇ツルエ

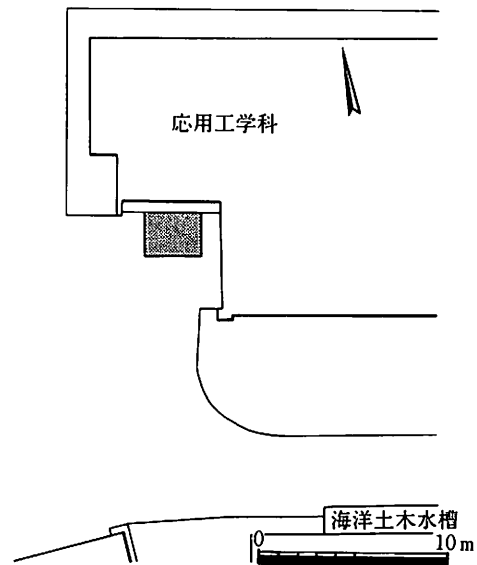
### 3. 調査の経過

調査にあたってはまず、建設予定地部分のアスファルトを重機により除去し、230cm×340cmのグリッドを設定した（第10図）。その後工事掘削深度である地表下140cmまで掘り下げを行い、調査を終了した。

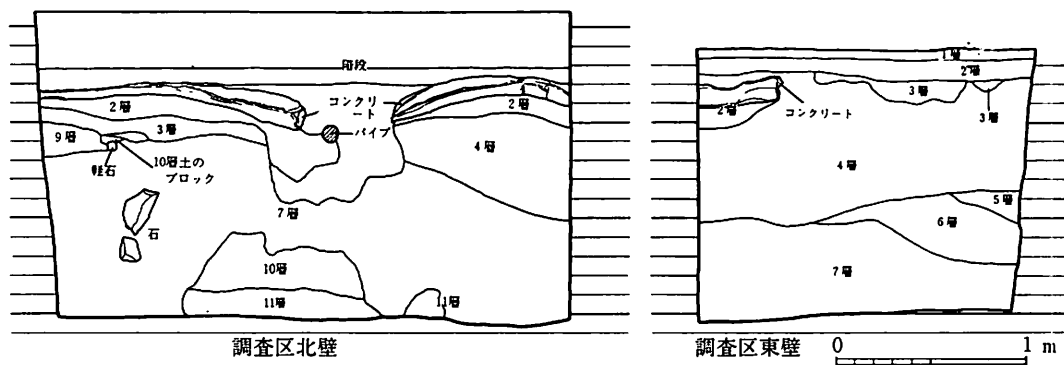
### 4. 層序（第11図）

本調査区における層序は以下のとおりである。

- 1層 アスファルト。
- 2層 暗緑灰色（7.5GY3/1）砂利層。
- 3層 暗灰黄色（2.5GY4/2）粗砂混じりシルト質層。炭、軽石、礫を含む。
- 4層 灰オリーブ色（5Y5/3）砂層。
- 5層 オリーブ色（5Y5/4）砂層。軽石、小礫を含む。



第10図 調査地点位置図 S = 1/400



第11図 層位断面図 S=1/40

- 6層 オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂混じりシルト質層。貝殻を多く含む。
- 7層 4層土を基調に6層土をブロック状に含む。
- 8層 4・5・6層土の混土 パイプ埋設時の攪乱。
- 9層 黒色 (10YR10/1) 粘質土と10層土との混土層。
- 10層 灰オリーブ色 (5Y5/2) 砂質シルト層。粒子細かく、マンガン粒を含みしまりがよい。
- 11層 オリーブ黄色 (5Y6/3) 砂質シルト層。粒子細かく、マンガン粒を含みしまりがよい。
- なお、これらの層のうち、1から9層まではすべて客土または攪乱層で、プライマリーな層は10層・11層のみであった。遺物の出土はなかった。

## 5. まとめ

本調査地点においては校舎に隣接していたということ、また、配水管が調査区の中央を通過していたということなどから、土層が攪乱されており、プライマリーな層は最下部の10・11層において確認されたのみで、遺物・遺構等は検出されなかった。10・11層はマンガン粒を含むことや、周辺で確認している水田層と色調、土質等が似ていることから、同じく水田層ではないかと思われる。

## 註

- 1) 鹿児島大学法文学部考古学研究室『神川堤第1地点遺跡』鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 1985年
- 2) 「付編Ⅱ. 鹿児島大学元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建設予定地)における発掘調査報告」『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』鹿児島大学埋蔵文化財調査室 1992年

# 第3章 郡元団地L-11・12区（稲盛ホール建設予定地） における試掘調査

## 1. 調査にいたる経過

鹿児島大学では、京セラ株式会社の寄付による稲盛ホール（仮称）の建設が計画されており、その建設地として工学部の南西隅、事務棟の西側が予定地とされた。本地点の北西約60mの地点では昭和58年に発掘調査が行われ<sup>1)</sup>、古墳時代から奈良時代にかけての水田などが検出され、該期の遺物も出土している。このため、鹿児島大学埋蔵文化財調査室では、本建設予定地における試掘調査を行い、埋蔵文化財包蔵の有無を確認することになった。

## 2. 調査体制

本試掘調査は平成4年10月20日から30日にかけて、下記の体制で行われた。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 大西智和・黒木綾子

発掘調査作業員 増満ミエ子・請園チリ・請園アキエ・西村チエ子・諏訪田フサエ

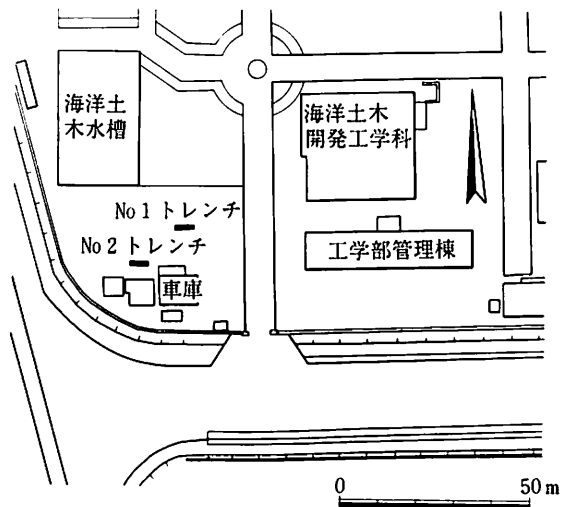
## 3 調査の経過

試掘トレンチは以前に建物があった場所を避け、第12図のように南北1m、東西5mのトレンチを2カ所設定した。東側のトレンチをNo.1トレンチ、西側のトレンチをNo.2トレンチと呼ぶことにする。

No.1トレンチは、地表から約1.5mの地点で、数個のピットを検出した。その後トレンチ東側を1m×1mの範囲で掘り下げた。その結果約1.5mの厚さで泥炭層が堆積していることがわかった。泥炭層の下には粗砂が堆積していたが、30cmほどで掘り下げを止めた。

No.2トレンチは地表から約1.7mまで掘り下げた。この層の上面で足跡状の遺構らしきものを検出した。

No.1・No.2トレンチの発掘終了状況の写真撮影後、No.1トレンチ遺構平面図、両トレンチの層位断面図を作成し、埋め戻しを行って作業を終了した。

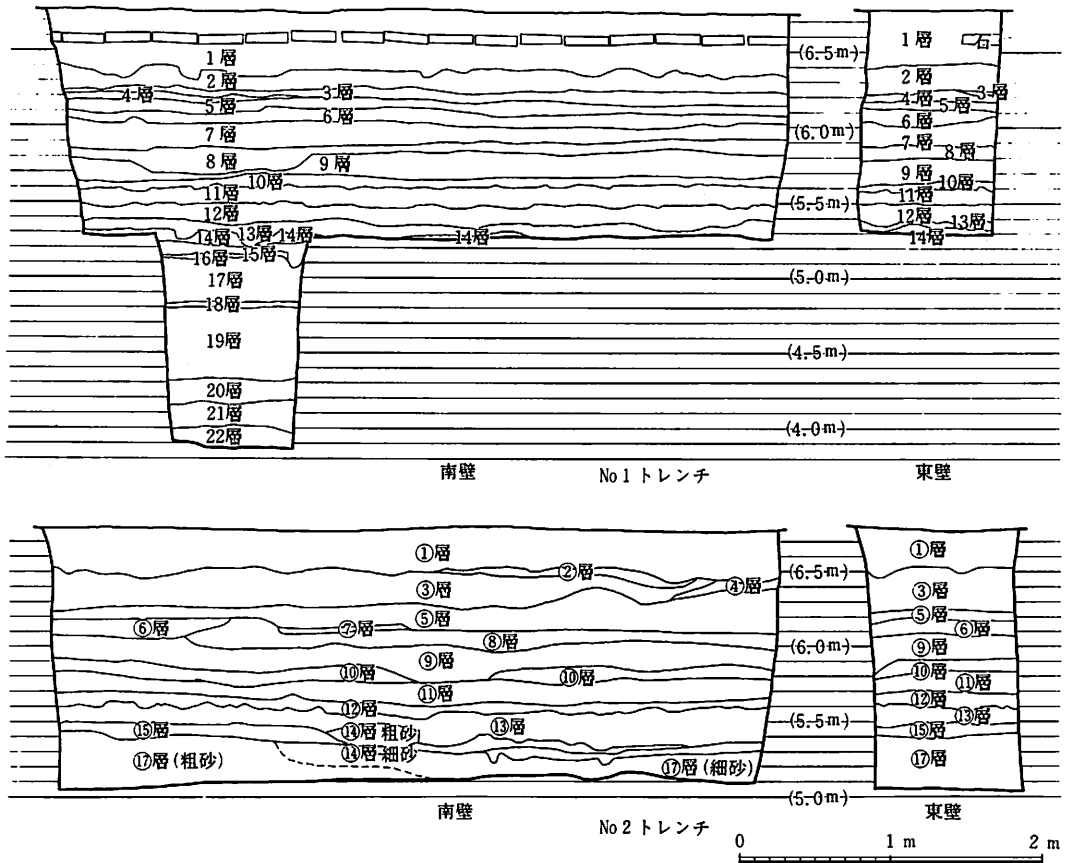


第12図 調査地点位置図 S=1/2,000

#### 4 層位

No.1 トレンチの層序は以下のとおりである (第13図)。

- 1層 表土として1層にまとめたが, 上から火山灰, シラス, 石畳, 火山灰, シラス, 攪乱土層に分けることができる。
- 2層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) (細) 砂質土層。
- 3層 にぶい赤褐色 (5YR4/3) (細) 砂質土層。
- 4層 褐色 (7.5YR4/3) (細) 砂質土層。
- 5層 褐色 (10YR4/4) (細) 砂質土層。
- 6層 灰黄褐色 (10YR5/2) (細) 砂質土層。
- 7層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) (細) 砂質土層。
- 8層 暗褐色 (10YR3/3) (細) 砂質土層。
- 9層 灰褐色 (7.5YR4/2) (細) 砂質土層。
- 10層 褐灰色 (10YR4/1) (細) 砂質土層。
- 11層 黄灰色 (2.5Y4/1) (細) 砂質土層。



第13図 層位断面図 S=1/50

- 12層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) (細) 砂質土層。  
 13層 黒褐色 (10YR4/1) 粘質 (細) 砂質土層。  
 14層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。  
 15層 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂層。  
 16層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。  
 17層 黒色 (7.5YR2/1) 粘質泥炭層。  
 18層 暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質泥炭層。  
 19層 黒色 (Value 1.5/) 粘質泥炭層。  
 20層 黒褐色 (7.5YR2/2) 粘質泥炭層。  
 21層 黒褐色 (5YR3/1) 粗砂層。植物の繊維を多く含み、木の破片なども見られる。松毬が1点出土している。  
 22層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂層。植物繊維が見られる。

No.2 トレンチの層序は以下のとおりである。

①層 表土として1層にまとめたが、上から火山灰、攪乱土層に分けることができる。

②層 褐色 (10YR4/6) (細) 砂質土層。

③層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) (細) 砂質土層。

④層 赤褐色 (5YR4/6) (細) 砂質土層。

⑤層 褐色 (10YR4/4) (細) 砂質土層。

⑥層 灰黄褐色 (10YR5/2) (細) 砂質土層。

⑦層 褐色 (7.5YR4/6) (細) 砂質土層。

⑧層 にぶい黄褐色 (10YR4/3) (細) 砂質土層。

⑨層 暗褐色 (10YR3/3) (細) 砂質土層。

⑩層 灰黄褐色 (10YR4/2) (細) 砂質土層。

⑪層 灰褐色 (7.5YR4/2) (細) 砂質土層。

⑫層 褐灰色 (5YR4/1) 粘質 (細) 砂質土層。

⑬層 黄灰色 (2.5Y4/1) (細) 砂質土層。

⑭層 褐灰色 (7.5YR5/1) 粗砂層で、部分により鉄分が沈着している。

⑮層 黄灰色 (2.5Y4/1) 粘質土層。

⑯層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂層で、軽石を含む。

⑰層 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂および暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂層。

⑱層 黒色 (7.5YR2/1) 粘質泥炭層。

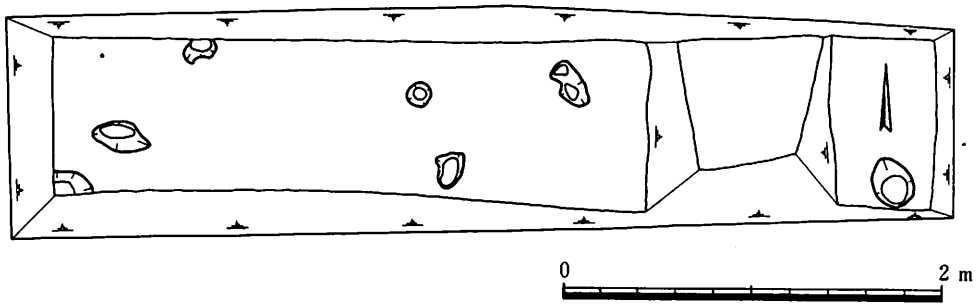
表2 層の対応

	No.1 トレンチ	No.2 トレンチ	備考
③層		③	
④層		④	
⑤層	2	⑤	
⑥層	3	⑥	
⑦層	5	⑦	
⑧層	6	⑧	
⑨層	7	⑨	
⑩層	8	⑩・⑪	同一層
⑪層	9		
⑫層	10	⑫	
⑬層	11	⑬	
⑭層	12・13	⑭	
⑮層	14	⑮	同一層
⑯層	17	⑯	同一層

なお、No.1 トレンチとNo.2 トレンチの層の対応関係は表2のようになると考えられる。

## 5 遺構 (第14図)

No.1 トレンチ14層上面でピットが7基検出された。ピットの埋土は13層と同じである。このため



第14図 No.1トレンチ遺構平面図 S=1/40

自然に埋没した可能性が高いと考えられる。

これらのピットの配置はランダムであり、また、形も不整形のものが多く、いずれも非常に浅い。このことから、これらの遺構の性格については、なお検討が必要である。

No. 2 トレンチでも、No. 1 トレンチで遺構が検出された14層に相当する⑩層で遺構の確認を行ったが検出することはできなかった。そして、東半分では⑩層はなく、河川の氾濫に起因すると思われる砂層が確認された。その堆積の状況ありかたから川の存在を想定し、砂層を掘り下げた。しかし、川は検出されなかったため、No. 1 トレンチで黒色泥炭層が検出された層（17層、No. 2 トレンチでは⑩層）で掘り進めるのを止めた。この層の上面からは多数の小さな穴が検出され、それらのいくつかは足跡状の形を呈している。しかし、それらは雑然としておりサイズのばらつきも大きいので、足跡であるのかどうかの決定にはいっそうの検討が必要である。

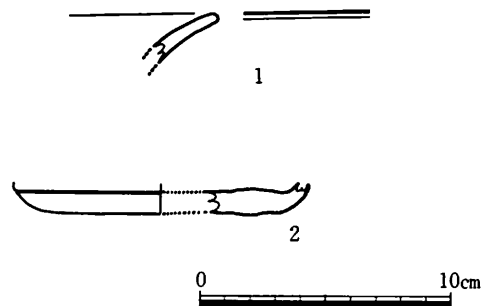
## 6 遺物（第15図）

No. 1 トレンチの7・8・9・14層、No. 2 トレンチの①・③・⑤・⑧・⑨・⑮から若干の遺物が出土している。いずれも小破片で摩滅の激しいものもあるため、二次的な移動を受けていると考えられる。出土遺物は素焼土器と陶磁器などである。上層では素焼土器に加え陶磁器の出土が多いが、下層からの陶磁器の出土は少ない。

1は須恵器の小破片で、壺の口縁と考えられる。やや湾曲しながら外反し、口唇部は丸くおさめる。残存部分の調整はすべて横方向のナデである。胎土には砂粒などはほとんど含まれず、色調は灰色（5Y5/1）を呈する。

2は土師器の皿である。内面調整は（回転）ナデであり、外面調整は摩滅のため不明である。底部径を9.6cmに復元したが、残存部分が少ないため多少の誤差があると考えられる。胎土には1辺1～2mmの砂粒を含み、色調は橙色（5YR6/6・5YR7/8）を呈する。

1・2はともにNo. 2 トレンチ⑧層からの出土である。



第15図 出土遺物 S=1/3

## 7 まとめ

今回の試掘調査では、水田層や泥炭の厚い層を確認することができた。この層位は昭和58年に行われた神川堤第一地点遺跡と同様の所見であるといえる。No.1トレンチ14層上面ではピットを、No.2トレンチでは泥炭層の上面で足跡状の遺構を検出した。今回の限られた範囲の発掘ではピットの性格および足跡かどうかの結論を下すことはできなかった。

泥炭層の上には砂がかなり厚く堆積しており、それは河川の氾濫によるものと考えられる。今回の調査ではこの砂層からの出土遺物はなかったが、もし見つければ、その氾濫がいつ頃であったのかを知ることができる。また、本地点では泥炭層が厚さ1.5mにもわたって形成されていることがわかった。泥炭層中から遺物の出土はなかったため、遺物によってその形成時期を知ることはできないが、自然科学的手法を用いることにより知ることは可能であろう。泥炭層は鹿児島大学構内遺跡郡元団地で普遍的に検出されるわけではない。そのため、その範囲を把握することは、古環境を知る上でも重要である。

遺構などが検出され、また遺物の出土もあることから、改めて本調査を実施することが必要であると判断される。

## 註

- 1) 鹿児島大学法文学部考古学研究室『神川堤第一地点遺跡』鹿児島大学工学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室 1985年



## 第4章 平成4年度（平成4年4月～12月）立合調査

平成4年4月から12月にかけては、下記の工事とともに立合調査を実施した。

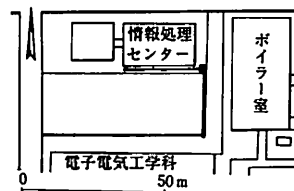
- ・鹿児島大学Q T N e t回線引き込み工事（平成4年9月2日，H-9・L-10区）
- ・附属図書館南側自転車置き場移設工事（平成4年12月17・18日，L-6・K-8，9区）
- ・附属図書館南側樹木移植及び撤去工事（平成4年12月17・18日，L-6・K-4区）

### 鹿児島大学Q T N e t回線引き込み工事に伴う立合調査（第16・17図）

Q T N e t回線の引き込み工事のため、電算気質の南側（第16図）と廃液処理室の北側（第17図）の掘削工事の立合調査を行った。掘削は電算機室の建物に沿って東西に幅60cm、地表下80cm、道路に沿って南北に幅35cm、地表下55cm、また、マンホール部分では地表下110cmにわたって行ったが、いずれも既掘部または盛土で、埋蔵文化財への影響はなかった。

第16図

廃液処理室の北側については、幅70cm、地表下120cmにわたって掘削を行ったが、既掘部で埋蔵文化財への影響はなかった。

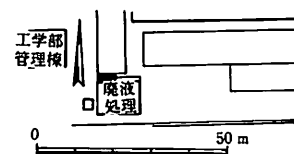


鹿児島大学Q T Net回線引き込み工事に伴う立合調査地点位置図(1) S=1/2,000

### 附属図書館南側自転車置き場移設工事に伴う立合調査（第18図A～C）

附属図書館南側の自転車置き場を移設するため、自転車置き場の撤去に伴う掘削工事（A地点）と移設する教養部自然棟北側（B・C地点）の立合調査を行った。A地点は地表面から約10cmの掘削に留まり、埋蔵文化財包含層への影響はみられなかった。

B・C地点は、約1.0×1.5mの方形の支柱部分をそれぞれ3カ所ずつの掘削を行っている。いずれも地表面から80cmの深度に及んでいる。掘削は攪乱層で留まったが、その底面に明茶褐色のシルト質砂層が露出し、これ以下に存在するプライマリーな層を確認した。



第17図 鹿児島大学Q T Net回線引き込み工事に伴う立合調査地点位置図(2) S=1/2,000

### 附属図書館南側樹木移植及び撤去工事に伴う立合調査（第18図D～F）

附属図書館南側の樹木（D地点）を教養部南側（E地点）と北側（F地点）に移植する工事とともに、立合調査を実施した。A地点は樹木の周りを径3mにわたって2カ所掘削を行った。深度は地表面から120cmに及んだが、もともと盛土の地点であったため、埋蔵文化財包含層への影響はみられなかった。

E地点は220cm四方の方形の範囲を2カ所掘削した。この地点からは以下のような土層が観察できた。

- 1層 攪乱層（層厚30cm）。



# 鹿児島大学構内遺跡調査要項

## ・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設 置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審 議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行なうため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

- (1) 基本計画の策定に関すること。
- (2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組 織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 各学部長，教養部長，附属図書館長，医学部附属病院長及び歯学部附属病院長
- (3) 事務局長
- (4) 学生部長

(委 員 長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議 事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

- (1) 調査実施計画に関すること。
- (2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。
- (3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。
- (4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

- (1) 各学部及び教養部の教授，助教授，講師の中から選任された者各1名
- (2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。  
(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行なうための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長、主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

## 付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和51年1月22日制定)は、廃止する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会委員(平成4年4月1日現在)

委員長 井形 昭弘(鹿児島大学学長)

委員 中村 雅麿(法文学部長)

伊牟田 経久(教育学部長)

佐竹 巖(理学部長)

福田 健夫(医学部長)

小片 丘彦（歯学部長）	宮内 徳之（工学部長）
大塚 閔一（農学部長）	日高 富男（水産学部長）
田川日出夫（教養部長）	河原田禮次郎（連合農学研究科長）
大山 勝（医学部附属病院長）	石丸 丸應（附属図書館長）
辰村 吉康（学生部長）	川越 昌宜（歯学部附属病院長）
川崎仁一郎（事務局長）	

・鹿兒島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成4年4月1日現在）

委員長 安藤 保（教育学部教授）	
委員 原口 泉（法文学部助教授）	立野 洋人（理学部助教授）
秋山 伸一（医学部教授）	小椋 正（歯学部教授）
徳廣 育夫（工学部教授）	西中川 駿（農学部助教授）
尾上 義夫（水産学部教授）	新田 栄治（教養部助教授）
上村 俊雄（調査室長併任 法文学部教授）	

・鹿兒島大学埋蔵文化財調査室（平成4年4月1日現在）

室長（併） 法文学部教授	上村 俊雄
主任（併） 法文学部助手	中村 直子
（併） 法文学部助手	大西 智和
技術補佐員	黒木 綾子
技術補佐員	前 幸男

## 受贈図書目録(1992年1月1日～1993年1月31日)

書名	発行機関	発行年
単行本		
釧路市立博物館50年史	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館収蔵資料目録(XII) 歴史資料目録(2)	釧路市立博物館	1992年
津久井町三ヶ木遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
かながわの考古学 第2集 神奈川県下における集落変遷の分析	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
向原遺跡の調査	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
いま信濃の歴史はよみがえる－10年の成果と歩み 財団法人成立10周年記念誌－	長野県・長野県教育委員会・財団法人長野県文化財センター	1992年
戸山屋敷銅鐸考	名古屋市博物館	1992年
『瓦礫舎』	名古屋市博物館	1992年
10年のあゆみ(1981→1991)	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
第6回泉州の遺跡－平成2年度発掘成果展－	㈱大阪府埋蔵文化財協会	1991年
日根荘総合調査が語るもの	㈱大阪府埋蔵文化財協会	1991年
第7回泉州の遺跡－平成3年度の調査成果から－	㈱大阪府埋蔵文化財協会	1992年
大阪府下埋蔵文化財研究所(第21回)資料	㈱大阪文化財センター	1990年
やおの埋蔵文化財	㈱八尾市文化財調査研究会	1992年
10周年記念特別展示図録－八尾を掘る－10年の歩み	㈱八尾市文化財調査研究会	1992年
荒神谷遺跡の謎を解く ブックレット③	簸川郡斐川町教育委員会	1991年
荒神谷遺跡と神話 荒神谷遺跡をたずねて ブックレット④	簸川郡斐川町教育委員会	1992年
「明王院」展示図録	広島県立歴史博物館	1991年
「広島県の重要文化財1」展示図録	広島県立歴史博物館	1992年
古代社会を探る	北筑後文化財行政連絡協議会	1992年
塩田のやきもの 志田焼展	塩田町歴史民俗資料館	1991年
塩田のやきもの 第2回特別展	塩田町歴史民俗資料館	1991年
八代市史 第1巻	八代市教育委員会	1992年
松井文庫の精華－その歴史と美術－	八代市立博物館未来の森ミュージアム	1991年
第10回特別展展示図録「九州の土人形－その歴史と世界－」	大分市歴史資料館	1991年
琉球王国－大交易時代とグスク－	沖縄県立博物館	1992年
楚辺の民話	読谷村教育委員会・歴史民俗資料館	1992年

定期刊行物・雑誌・冊子

調査年報4 平成3年度	北海道埋蔵文化財センター	1991年
釧路市立博物館館報 No.330	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 No.331	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 No.332	釧路市立博物館	1991年
釧路市立博物館館報 No.333	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 No.334	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 No.335	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館館報 No.336	釧路市立博物館	1992年
釧路市立博物館紀要 第17輯	釧路市立博物館	1992年
とまこまい埋文だより No.27	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	1992年
起用 X II	岡山県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
東北大学埋蔵文化財調査年報4・5	東北大学埋蔵文化財調査委員会	1992年
年報11 平成3年度	岡山県教育財団	1992年
研究ノート 創刊号	岡山県教育財団	1992年
歴史人類 第20号	筑波大学歴史・人類学系	1992年
平成元年度 市立市川考古博物館年報 第18号	市立市川考古・歴史博物館	1990年
考古・歴史博物館ニュース ほりのうち No.14	市立市川考古・歴史博物館	1991年
平成2年度 市立市川考古博物館年報 第19号	市立市川考古・歴史博物館	1991年
考古・歴史博物館ニュース ほりのうち No.15	市立市川考古・歴史博物館	1992年
千葉県立房総風土記の丘年報14	千葉県立房総風土記の丘	1991年
天然記念物総合診断報告書(第2報)	神奈川県教育委員会文化財保護課	1992年
神奈川県立埋蔵文化財センター年報10	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
神奈川県立埋蔵文化財センター年報11	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
長野県埋蔵文化財ニュースNo.33	長野県埋蔵文化財センター	1991年
長野県埋蔵文化財ニュースNo.34	長野県埋蔵文化財センター	1992年
長野県埋蔵文化財センター年報 8	長野県埋蔵文化財センター	1992年
金沢大学資料館だより 第3号	金沢大学資料館	1992年
金大考古 第19号	金沢大学文学部考古学研究室	1991年
ふくいミュージアムNo.21	福井県立博物館	1992年
文化財保護センターだより きずな第3号	岐阜県文化財保護センター	1992年
文化財保護センターだより きずな第4号	岐阜県文化財保護センター	1992年
名古屋市博物館 研究紀要第15巻	名古屋市博物館	1992年
名古屋市博物館だより 第85号	名古屋市博物館	1992年
名古屋市博物館だより 第86号	名古屋市博物館	1992年
名古屋市博物館だより 第87号	名古屋市博物館	1992年
名古屋市博物館だより 第88号	名古屋市博物館	1992年
滋賀埋文ニュース第141号	滋賀県埋蔵文化財センター	1991年
滋賀埋文ニュース第142号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年

滋賀埋文ニュース第143号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第144号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第145号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第146号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第147号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第148号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第149号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第150号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第151号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第152号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
滋賀埋文ニュース第153号	滋賀県埋蔵文化財センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第42号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	1991年
京都府埋蔵文化財情報 第43号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第44号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都府埋蔵文化財情報 第45号	財京都府埋蔵文化財調査研究センター	1992年
京都大学構内遺跡調査研究年報 1988年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	1992年
大阪市文化財情報 葦火 36号	財大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 葦火 37号	財大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 葦火 38号	財大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 葦火 39号	財大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 葦火 40号	財大阪市文化財協会	1992年
大阪市文化財情報 葦火 41号	財大阪市文化財協会	1992年
財大阪府埋蔵文化財協会 研究紀要	財大阪府埋蔵文化財協会	1988年
財大阪府文化財センター通信No.4・5	財大阪文化財センター	1990年
大佐文化財研究 第2号	財大阪文化財センター	1991年
東大阪市文化財協会ニュース Vol. 5, No. 4	財東大阪市文化財協会	1992年
財枚方市文化財研究調査会 研究紀要 第2集	財枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第10号	財枚方市文化財研究調査会	1992年
枚方市文化財年報 11 (1989年度)	財枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第11号	財枚方市文化財研究調査会	1992年
ひらかた文化財だより 第12号	財枚方市文化財研究調査会	1992年
枚方市文化財年報 12 (1990年度分)	財枚方市文化財研究調査会	1992年
遺跡ガイド5 新池遺跡	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド6 塚原古墳群	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド7 群家今城遺跡	高槻市教育委員会	1991年
遺跡ガイド8 宮田遺跡	高槻市教育委員会	1991年
高槻市文化財年報 平成2年度	高槻市教育委員会	1992年
城郭研究室年報 Vol. 1	姫路市立城郭研究室	1992年
奈良市埋蔵文化財阿調査センター紀要 1991	奈良市教育委員会	1992年
文化財学報 第七集	奈良大学文学部文化財学科	1989年



文化財学報 第八集	奈良大学文学部文化財学科	1990年
文化財学報 第九集	奈良大学文学部文化財学科	1991年
文化財学報 第十集	奈良大学文学部文化財学科	1992年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第6号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1991年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第7号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第8号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山大学構内遺跡調査研究年報 8	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1991年
岡山大学構内遺跡調査研究年報 9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
岡山理科大学蒜山研究所 研究報告 第17号	岡山理科大学蒜山研究所	1991年
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所年報 1990 草戸千軒町遺跡-第44・45次発掘調査概要-	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	1991年
広島県立歴史博物館ニュース 第9号	広島県立博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第10号	広島県立博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第11号	広島県立歴史博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第12号	広島県立歴史博物館	1992年
広島県立歴史博物館ニュース 第13号	広島県立歴史博物館	1993年
歴風ニュース 第2号	広島県立歴史民俗資料館	1991年
歴風ニュース 第3号	広島県立歴史民俗資料館	1992年
歴風ニュース 第4号	広島県立歴史民俗資料館	1992年
広島大学統合移転地理埋蔵文化財発掘調査年報 V	広島大学統合移転地理埋蔵文化財調査委員会	1992年
山口大学構内遺跡調査研究年報 X	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
山口大学埋蔵文化財資料館だより No.14	山口大学埋蔵文化財資料館	1991年
山口大学埋蔵文化財資料館だより No.15	山口大学埋蔵文化財資料館	1991年
山口大学埋蔵文化財資料館だより No.16	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
山口大学埋蔵文化財資料館だより No.17	山口大学埋蔵文化財資料館	1992年
松山市埋蔵文化財調査年報IV	㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	1992年
松山市埋蔵文化財調査年報III	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
九州文化史研究所紀要 第37号〔比較考古学部門 関係抜刷集〕	九州大学文学部九州文化史研究施設	1992年
佐世保市博物館 島瀬美術センターだより No.26	島瀬美術センター	1992年
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース No.27	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1992年
大分市埋蔵文化財調査年報 1-平成元年度-	大分市教育委員会	1990年
大分市歴史資料館ニュース No.16	大分市歴史資料館	1991年
大分市歴史資料館ニュース No.17	大分市歴史資料館	1991年
大分市歴史資料館ニュース No.18	大分市歴史資料館	1992年
大分市歴史資料館年報 1991	大分市歴史資料館	1992年
別府大学付属博物館だより No.35	別府大学付属博物館	1991年
別府大学付属博物館だより No.36	別府大学付属博物館	1992年

別府大学付属博物館だより No.37	別府大学付属博物館	1992年
別府大学付属博物館だより No.38	別府大学付属博物館	1992年
阿中考古 第3号	阿中考古同人	1992年
鹿大考古学会会報 第11・12合併号	鹿児島大学考古学会	1991年
鹿児島大学情報処理センター 広報 1992 Vol. 5 No.1	鹿児島大学情報処理センター	1992年
南九州縄文通信 No.5	南九州縄文研究会	1991年
南九州縄文通信 No.6	南九州縄文研究会	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告 No.47	南方科学研究資料センター	1991年
鹿児島大学南科研資料センター報告 No.48	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告 No.49	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南科研資料センター報告特別号第4号	南方科学研究資料センター	1992年
鹿児島大学南方科学研究委員会総合研究平成元・ 2年度 桜島		
沖縄県立博物館紀要 第18号	沖縄県立博物館	1992年
沖縄県立博物館年報 No.25	沖縄県立博物館	1992年
読谷村立歴史民俗資料館紀要 第16号	読谷村教育委員会	1992年
読谷村立歴史民俗資料館紀要 第17号 調査報告書	読谷村立歴史民俗資料館	1992年
田中館跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1991年
梅ノ木台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1991年
細野Ⅱ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
本宿遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
経塚長根・経塚森遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
細浦Ⅰ遺跡・細浦Ⅱ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上鬼柳Ⅳ跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
川向遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
徳丹城跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
八ツ長Ⅱ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
鼻館跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
本郷遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
林崎館遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
花口Ⅰ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
上八木田Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1992年
ヨナ川遺跡・大館遺跡・小館遺跡	㈱茨城県教育財団	1990年
銀鬼塚・沢三木台遺跡	㈱茨城県教育財団	1990年
柴崎遺跡Ⅲ区	㈱茨城県教育財団	1992年
上ノ台遺跡・岡ノ内遺跡	㈱茨城県教育財団	1992年
東原遺跡・石伏南遺跡	㈱茨城県教育財団	1992年

柏木古墳群	㈱茨城県教育財団	1992年
裏山遺跡	㈱茨城県教育財団	1992年
沢田遺跡(上)	㈱茨城県教育財団	1992年
沢田遺跡(下)	㈱茨城県教育財団	1992年
嵩久保一里塚	土浦市教育委員会	1989年
茨城県指定遺跡 土浦城址発掘調査報告書	土浦市教育委員会	1989年
木田余台	土浦市教育委員会	1989年
木田余台Ⅰ	土浦市教育委員会	1991年
土浦市 八幡下遺跡発掘調査報告書	土浦市教育委員会	1991年
国指定遺跡 上高津貝塚の発掘	土浦市教育委員会	1992年
天神前遺跡	君津広域水道企業団・㈱君津郡市文化財センター	1992年
郡条里遺跡Ⅱ	君津市・㈱君津郡市文化財センター	1992年
荒井子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1990年
前山Ⅱ遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1990年
大國塚2号墳	山武考古学研究所	1991年
高田城址発掘調査報告書	山武考古学研究所	1991年
長美代遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
春蔵遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
立木遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
小杉町小杉流通業務団地内№1遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
上台・大近平遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
宮崎-14遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
宮平遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	1992年
市立市川考古博物館研究調査報告 第5冊 堀ノ内貝塚資料図譜	市立市川考古・歴史博物館	1992年
内裏塚古墳群	新日本製鐵株式会社・㈱君津郡市文化財センター	1992年
下北原遺跡	千葉県木更津土地改良事務所・㈱君津郡市文化財センター	1992年
小谷遺跡発掘調査報告書	中央技建工業株式会社・㈱君津郡市文化財センター	1992年
四留作第2古墳群第1号墳 四留作第1号塚・第2号塚	内海産業株式会社・㈱君津郡市文化財センター	1992年
富士見台遺跡Ⅲ	富沢産業株式会社・㈱君津郡市文化財センター	1992年
小浜遺跡群-俵ヶ谷遺跡-	木更津市小浜土地地区画整理組合・㈱君津郡市文化財センター	1991年
請西遺跡群Ⅱ	木更津市請西第二土地地区画整理組合・㈱君津郡市文化財センター	1991年

越野 - 越野遺跡発掘調査報告書 -	学校法人帝京大学	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第4巻 弥生時代～近世・近代	慶応義塾	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第3巻 縄文時代Ⅱ部	慶應義塾	1992年
湘南藤沢キャンパス内遺跡 第2巻 岩宿時代・縄文時代Ⅰ部	慶應義塾	1992年
神崎遺跡発掘調査報告書	綾瀬市教育委員会・神崎遺跡発掘調査団	1992年
長竹遺跡	上粕屋厚木線発掘調査団	1992年
神奈川県埋蔵文化財調査報告34	神奈川県教育委員会	1992年
清川村宮ヶ瀬遺跡群 ナラサス・ナラサス北遺跡調査の概要	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
上溝6丁目遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
宮ヶ瀬遺跡群Ⅱ	神奈川県立埋蔵文化財センター	1991年
川尻遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
向原遺跡Ⅱ	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
三ヶ木遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年
大谷真鯨遺跡	大谷真鯨遺跡調査団	1992年
海老名本郷 (Ⅶ)	富士ゼロックス株式会社・本郷遺跡調査団	1992年
下茂内遺跡	日本道路公団東京第二建設局・長野県教育委員会・財団法人長野県文化財センター	1992年
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書3-大室古墳-	日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター	1992年
古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量報告	新津市教育委員会	1992年
堂ヶ作山古墳Ⅱ 1991年発掘調査概報	堂ヶ作山古墳調査団・会津若松市教育委員会	1992年
宮下遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	1992年
門坂シズマ遺跡	(財)岐阜県文化財保護センター	1992年
小の原遺跡・戸入障子暮遺跡	岐阜県教育委員会	1991年
史跡高山陣屋跡	岐阜県教育委員会・(財)岐阜県文化財保護センター	1992年
城之内遺跡Ⅱ	岐阜県教育委員会・(財)岐阜県文化財保護センター	1992年
川山遺跡発掘調査報告書	浜松市教育委員会	1991年
新庄城遺跡	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1991年
針江中遺跡・針江南遺跡	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1991年
針江北遺跡・針江川北遺跡(Ⅰ)(本文編)	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1992年
針江北遺跡・針江川北遺跡(Ⅰ)(図版編)	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1992年
唐橋遺跡(本文編)	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1992年
唐橋遺跡(図版編)	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1992年
服部遺跡発掘調査報告書Ⅱ(本文編)	滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1985年

服部遺跡発掘調査報告書Ⅱ（図版編）	滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1985年
野路小野山遺跡発掘調査報告書（本文編）	滋賀県教育委員会・草津市教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1990年
野路小野山遺跡発掘調査報告書（図版編）	滋賀県教育委員会・草津市教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	1990年
京都市内遺跡試掘調査概報	京都市文化観光局	1992年
京都市内遺跡立合概報	京都市文化観光局	1992年
焼場炭窯跡発掘調査概報 平成3年度	京都市文化観光局	1992年
平安京跡発掘調査概報 平成3年度	京都市文化観光局	1992年
旧佐賀藩大阪倉屋敷船入遺構調査報告	(財)大阪市文化財協会	1992年
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅰ	(財)大阪市文化財協会	1992年
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ	(財)大阪市文化財協会	1992年
長原遺跡発掘調査報告Ⅲ	(財)大阪市文化財協会	1992年
長原遺跡発掘調査報告Ⅳ	(財)大阪市文化財協会	1992年
難波宮址の研究 第九（本文）	(財)大阪市文化財協会	1992年
難波宮址の研究 第九（図面・図版）	(財)大阪市文化財協会	1992年
山之内遺跡B地区・山直北遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1988年
上フジ遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1988年
高向	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1989年
遺跡福瀬遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1989年
二俣池北遺跡・上フジ遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1989年
三軒屋遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1989年
貝ノ池遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
高向遺跡Ⅱ	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
山直中遺跡Ⅱ	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
小田遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
大場遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
福瀬遺跡Ⅱ	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
黒石遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
山ノ内遺跡Ⅱ 他（山ノ内・山直北・二俣池北遺跡）	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1990年
三ヶ山西遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
加治・神前・畠中遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
池園遺跡Ⅱ	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
中開遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
母山遺跡	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
脇浜遺跡Ⅲ	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
日根荘とその周辺	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991年
太井遺跡（その4ほか）・日置荘遺跡（その1-2）-調査の概要-	(財)大阪文化財センター・大阪府教育委員会	1990年

西ノ辻遺跡第28・29次発掘調査報告	財東大阪市文化財協会	1991年
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告Ⅰ －1990年度－	財東大阪市文化財協会	1991年
小阪合遺跡（本文編）	財八尾市文化財調査研究会	1991年
小阪合遺跡（図版編）	財八尾市文化財調査研究会	1991年
成法寺遺跡〈第1次調査～第4次調査・第6次調査報告書〉	財八尾市文化財調査研究会	1991年
八尾市埋蔵文化財発掘調査報告 1991年	財八尾市文化財調査研究会	1991年
平成3年度 財八尾市文化財調査研究会事業報告	財八尾市文化財調査研究会	1992年
嶋上遺跡群16	高槻市教育委員会	1992年
桜井谷窯跡群2－23号窯跡	大阪大学桜井谷窯跡群調査団	1991年
長法寺南原古墳の研究	大阪大学南原古墳調査団	1992年
雪野山古墳Ⅱ－第2次・第3次発掘調査概報－	大阪大学文学部考古学研究室 大阪大学考古学友の会	1992年
陶邑・大庭寺遺跡－本文編－	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1989年
陶邑・大庭寺遺跡－図版編－	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1989年
平井遺跡Ⅱ	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1989年
池田寺遺跡Ⅱ	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
唐国泉谷遺跡	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・大庭寺遺跡Ⅱ－本文編－	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・大庭寺遺跡Ⅱ－図版編－	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・伏尾遺跡－A地区－（本文編）	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
陶邑・伏尾遺跡－A地区－（図版編）	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1990年
池田寺遺跡Ⅲ	大阪府教育委員会・財大阪府埋蔵文化財協会	1991年
平城京東市跡推定地の調査 X	奈良市教育委員会	1992年
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成3年度	奈良市教育委員会	1992年
上久々茂土居跡	島根県教育委員会	1992年
キタバタケ遺跡発掘調査報告書	邑智郡川本町教育委員会	1992年
尼子陣所跡発掘調査報告書	邑智郡大和村教育委員会	1992年
津島岡大遺跡 3	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1992年
祝谷アイリ遺跡	財松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
来住・久米地区の遺跡	財松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
桑原地区の遺跡－本文編－	財松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
桑原地区の遺跡－図版編－	財松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
文京遺跡－第2・3・5次遺跡－	財松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年

朝美鐸遺跡・辻町遺跡	㈱松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
道後城北遺跡群	㈱松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1992年
南江戸岡目遺跡	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
寺堀遺跡	㈱松山市生涯学習振興財団・埋蔵文化財センター	1991年
北谷王神ノ木古墳・塚本古墳	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
来往庵寺	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
祝谷六丁場遺跡－調査報告1－（本文編）	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
祝谷六丁場遺跡－調査報告1－（図版編）	松山市教育委員会 松山市立埋蔵文化財センター	1991年
富久遺跡調査報告書	苅田町教育委員会	1990年
松蔭天疫神社古墳群	苅田町教育委員会	1988年
谷遺跡調査報告書	苅田町教育委員会	1990年
松山古墳群調査報告書	苅田町教育委員会	1991年
谷遺跡Ⅲ地区	苅田町教育委員会	1991年
豊前国松山城跡（土塁）	苅田町教育委員会	1991年
若久遺跡	苅田町教育委員会	1992年
富久遺跡Ⅱ地区	苅田町教育委員会	1992年
豊前国松山城跡	苅田町教育委員会	1992年
津古土取遺跡	小郡市教育委員会	1992年
久里双水古墳確認調査概要報告	唐津市教育委員会	1992年
神田中村遺跡	唐津市教育委員会	1992年
中尾二ツ枝(2)	唐津市教育委員会	1992年
唐津市内遺跡確認調査(7)	唐津市教育委員会	1992年
土井の浦古窯跡	大村市教育委員会	1991年
竹ノ内遺跡	宇佐郡安心院町教育委員会	1991年
上野遺跡	大分市教育委員会	1991年
下郡遺跡群	大分市教育委員会	1991年
田代ヶ八重遺跡	宮崎県教育委員会	1992年
天ヶ谷遺跡	西諸県郡野尻町教育委員会	1992年
鳥越古墳群	阿久根市教育委員会	1992年
竹牟礼遺跡・蒲生城二ノ丸跡	始良郡蒲生町教育委員会	1992年
赤松ヶ入野遺跡	始良郡霧島町教育委員会	1992年
一寸原遺跡・千河原遺跡	加世田市教育委員会	1992年
鍛冶屋馬場遺跡・亀ノ里遺跡	国分市教育委員会	1989年

国府（小路）遺跡	国分市教育委員会	1990年
鶴ノ里遺跡	国分市教育委員会	1990年
奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅲ	鹿児島県教育委員会	1991年
鹿児島城二之丸跡（遺構編）	鹿児島県教育委員会	1991年
春田遺跡・石塚遺跡・坂ノ下遺跡	鹿児島県教育委員会	1991年
平松原遺跡	鹿児島県教育委員会	1991年
榎崎A遺跡	鹿児島県教育委員会	1992年
鹿児島城二之丸跡（遺物編）	鹿児島県教育委員会	1992年
新番所後Ⅱ遺跡	鹿児島県教育委員会	1992年
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅰ）	鹿児島県教育委員会	1992年
和遺跡	鹿児島県和泊町教育委員会	1992年
造士館・演武館跡	鹿児島市教育委員会	1992年
掃除山遺跡 下巻	鹿児島市教育委員会	1992年
谷山弓場城跡 上巻	鹿児島市教育委員会	1992年
大龍遺跡	鹿児島市教育委員会	1992年
福昌寺跡	鹿児島市教育委員会	1992年
史跡旧集成館「鋳物場跡」発掘調査報告書	鹿児島大学法文学部考古学研究室	1991年
御釣場古墳（2号墓）	川内市教育委員会	1991年
一里塚遺跡・七塚畑遺跡	大隅町教育委員会	1990年
深迫遺跡・山迫遺跡	大隅町教育委員会	1991年
西之園遺跡	大隅町教育委員会	1991年
新田遺跡	大口市教育委員会	1992年
一字治城跡	日置郡伊集院町教育委員会	1992年
宇茂佐古島遺跡	名護市教育委員会	1992年
大むかしの大井（現地説明会資料）	神奈川県立埋蔵文化財センター	1992年



# 付 編

- I. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介
- II. 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地H-11地域共同センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果

# I. 鹿児島大学郡元団地H-11・12区工学部情報 工学科棟建設地発掘調査河2出土遺物の紹介

鹿児島大学埋蔵文化財調査室においては、平成2年12月6日から平成3年3月19日にかけて、工学部情報工学科校舎建設予定地における発掘調査を実施した。この調査では数期にわたる河川の跡を検出し、これについては既に『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ』で報告しているが、整理作業の都合上、河2から出土した遺物の報告は本年報で行うことになった。河2からは縄文時代・弥生時代・古墳時代・中近世の遺物が出土している。なかでも、弥生・古墳時代の遺物が主体を占める。以下、説明を加え、観察表を提示した。

## 縄文土器（第19・20図）

第19図1（以下、19-1と表記する）は口縁部であるが、外面に明瞭な条痕を、口唇部外面には刻みを施している。

19-2～6は外面に細い突帯を施し、それに細かい刻み目を入れるもので、突帯間を沈線で埋めるものもある。2は口縁部で、上面には連点刺突文を施している。19-7～9は貝殻腹縁刺突文の間を貝殻条痕文によって埋めるものである。19-10は外面と口縁部上面に細かい突帯を数条張り付け、内面には貝殻条痕による押し引き文を横方向に2条施すものである。19-11は外面に小さな細長い突起を張り付けたものである。2～11は深浦式である。

19-12は、船元式系の土器で、外面は突帯の上下とその内面には縄文を施している。

19-13は口縁部を肥厚させ、環状の突起を付けたもので、沈線と連点によって施文している。

19-14は外面に凹線文を施したものである。

19-15は、胴部で屈曲部に突帯を張り付け、刻みを施し、その下は横方向の沈線を4条施したものである。

19-16は口縁部で、斜方向の複数の沈線と、その下に横方向の沈線を施している。出水式系土器であろうと考えられる。

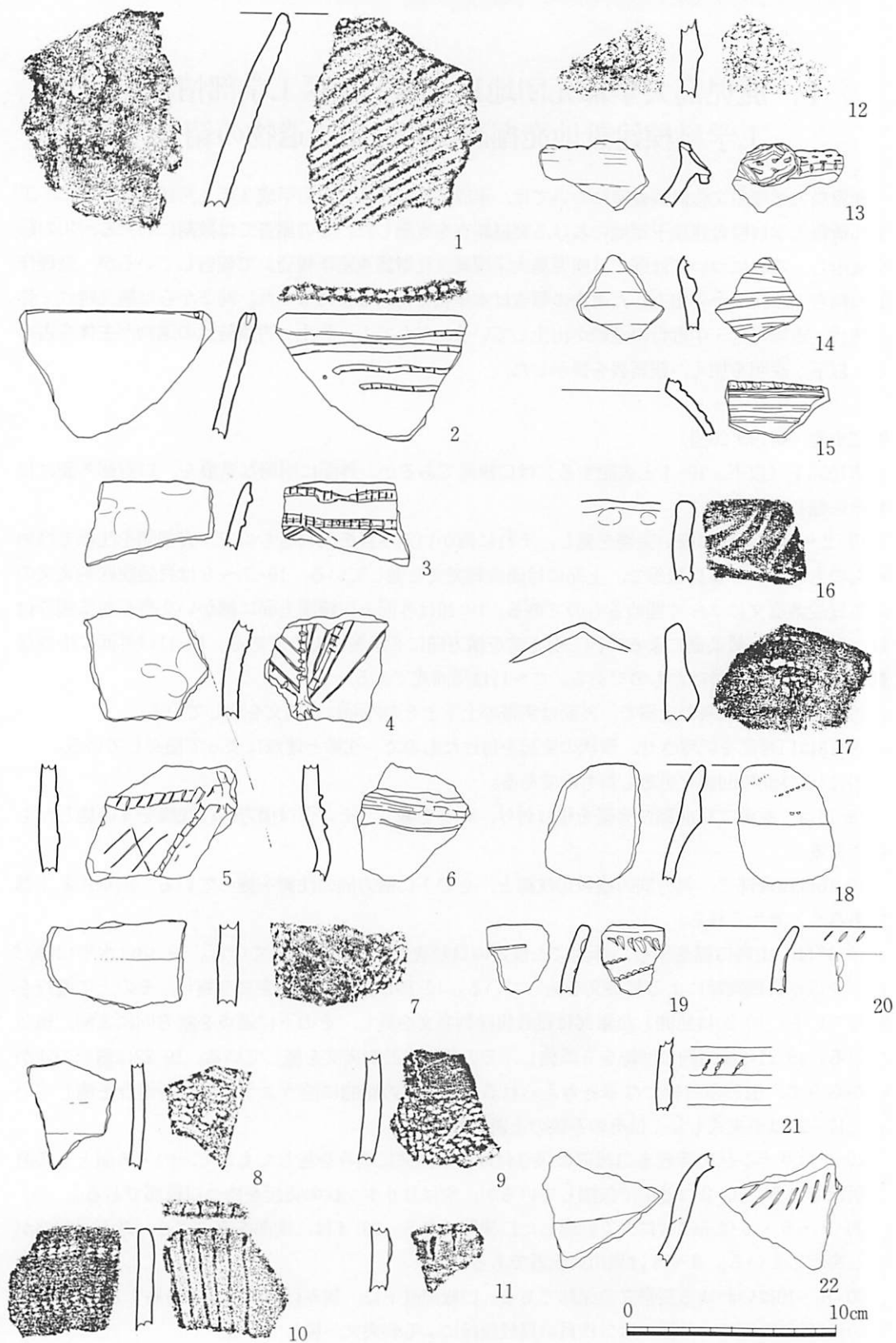
19-17は、山形口縁を呈し、外面に二枚貝の貝殻腹縁刺突文を施している。19-18は水平口縁だが、やはり貝殻腹縁による刺突文を施している。19-19は貝殻腹縁刺突文を施し、その上に連点を施している。19-20は屈曲した単部に貝殻腹縁刺突文を施し、その下に連点を縦方向に2個、施している。19-21は横方向の凹線を3条施し、その間に貝殻刺突文を施している。19-22は器形のゆがみからみて、山形の口縁になると考えられるが、胴部の屈曲に沿うように縦長の連点を施している。17～22は市来式もしくはその系統の土器である。

20-1はリボン状の突起を口縁部に張り付け、口唇部に刻みを施したもので、内・外面とも条痕が明瞭である。20-2は途中で欠損しているが、やはりリボン状の突起を持つ口縁部である。

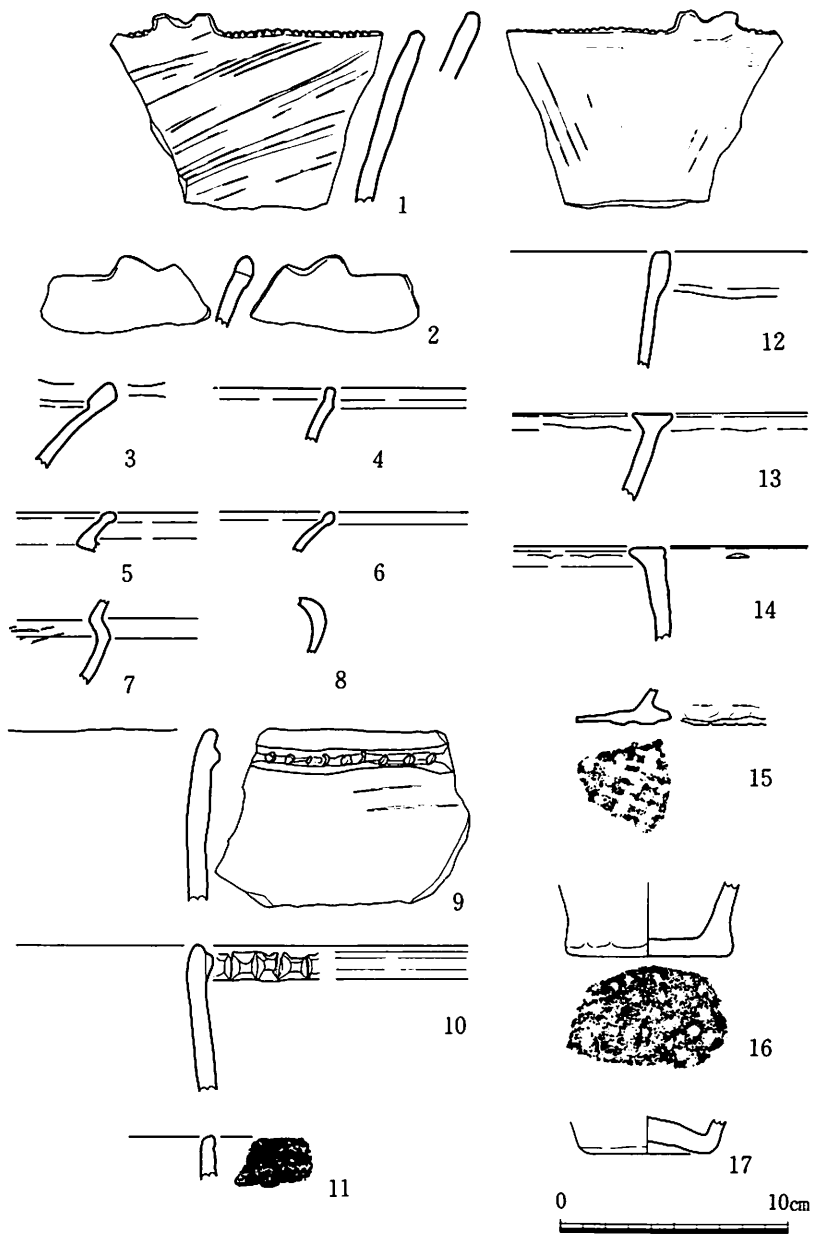
20-3・5・6は玉縁状に丸く肥厚した口縁部である。20-4は、端部を直立させ、外面屈曲部が少し突起している。3～8は黒川式土器である。

20-9・10はいわゆる突帯文の深鉢である。口縁部直下に、刻み目突帯文を1条施す。

20-11は口縁部で、外面には二枚貝の貝殻腹縁による刺突文が施している。



第19图 河2出土遺物(1) S=1/3



第20図 河2出土遺物(2) S=1/3

20-12は口縁部を肥厚させたもので、非常に摩滅している。

20-13は口縁部上面が水平で、内・外面に張り出す形態を呈する。20-14は内面のみに張り出している。

20-15～17は底部である。15、16は網代底である。16は非常に摩滅しているため網代の種類は不明だが、15はもじり編みのようである。岡元満子氏による編み方の分類<sup>1)</sup>によると、2本1組の経で緯を1本ずつ絡めていく6類に当たるようである。17は上げ底状を呈する。

### 甕形土器（第21図～第26図）

甕形土器（以下、甕と呼ぶ）は弥生時代前期から古墳時代までのものが出土している。

第21図と22-12～17は、口縁部に突帯を張り付け断面三角形状を呈するもので、口唇部に刻みを持つもの（21-4・10～13・20～26・22-12～14）と持たないもの（21-1～3・5～9・14～19, 22-15, 16）がある。刻みは、端部に小さく施している。口縁部下に突帯を1条施す（21-5・14・21・26）ものもある。22-2は、口縁部下縦に突帯を1条施している。22-13は、ちょうど欠損部にかかっているが、口縁部下に焼成後穿孔が認められる。22-12～17は、口縁部直下に突帯を1条施すものである。

22-1～11, 23-1～6は、口縁部が少し伸び、口縁部上面に平坦面を持ち、端部はヨコナデ調整を行うことによって、くぼむ形態を呈する。胴部に複数の横沈線を施すもの（22-1・23-1）、また突帯を施すもの（22-2・4・5・9～11）がある。突帯には三角突帯と、絡縄突帯が認められる。22-6は、外面に波状文を、口縁部上面にハの字状の沈線を施し、いずれも櫛描きである。

23-7～9は、口唇部のヨコナデ部が、くぼまず、平坦になっているものである。23-8は一条の突帯を施し、23-9は1条の沈線を施している。

23-10～12は口縁部がさらに伸びたもので、端部がへの字状に下向きのものである。

23-13は、端部が平坦で上面が湾曲した形態を呈する。23-14は口縁部が上向きで、1条の突帯を持つ。23-15は口縁部がさらに伸び、胴部に三条の突帯を持つ。

23-16は如意形口縁で、口唇部を丸く仕上げ、刻みを施す。23-17は端部を丸く収め、口縁部上面が平坦で、内面に少し張り出しを持つ。23-18・19は、端部が丸く、上面をくぼませている。18は内面に張り出しを持つ。

第24図は口縁部を肥厚させることなく、くの字状に屈曲するものである。明瞭な稜線を持つもの（1～5）と比較的緩やかに屈曲するもの（6～10）がある。11は内、外面とも緩やかに屈曲し、口唇部がヨコナデ調整によってくぼみ、屈曲部に断面三角形の突帯を1条持つものである。

25-1～3は胴部の突帯部である。1は三角突帯で、端部に小さな刻みを施すものである。2は、3条の小さな絡縄突帯である。3は、3条の三角突帯だが、緩やかな凹凸を呈する。

25-4は、バケツ状を呈する甕形土器の口縁部である。この形態の甕には、一条の突帯を施すものが多いが、4は突帯を施さず、ちょうど突帯を施す位置に接合線が認められる。25-5は、突帯を持つが、1条突帯の結合部が互い違いになっている部分である。

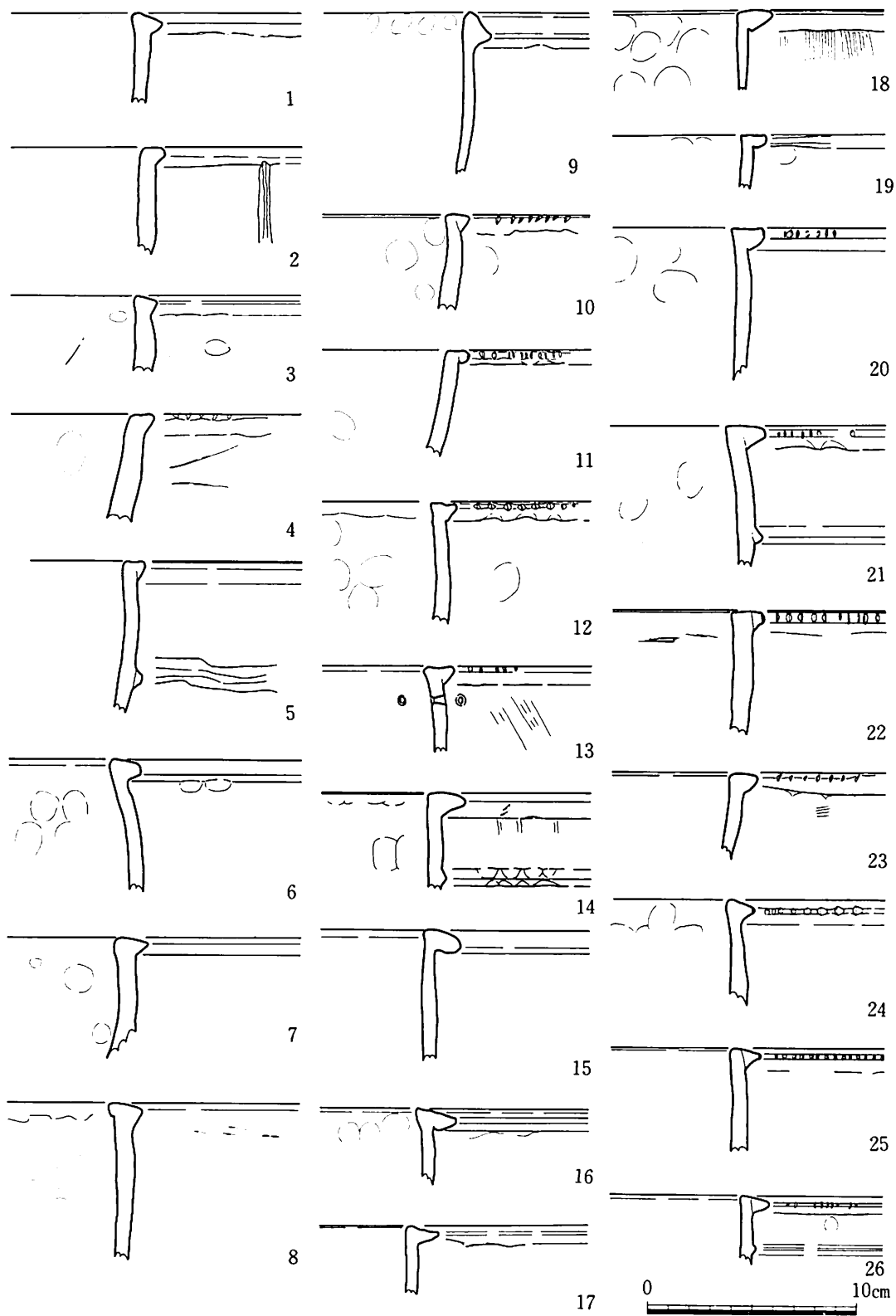
25-6～9は胴部下半から脚台部である。9は、体部と脚部との接合部で欠損している。

25-10は口縁部が内湾し、肩部が張り、胴部は球形を呈する。作りが粗雑で、接合線が明瞭である。おそらく、布留式甕の模倣品であろう。

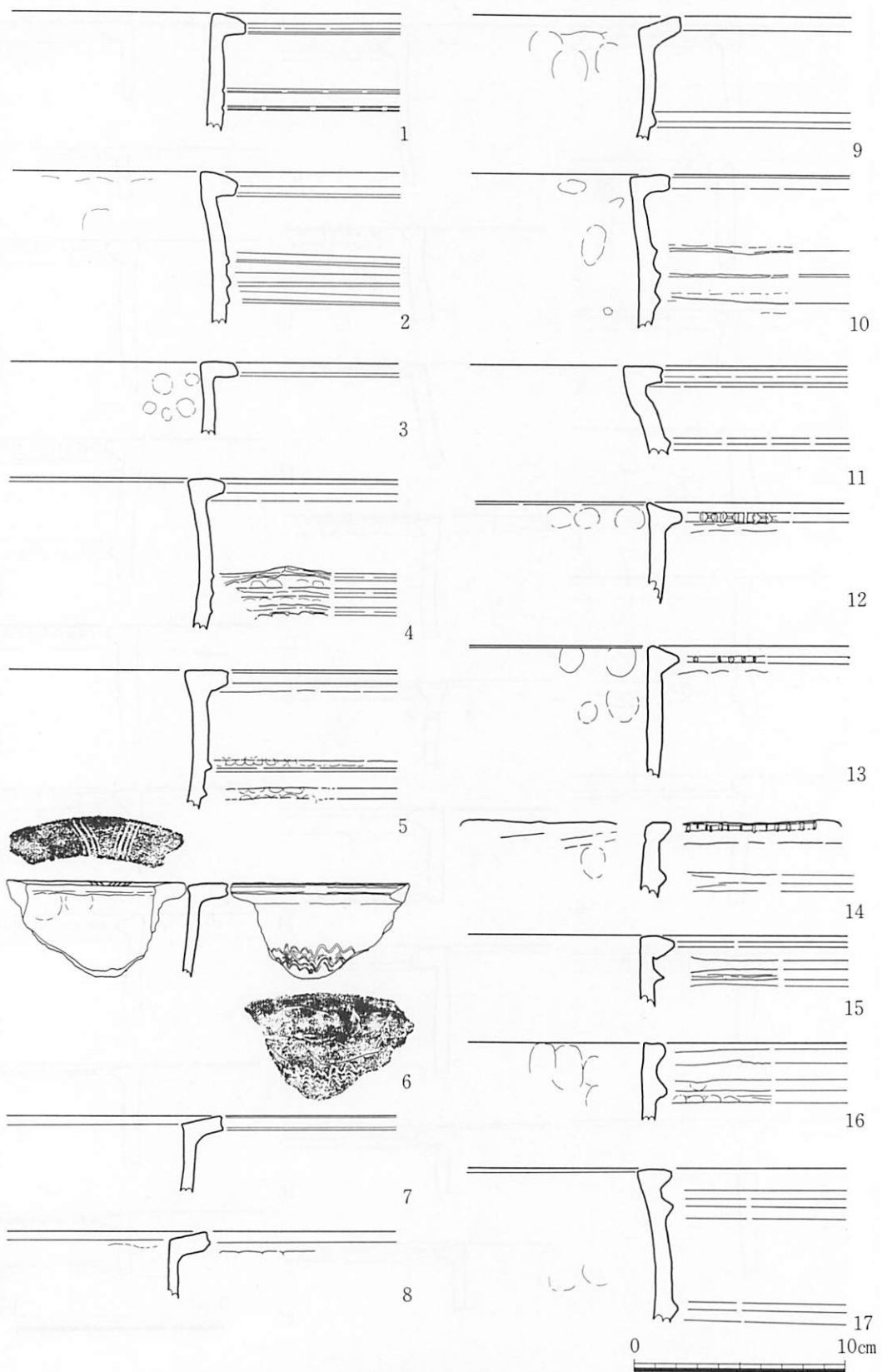
第26図は底部である。1は外側に張り出す平底で、2～8はいわゆる充実した脚台である。5～8は少し上げ底気味である。9から21は脚台で、中でも17～21は底部が大きく、作りも粗雑である。

### 壺形土器（第27図～第29図）

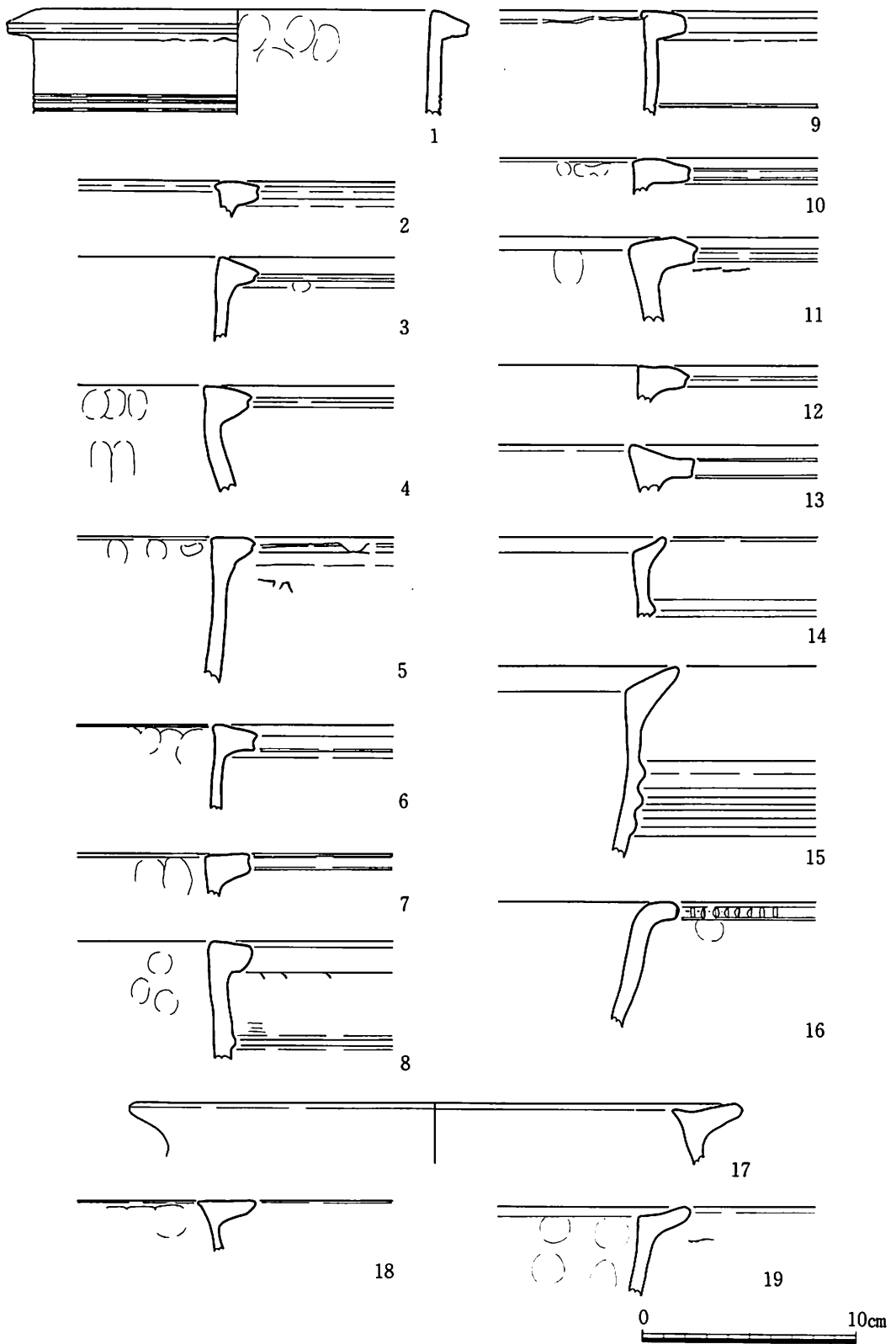
27-1～13は外反する口縁部である。1は、頸部に1条の沈線を施す。2～4は、頸部がまっすぐ



第21図 河2出土遺物(3) S=1/3

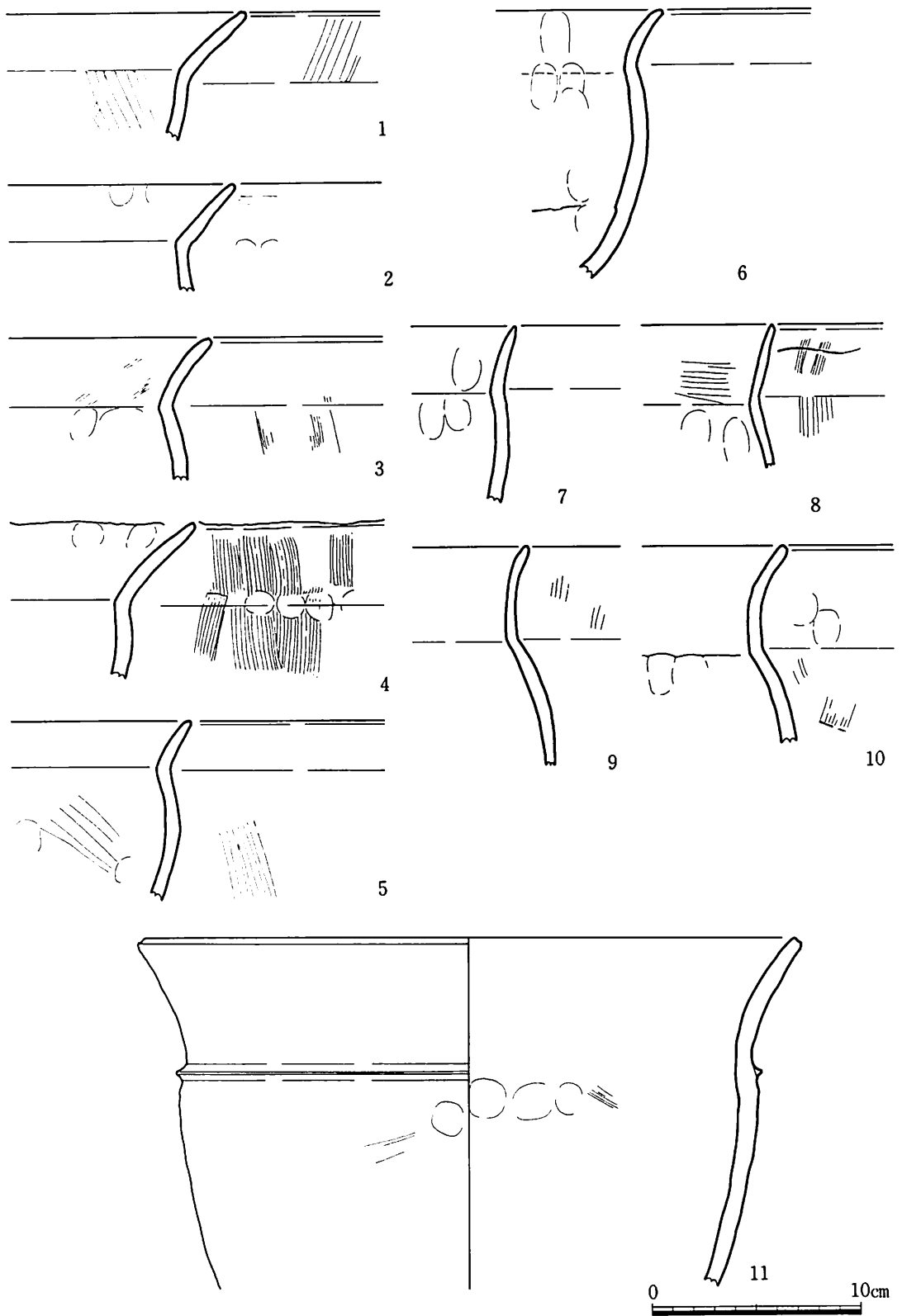


第22図 河2出土遺物(4) S=1/3

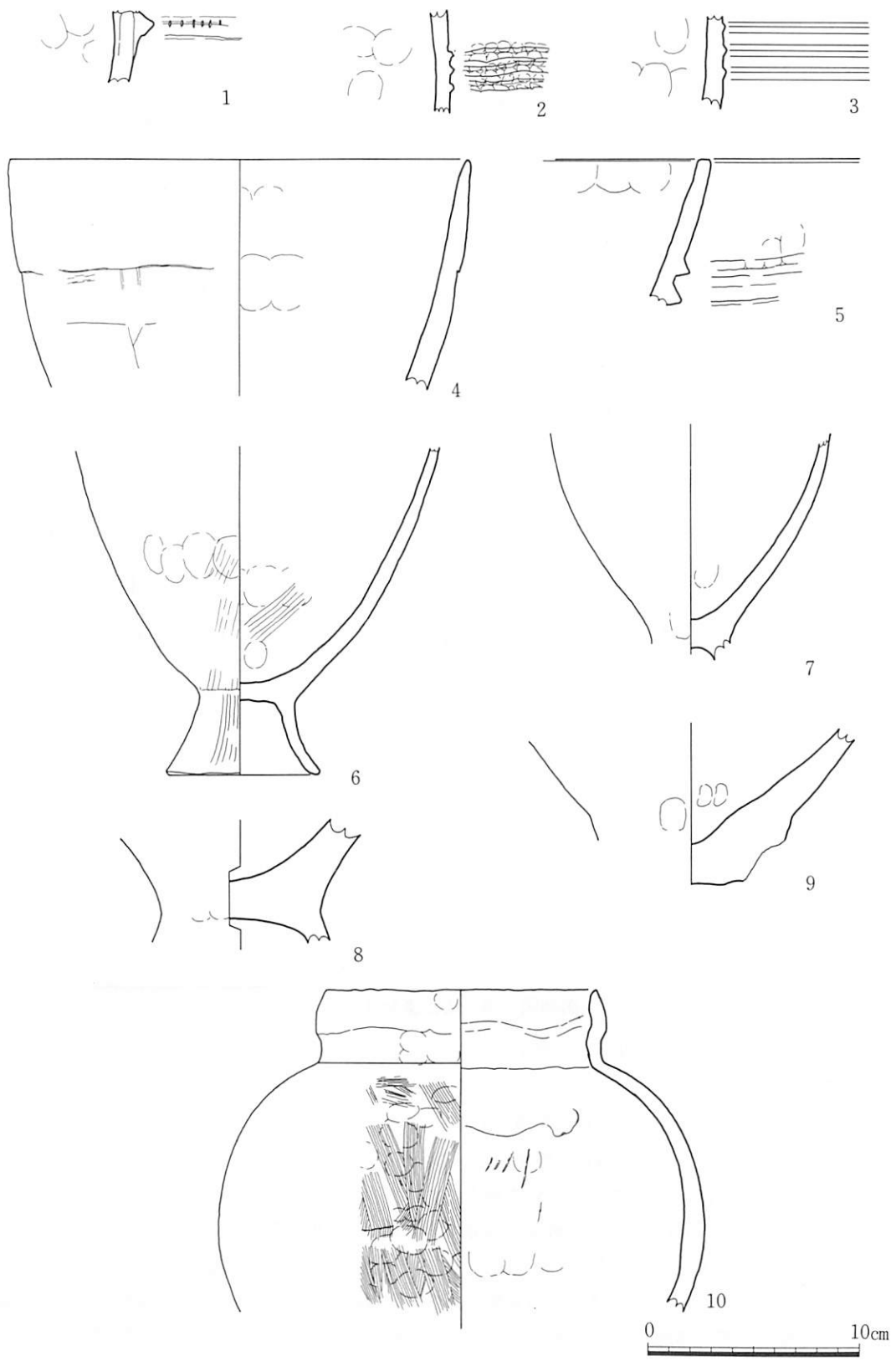


第23图 河2出土遺物(5) S=1/3

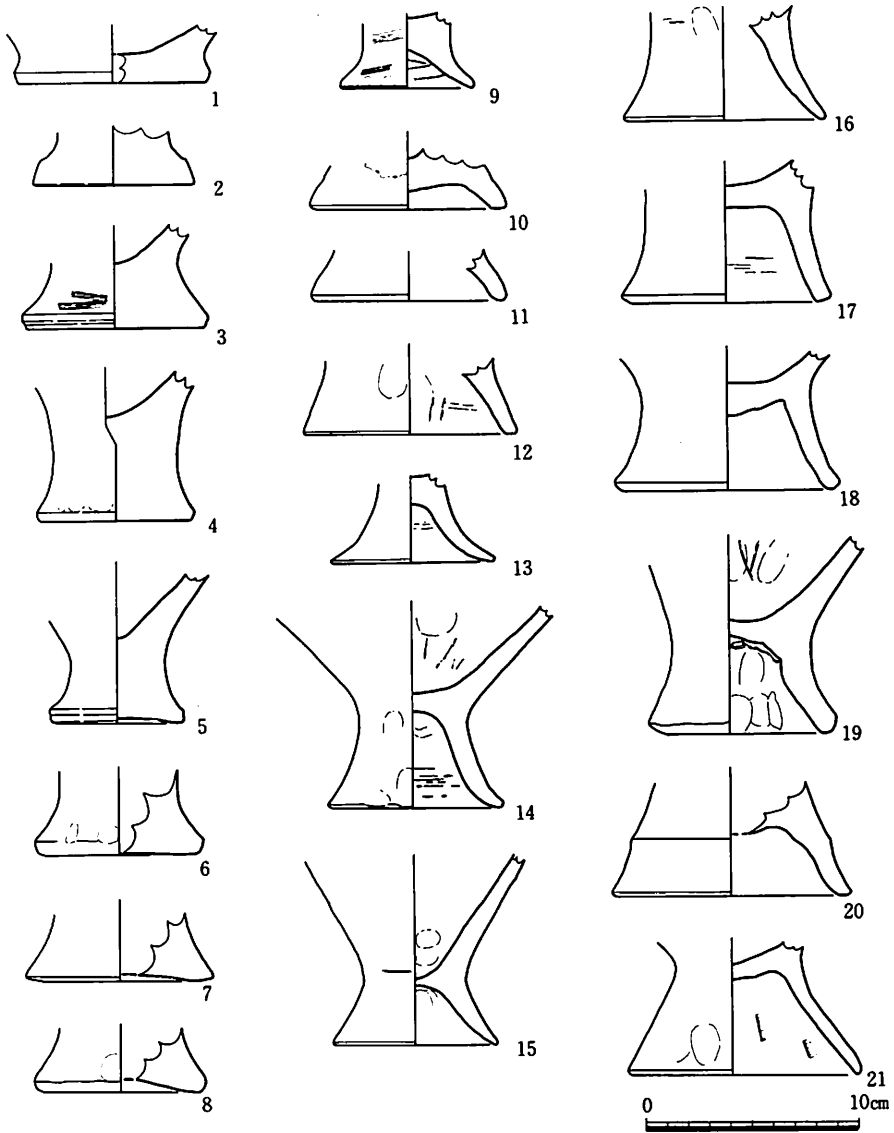




第24図 河2出土遺物(6) S=1/3



第25図 河2出土遺物(7) S=1/3



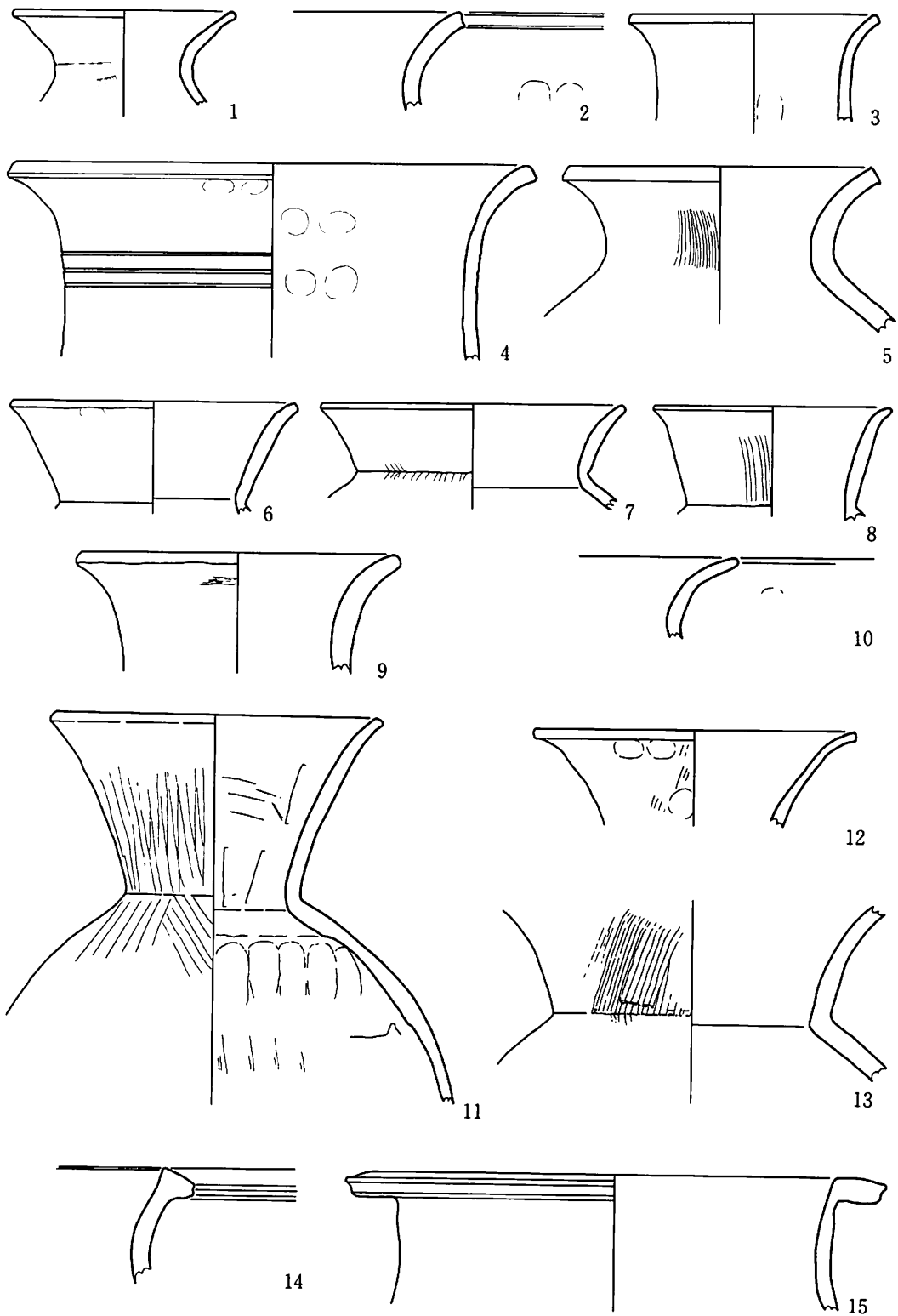
第26図 河2出土遺物(8) S=1/3

立ち上がり、端部が少し湾曲する形態を呈する。4は頸部に3条の沈線を施す。6～13は、頸部に稜線を持ち、少し湾曲しながら、段状になっている。11は口縁部が長く、肩部がなだらかである。肩部内面には縦長のユビオサエ痕が明瞭である。

27-14・15～28-1・2は口縁部を肥厚させ、口唇部をナデ調整によってくぼませるものである。28-1・2は、口縁部上面に数条の沈線を施す。

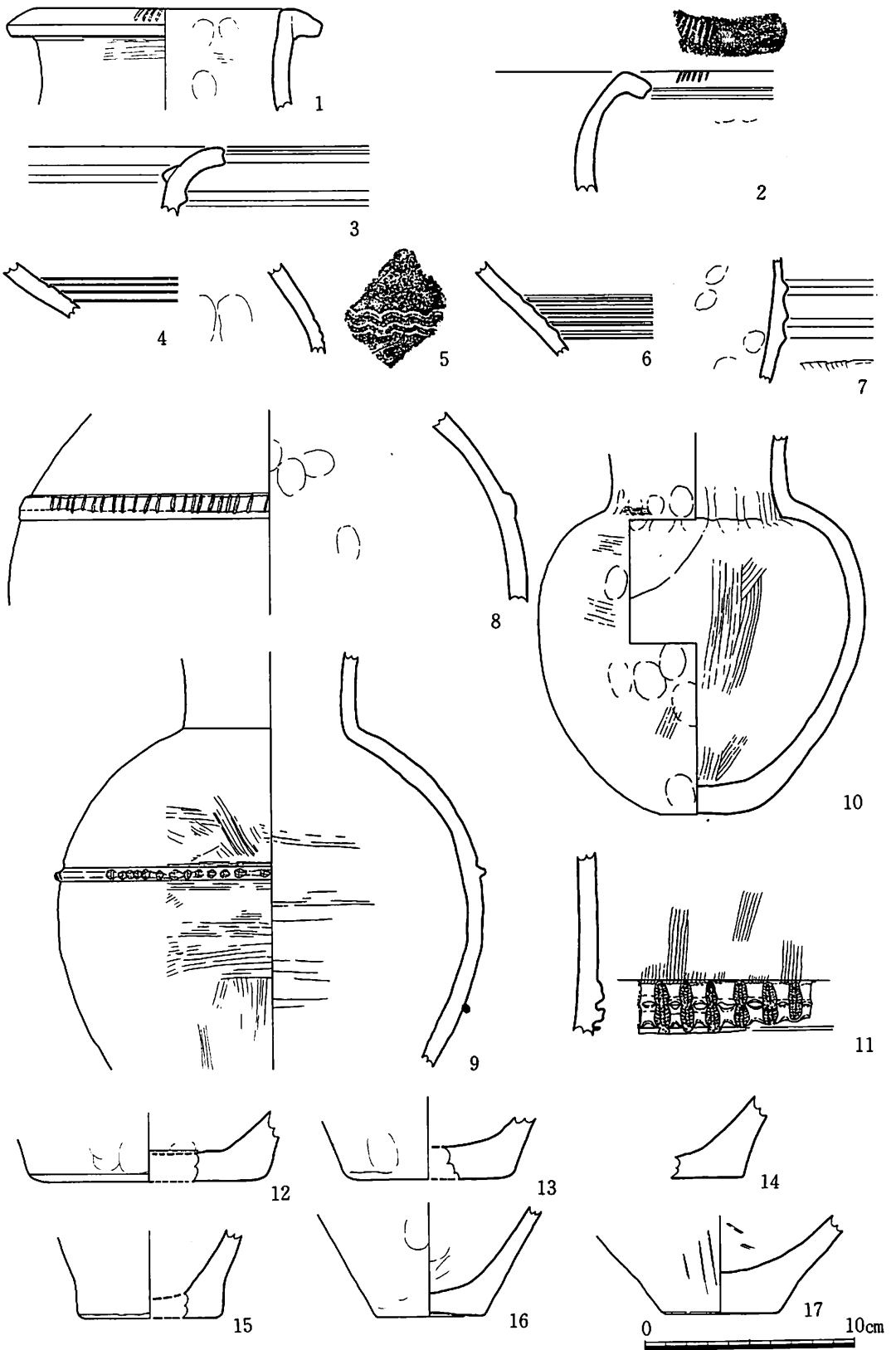
28-3は外反する口縁部だが、屈曲部内外面に1条ずつの三角突帯を持つ。

28-4～8・11は胴部である。4は4条の沈線、5は櫛描きの波状文をもつ。6は4条の突帯で、凹凸が緩やかである。7は三条の突帯である。8は断面方形の突帯に、刻みを持つものである。11は幅広突帯を横線で2条に分け、上下同時刻みを施したもので、刻みに布目圧痕が残る。

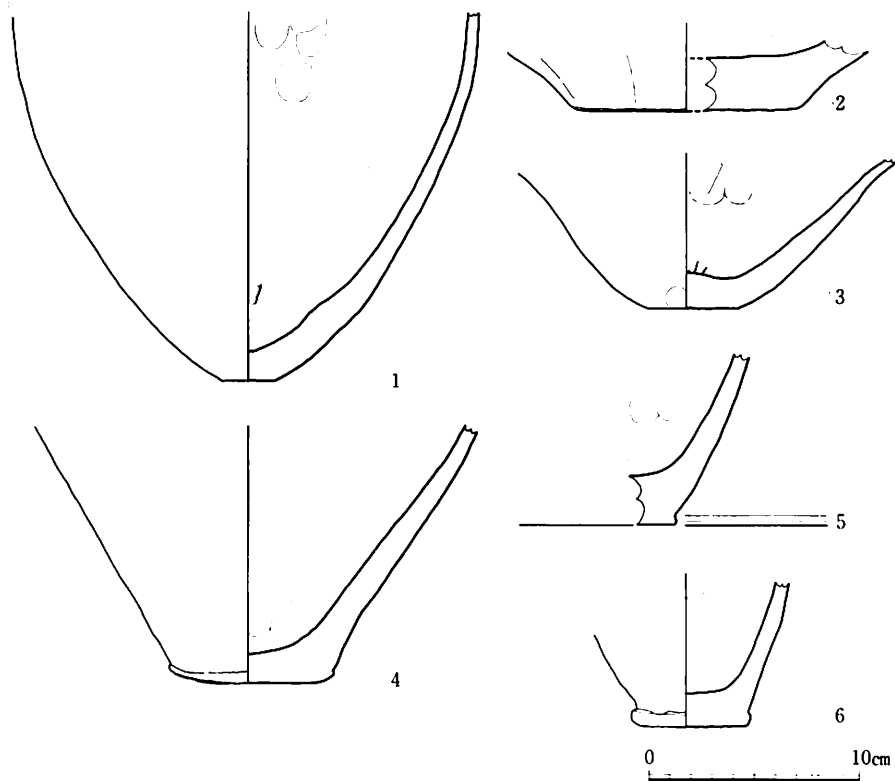


第27図 河2出土遺物(9) S=1/3





第28图 河2出土遺物(10) S=1/3



第29図 河2出土遺物(11) S=1/3

28-9は1条の突帯を持つ壺で、胴部は球形を呈し、口縁部は直立する。刻みはハケ目工具による。

28-10は、無文の平底の壺である。肩部が張り、直立する口縁部である。内面には、胴部と口縁部の接合の際のユビオサエ痕が明瞭である。

28-12～17・第29図は底部である。29-1は小さな平底である。29-4はゆがんだ凸レンズ状を呈する。

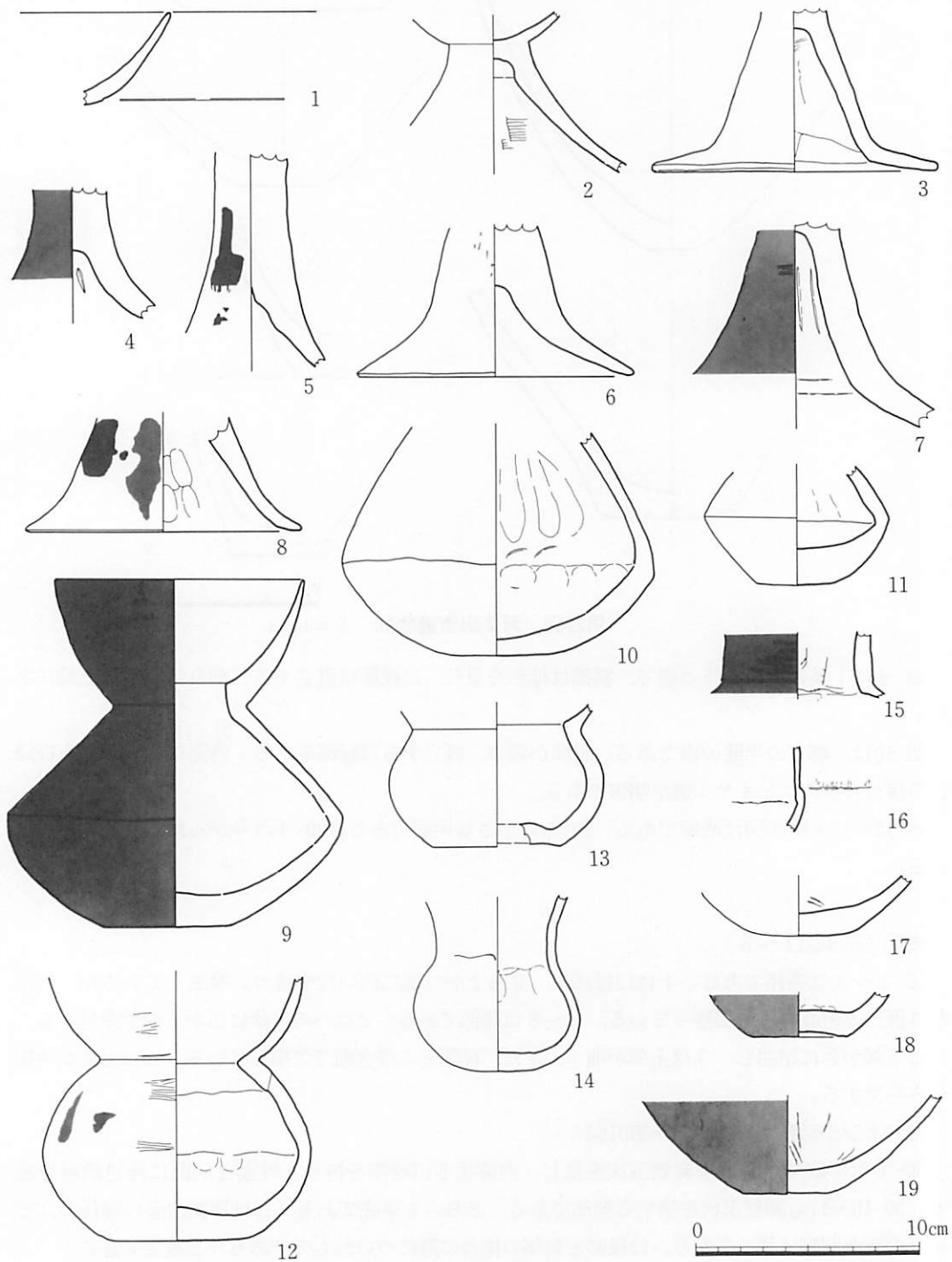
#### 高杯（第30図1～8）

30-1～8は高杯である。1は口縁部で、立ち上がり部に鈍い段を持つ。摩滅しているが、口唇部外面に赤色顔料が一部残っている。2～8は脚部である。2はハの字状に広がる形態を呈する。3は下部が急に屈曲し、5は上部が細く、また、杯部との接合面で欠損している。6は上部が中膨らみを呈する。

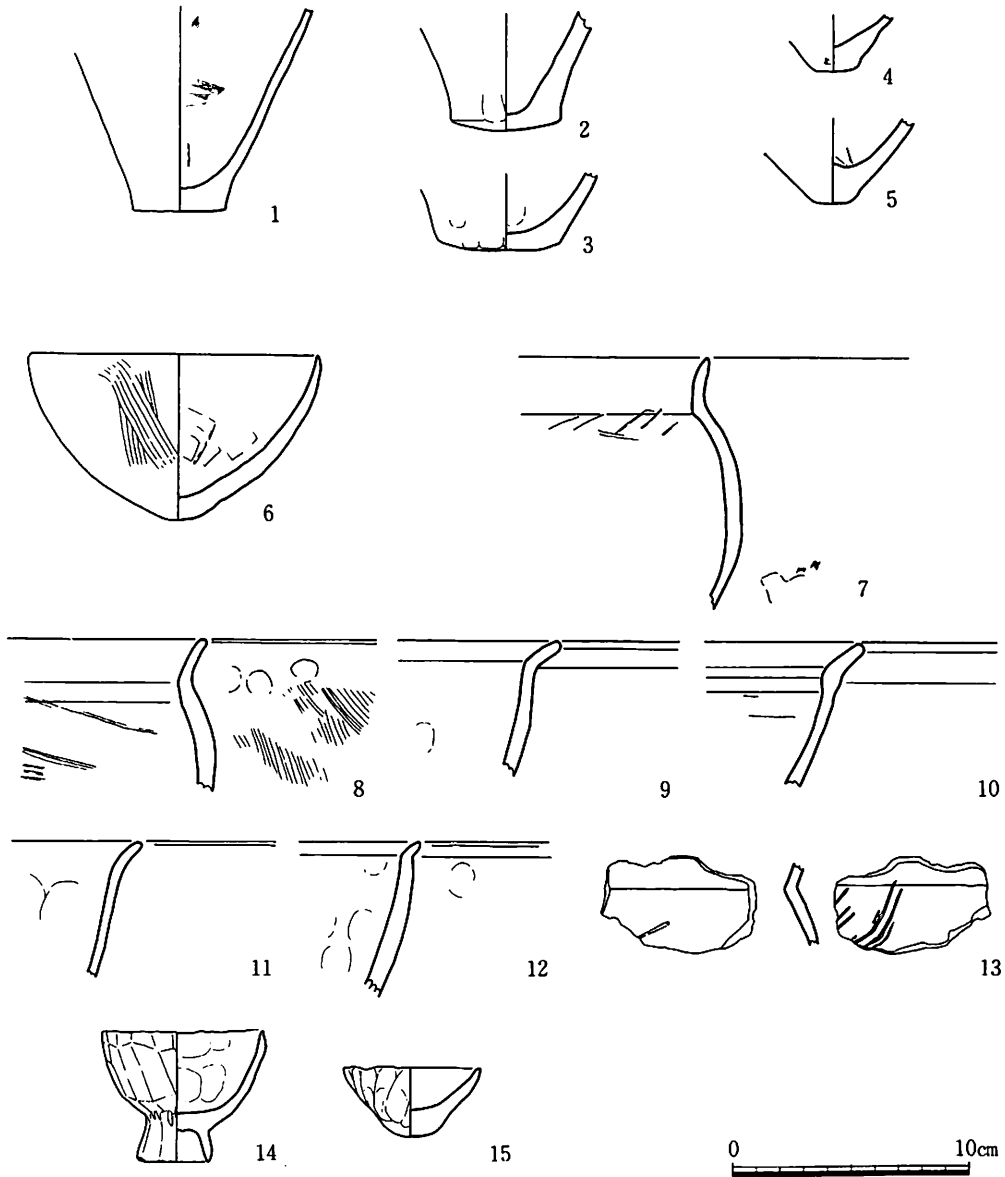
#### 埴および小形壺（第30図9～第31図5）

30-9は平底で、胴部を算盤玉状を呈し、内湾する口縁部を持つ。外面と底面に赤色顔料を施す。30-10・11も算盤玉状を呈する胴部である。どちらも平底である。10は肩部内面に縦長のユビナデの痕が明瞭に残っており、口縁部と胴部の接合の際についてのものであろうと推定できる。

30-12～14は平底で、胴部が丸く張る形態を呈している。12・13は頸部に明瞭な稜線を持つが、



第30図 河2出土遺物(12) S=1/3



第31図 河2出土遺物(13) S=1/3

14の頸部は緩やかに湾曲する。12は外面に赤色顔料が少し残存している。

15は頸部だが、口縁部が直立する形態を呈する。外面には赤色顔料を施している。16は胴部で、他の土器に比べて器壁が薄い。

30-17~19は底部である。17は緩やかな凸レンズ状を呈し、18は上げ底である。19は平底を呈する。18・19とも外面に赤色顔料を施している。

31-1~5は埴または小型壺の底部である。1は平底を呈するが、底面に木の葉圧痕が認められる。2・4は凸レンズ状を呈する。3・5は小さな平底である。



鉢形土器（第31図6～13）

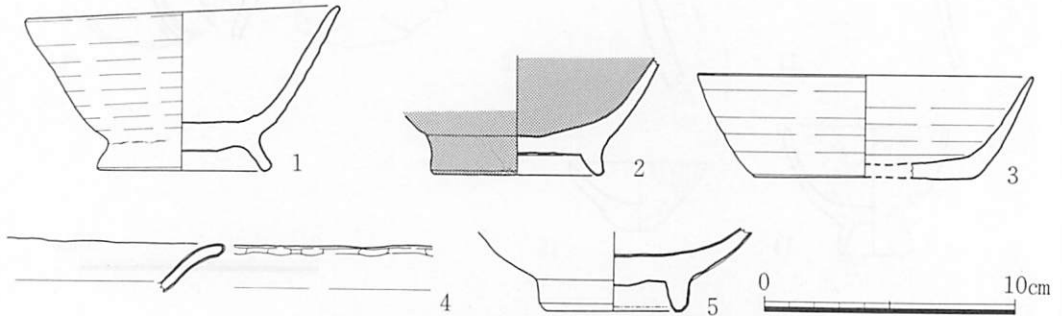
鉢形土器として掲載したものの中には、甕形土器との区別が難しいものがあるが（7～13），一応，口縁部の屈曲が高い位置にあり，口縁部が短いものを鉢として取り上げた。6は尖り気味の丸底で，口縁部は少し内湾する形態を呈する。7～12は口縁部が屈曲し，少し外反させるものである。13は頸部で，肩部に楡描き状の沈線が認められるが，小片のため，文様の一部であるのか，粗雑な器面調整なのかは判別できない。

手づくね土器（第31図14・15）

31-14は碗状の少し内湾する口縁部に，脚台を持つものである。外面には全面に削りを施している。15は分厚い丸底で，ユビオサエ痕が明瞭である。

碗（第32図）

素焼きの碗が3点出土している。1・2は外に広がる高台を持ち，回転ナデによる凹凸が明瞭である。4・5は青磁である。4は花卉状を呈する口縁部で，皿である。5は，碗の底部で直立する高台を持つ。



第32図 河2出土遺物(14) S=1/3

註

- 1) 岡元満子「2. 底部」『草野貝塚—宅地造成に伴う第1次・第2次緊急発掘調査報告—』鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 鹿児島市教育委員会 1988年

表3 河2出土土器観察表

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
19-1	深鉢	口縁部	外面；黒褐色10Y R 3/1. 内面；橙色7.5 Y R 6/8~明褐色7.5 Y R 5/8.	砂粒を含む。白色粒。	外面；斜位の条痕。口唇部；連点。	
19-2	深鉢	口縁部	外面上部；オリーブ黒色5Y 3/1. 外面下部；淡黄色2.5Y 8/3. 内面；明褐色7.5Y R 5/8~浅黄色2.5Y 7/3.	粗砂粒を含む。石英、角閃石。	外面；隆起線状突帯を横位に施す。口唇部；刺突文。内面；摩滅により不明。	内面が摩滅している。
19-3	深鉢	口縁部	外面；灰褐色7.5Y R 4/2. 内面；褐色7.5 Y R 4/3.	粗砂粒を含む。白色粒。	外面；突帯上に刻み、沈線。内面；ユビオサエ。	
19-4	深鉢	胴部	外面；褐色7.5Y R 4/1. 内面；灰褐色7.5 Y R 4/2.	砂粒~細砂粒を含む。白色粒。	外面；突帯に刻み、沈線。内面；ユビオサエ。	
19-5	深鉢	胴部	外面；暗赤灰色2.5Y R 3/1. 内面；黒褐色5Y R 2/1.	粗砂粒~細砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	幅4~5mm程度の粘土紐を貼りつけ斜位に刻み目を施す。刻線がみられる。	
19-6	深鉢	胴部	外面；にぶい赤褐色5Y R 4/3. 一部黒色7.5Y R 2/1. 内面；にぶい橙色7.5Y R 6/4.	砂粒を含む。角閃石。	外面；3条の突帯。(3~3.5mm)。内面；ユビオサエ。	
19-7	深鉢	胴部	外面；にぶい橙色5Y R 6/4. 内面；暗赤褐色5Y R 5/6.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	貝殻腹縁刺突。	摩滅が著しい。
19-8	深鉢	胴部	外面；にぶい赤褐色5Y R 5/4. 内面；明褐色7.5Y R 5/6.	細砂粒を含む。石英、角閃石、黒色粒。	外面；貝殻腹縁刺突、押し引き文(?)。内面；ユビオサエ。	摩滅が著しい。
19-9	深鉢	胴部	外面；明褐色7.5Y R 5/6. 内面；にぶい褐色7.5Y R 5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面；貝殻腹縁刺突。内面；ユビオサエ(?)。	
19-10	深鉢	口縁部	外面；黒褐色7.5Y R 5/4. 内面；にぶい褐色7.5Y R 5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	口唇部・外面；隆起線状の突帯を縦位に施す。内面；貝殻腹縁刺突。	摩滅している。
19-11	深鉢	胴部	外面；赤灰色2.5Y R 4/1. 内面；褐色7.5Y R 4/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面；刺突文。縦位に突帯を施す。内面；ナデ。	
19-12	深鉢	胴部	にぶい黄褐色10Y R 7/2. 内面；にぶい黄褐色10Y R 7/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面；刺突文。貝殻条痕。内面；貝殻条痕、凹線文。	
19-13	深鉢	口縁部	外面；にぶい赤褐色2.5Y R 4/4. 暗赤褐色2.5Y R 3/3.	細砂粒を含む。角閃石。	貝殻腹縁刺突。	
19-14	深鉢	胴部	赤色10R 4/6.	細砂粒を含む。角閃石。	外面；3条の沈線(幅7~8mm)。内面；ユビオサエ(?)。	
19-15	深鉢	口縁部	外面；褐色7.5Y R 4/3. 外面；褐色7.5Y R 4/6.	砂粒を含む。石英。	外面；横位に沈線。突帯に刻み。	摩滅が著しい。
19-16	深鉢	口縁部	外面；にぶい橙色5Y R 6/4. 内面；にぶい赤褐色5Y R 4/3.	砂粒を含む。石英、白色粒、黒色粒。	外面；凹線文。内面；ユビオサエのちなデ。	
19-17	深鉢	口縁部	外面；橙色5Y R 6/6. 内面；橙色5Y R 7/6.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面；刺突文。内面；ナデ。	
19-18	深鉢	口縁部	外面；明褐色7.5Y R 5/8~褐色7.5Y R 4/4. 内面；明赤褐色5Y R 3/3.	砂粒と微量の小礫を含む。	外面；貝殻腹縁刺突。	摩滅が著しい。
19-19	深鉢	口縁部	外面；黒褐色5Y R 3/1. 内面；灰褐色7.5Y R 4/2.	細砂粒を含む。	外面；貝殻腹縁刺突。爪状(?)施文具による連続刺突。	
19-20	深鉢	口縁部	外面；にぶい赤褐色2.5Y R 4/3. 内面；褐色7.5Y R 4/4.	微細な砂粒を少量含む。	口唇部外面；爪による斜位の刺突。外面屈曲部以下；爪による縦位の刺突。	摩滅が著しい。
19-21	深鉢	胴部突帯	外面；黒褐色7.5Y R 3/1. 内面；灰褐色7.5Y R 6/2.	砂粒を含む。	外面；横位の沈線。貝殻腹縁刺突。	摩滅が著しい。

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
20-1	深鉢	口縁部	外面；灰褐色5Y R5/2. 内面；にぶい赤褐色5Y R5/4.	粗砂粒を多く含む。小礫を含む。石英、角閃石、白色粒。	条痕のちナデ。	
20-2	深鉢	口縁部	外面；にぶい赤色7.5 Y R4/4. 内面；暗赤褐色2.5 Y R5/6.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面・内面；条痕(?)のちナデ。口唇部；ナデ(?)	摩滅している。
20-3	浅鉢	口縁部	外面；暗赤褐色5Y R3/2. 内面；赤褐色5Y R4/6.	砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-4	浅鉢	口縁部	外面；にぶい赤褐色5Y R4/4. 内面；橙色7.5 Y R6/8.	砂粒を含む。石英、角閃石、黑色粒。	ナデ。	
20-5	浅鉢	口縁部	外面；明赤褐色5Y R5/6. 内面；にぶい赤褐色5Y R4/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-6	浅鉢	口縁部	外面；にぶい黄橙色10 Y R6/4-明黄褐色10 Y R6/6. 内面；黄灰色2.5 Y 5/1.	細砂粒を含む。石英。	ナデ。	
20-7	浅鉢	胴部	外面；にぶい赤褐色5Y R5/4. 内面；灰褐色5Y R5/2.	微細。白色粒。	摩滅のため不明。内面；工具痕(?)あり。	摩滅が著しい。
20-8	浅鉢	胴部	外面；褐灰色5Y R4/1. にぶい褐色7.5 Y R5/3. 内面；灰褐色7.5 Y R4/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ナデ。	摩滅している。
20-9	深鉢	口縁部	外面；にぶい黄橙色10 Y R7/4. 内面；橙色7.5 Y R6/8.	石英、角閃石、白色粒、黑色粒。	ナデ。	
20-10	深鉢	口縁部	外面；橙色7.5 Y R6/6. 内面；明褐色7.5 Y R5/6.	砂粒を含む。石英、黑色粒。	摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-11	深鉢	口縁部	黒褐色10Y R3/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。	外面；貝殻腹縁刺突。内面；ナデ。	
20-12	深鉢	口縁部	赤褐色2.5 Y R4/6.	砂粒～細砂粒を含む。黑色粒、赤色粒。	摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-13	深鉢	口縁部付近	外面；明赤褐色5Y R5/6. 内面；にぶい黄橙色10Y R7/2.	細砂粒を含む。赤色粒、黑色粒。	外面；幅3mm程度の沈線。	
20-14	深鉢	口縁部(?)	にぶい赤褐色；5Y R4/4.	粗砂粒を含む。	口唇部内面；ユビオサエ。他は摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
20-15		底部	外面；橙色7.5 Y R6/6. 内面；にぶい黄橙色10Y R7/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	外面；ユビオサエ。底部面；圧痕	摩滅が著しい。
20-16		底部	外面；暗赤色10Y R3/4. 内面；暗赤褐色10Y R3/3.	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエ。底部外面；網代(?)あり。	摩滅が著しい。底径7.4cm.
20-17		底部	明赤褐色2.5 Y R5/6.	砂粒～細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエ(?)	摩滅が著しい。底径5.2cm.
21-1	甕	口縁部	外面；橙色2.5 Y R7/6. 内面；灰白色5Y R8/2.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黑色粒、赤色粒。	内面；ユビオサエ。その他は摩滅のため不明。	摩滅が著しい。
21-2	甕	口縁部	外面；にぶい橙色2.5 Y R6/3. 内面；にぶい赤褐色5Y R4/3.	砂粒を含む。石英、角閃石。	ナデ。	
21-3	甕	口縁部	外面；赤褐色5Y R4/6-にぶい橙色7.5 Y R6/4. 内面；灰黄褐色10Y R6/2. 明黄褐色10Y R6/6の斑点が見られる。	粗砂粒～細砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒、黑色粒。	外面；ナデ?。内面；ユビオサエのちナデ。	摩滅している。傾き不明。
21-4	甕	口縁部	外面；褐灰色7.5 Y R4/1. 内面；にぶい橙色7.5 Y R7/4.	砂粒を含む。角閃石、黑色粒。	不明。	摩滅が著しい。
21-5	甕	口縁部	外面；にぶい黄橙色10 Y R6/4. 一部褐灰色10Y R4/1. 内面；明褐色7.5 Y R5/6.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、白色粒。	ナデ。	摩滅が著しい。

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
21-6	甕	口縁部	外面：明赤褐色5Y R 5/6～黒褐色2.5Y 3/1. 内面：赤褐色5Y R 4/6.	粗砂粒を含む。石英、角閃石。	ユビオサエのちナデ。	
21-7	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5Y R 6/3. 一部赤灰色2.5Y R 4/1. 内面：にぶい褐色7.5Y R 5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
21-8	甕	口縁部	外面：にぶい褐色7.5Y R 5/3. 内面：明赤褐色5Y R 5/6.	2mm程度の礫を含む。細砂粒を含む。角閃石。	外面：ナデ。口縁部端部：ヨコナデ(?)。内面：ユビオサエ。	
21-9	甕	口縁部	外面：(上部)明褐色5Y R 7/1.(下部)淡橙色5Y R 8/4. 内面：にぶい橙色5Y R 7/3.	約5mmの礫・細砂粒を含む。赤色粒、黒色粒。	口縁部端部：ユビオサエ。	摩滅が著しく調整など不明。
21-10	甕	口縁部	外面：灰褐色5Y R 5/2. 内面：明赤褐色5Y R 5/6.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面：ナデ(?)。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
21-11	甕	口縁部	外面：褐灰色7.5Y R 4/1. 内面：にぶい褐色7.5Y R 7/4.	微細。黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
21-12	甕	口縁部	灰褐色5Y R 4/2.	粗砂粒を多く含む。黒色粒。	外面：横方向のハケ(5本/cm)のちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
21-13	甕	口縁部	外面：にぶい橙色7.4Y R 6/4. 内面：橙色7.5Y R 6/6.	細砂粒を含む。	ナデ。	摩滅が著しい。口縁部直下に穿孔あり。
21-14	甕	口縁部	にぶい橙色5Y R 6/4.	砂粒～細砂粒を含む。黒色粒。	外面：ハケ(?)のちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	胴部に一条の絡縄突帯を貼付する。
21-15	甕	口縁部	暗赤褐色2.5Y R 3/4.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	不明。	摩滅が著しく調整など不明。
21-16	甕	口縁部	外面：にぶい赤褐色2.5Y R 5/4～暗赤褐色2.5Y R 3/2. 内面：にぶい橙色5Y R 6/4. 口唇部上面：明褐灰色7.5Y R 7/2.	4mm程度の礫を含む。赤色粒、黒色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。口唇部：ヨコナデ。	
21-17	甕	口縁部	外面：黒褐色5Y R 3/1. 内面：にぶい赤褐色5Y R 5/4. 一部黒褐色5Y R 3/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、黒色粒。	ナデ?。	摩滅している。
21-18	甕	口縁部	外面：にぶい橙色5Y R 7/3～褐灰色7.5Y R 5/1. 内面：淡赤褐色2.5Y R 7/4～にぶい褐色7.5Y R 6/3.	砂粒を含む。角閃石、赤色粒、黒色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
21-19	甕	口縁部	外面：明赤灰色2.5Y R 7/1. 一部明褐灰色5Y R 7/1. 橙色7.5Y R 6/6. 内面：にぶい褐色5Y R 7/3.	砂粒を含む。黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
21-20	甕	口縁部	外面：灰黄褐色10Y R 6/2. 内面：褐灰色10Y R 5/1.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面：ナデ(?)。内面：ユビオサエのちナデ。	
21-21	甕	口縁部	外面：灰褐色7.5Y R 5/2. 内面：にぶい褐色7.5Y R 5/3.	細砂粒を含む。角閃石、石英。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
21-22	甕	口縁部	外面：明赤褐色2.5Y R 5/6. 内面：にぶい褐色2.5Y R 6/4.	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英、白色粒、赤色粒、黒色粒。	外面：ナデ?。内面：ハケ(8本/5mm)のちナデ。口唇部付近：ヨコナデ。	摩滅している。
21-23	甕	口縁部	灰褐色5Y R 5/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ナデ。	
21-24	甕	口縁部	外面：黒褐色7.5Y R 3/1. 内面：褐色7.5Y R 4/3.	細砂粒を含む。白色粒。	口縁部外面：ヨコナデのちナデ。胴部外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
21-25	甕	口縁部	外面：赤灰色2.5Y R 4/1～褐色7.5Y R 4/3. 内面：にぶい褐色5Y R 7/3.	砂粒を含む。石英、白色粒、赤色粒。	口唇部：ヨコナデ。他：ナデ。	
21-26	甕	口縁部	外面：黒色N1.5/. 内面：黒褐色10Y R 3/1.	粗砂粒～砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ?。口唇部：縦位の刻み。	

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
22-1	甕	口縁部	外面；褐灰色5Y R4/1. 内面；褐灰色5Y R5/2.	砂粒・小礫を含む。石英、角閃石。	ナデ。	
22-2	甕	口縁部	淡橙色5Y R8/3～灰白色5Y R8/2. 一部褐灰色5Y R4/1. 明褐色7.5Y R5/6.	粗砂粒～細砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
22-3	甕	口縁部	外面；にぶい橙色7.5Y R7/3. 内面；にぶい黄褐色10Y R7/2.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
22-4	甕	口縁部	外面；黒褐色5Y R3/1. 一部明赤褐色5Y R5/6. 内面；明緑灰色10G Y4/1. 口唇部上面；にぶい褐色7.5Y R5/3.	小礫を含む。角閃石、白色粒。	外面；ナデ。ヨコナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
22-5	甕	口縁部	外面；にぶい褐色7.5Y R6/3. 内面；にぶい橙色7.5Y R7/4.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエ・ナデ。	
22-6	甕	口縁部	外面；暗赤灰色10R4/1. 内面；橙色7.5Y R6/6.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。口唇部；ヨコナデ。	胴部；描描文。
22-7	甕	口縁部	外面；にぶい褐色7.5Y R5/4. 内面；にぶい橙色5Y R7/4.	砂粒を含む。雲母、白色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエ。	
22-8	甕	口縁部	外面；にぶい黄褐色10Y R6/3. 黄灰色2.5Y4/1. 口唇部上面～内面；にぶい黄褐色10Y R6/4. 赤褐色5Y R4/8の(鉄分?)の斑点。	細砂粒を含む。石英、角閃石、赤色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ナデ。口唇部；ヨコナデ。	
22-9	甕	口縁部	外面；明褐色7.5Y R5/6. 一部にぶい褐色7.5Y R5/3. 内面；にぶい赤褐色2.5Y R5/3.	砂粒～細砂粒を含む。金雲母、黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-10	甕	口縁部	外面；黄灰色2.5Y4/1. 内面；にぶい赤褐色5Y R5/4. 一部褐灰色5Y R4/1.	砂粒を含む。石英、角閃石、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
22-11	甕	口縁部	外面；にぶい橙色5Y R6/4. 内面；橙色7.5Y R6/6.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	口縁端部；ヨコナデ。全体；ナデ。	
22-12	甕	口縁部	外面；浅黄褐色10Y R8/3. 内面；にぶい橙色7.5Y R7/4.	赤色小礫を含む。石英、角閃石。	ユビオサエのちナデ。	摩滅している。
22-13	甕	口縁部	外面；灰白色5Y R8/1～褐灰色7.5Y R5/1. 内面；にぶい橙色7.5Y R6/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-14	甕	口縁部	外面；灰褐色5Y R4/2. 内面；褐色7.5Y R4/4.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
22-15	甕	口縁部	外面；暗赤灰色2.5Y R3/1. 内面；にぶい赤褐色5Y R5/3.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒。	ナデ。	
22-16	甕	口縁部	外面；にぶい褐色7.5Y R7/3. 内面；にぶい赤褐色5Y R5/4.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
22-17	甕	口縁部	外面；明赤褐色5Y R5/6. 内面；橙色5Y R6/6.	細砂粒を含む。黒色粒。	内面；ユビオサエ。	摩滅が著しい。
23-1	甕	口縁部	外面；明褐灰色5Y R7/1. 内面；にぶい褐色5Y R7/3.	砂粒を含む。石英、角閃石。	外面；ナデ。胴部に横位の沈線(幅1～2mm)あり。内面；ユビオサエのちナデ。	口径(21.9) cm.
23-2	甕	口縁部	外面；青黒色5B1.7G/1. 内面・口唇部上面；にぶい赤褐色2.5Y R5/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	ナデ。	外面に黒斑あり。
23-3	甕	口縁部	外面；にぶい褐色5Y R7/4. 口唇部上面；黒褐色5Y R3/1. 内面；浅黄褐色7.5Y R8/4.	小礫を少量含む。石英、角閃石、黒色粒。	ナデ。	摩滅している。
23-4	甕	口縁部	外面；灰褐色5Y R5/2～にぶい褐色5Y R7/3. 内面；にぶい褐色5Y R7/3.	粗砂粒から砂粒を含む。角閃石、赤色粒、黒色粒。	外面；ユビオサエのちヨコナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
23-5	甕	口縁部	外面；黄灰色。内面；橙黄色。	石英、角閃石、雲母を含む。	外面；口唇部ヨコナデ。他ナデ?。内面；ユビオサエ。	
23-6	甕	口縁部	にぶい赤褐色5Y R5/4. 褐灰色7.5Y R4/1.	砂粒～細砂粒を含む。黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
23-7	甕	口縁部	灰褐色7.5Y R5/2～ にぶい赤褐色5Y R5/3.	砂粒を多く含む。金雲 母、白色粒。	外面：ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	
23-8	甕	口縁部	外面；暗褐色7.5Y R7/2、一部黒色2.5 GY2/1。内面；明褐 灰色7.5Y R7/2、一 部黒色2.5GY2/1。	砂粒を含む。角閃石、 黒色粒。	ナデ。口縁屈曲部外 面；ユビオサエのちナ デ。	
23-9	甕	口縁部	外面；赤灰色2.5Y R 4/1。内面；にぶい橙 色7.5Y R6/4。	粗砂粒～細砂粒を含む。 角閃石、黒色粒。	ナデ。	
23-10	甕	口縁部	外面；にぶい黄橙色10Y R7/3。口唇部上面のみ 一部緑黒色10G2/1。	粗砂粒～細砂粒を含む。石 英、角閃石、雲母、白色 粒、赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	摩滅している。
23-11	甕	口縁部	外面；褐色7.5Y R 4/1～にぶい橙色5Y R6/3。内面；にぶい 橙色5Y R7/4。	砂粒を含む。石英、角 閃石。	ユビオサエのちナデ。	
23-12	甕	口縁部	灰褐色7.5Y R6/2。	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒、赤色粒、 黒色粒。	ナデ。	
23-13	甕	口縁部	外面；暗灰黄色2.5Y 4/2。口唇部上面；青 黒色5B2/1。内面； 灰褐色7.5Y R4/2。	細砂粒を含む。白色粒。	ナデ。	
23-14	甕	口縁部	外面；明褐色7.5Y R 5/8。内面；浅黄褐色 10Y R8/3。	細砂粒を含む。黒色粒。	ユビオサエのちナデ？。	摩滅が著しい。
23-15	甕	口縁部	外面；灰褐色5Y R5/ 2。明褐色7.5Y R5/ 8。内面；にぶい橙色5 Y R7/4。	細砂粒を含む。角閃石、 黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
23-16	甕	口縁部	外面；黒褐色7.5Y R 3/1。内面；淡橙色5 Y R8/3。一部黒褐色 7.5Y R3/1。	砂粒を含む。石英、角 閃石、赤色粒、黒色粒。	ナデ。口唇部；縦位に 刻み目。	
23-17	甕	口縁部	にぶい橙色7.5Y R7/4 ～灰褐色7.5Y R5/2。	粗砂粒～細砂粒を含む。 白色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	
23-18	甕	口縁部	外面；にぶい黄褐色10 Y R7/2。一部褐色 10Y R4/1。内面；明 褐色10Y R4/1。	砂粒を含む。石英、白 色粒。	ヨコナデ。	口唇部上面に一部 黒斑あり。口径 (28.8) cm。
23-19	甕	口縁部	外面；橙色7.5Y R6/ 8。一部浅黄褐色10Y R8/3。内面；灰褐色 10Y R6/1。	細砂粒を含む。黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
24-1	甕	口縁部	外面；にぶい黄褐色；7.5 Y R7/4。内面；にぶい 橙色7.5Y R7/3。	細砂粒を含む。黒色粒。	ハケのちナデ。	
24-2	甕	口縁部	外面；にぶい橙色5Y R6/3。内面；橙色 7.5Y R6/6。	砂粒～細砂粒を含む。 角閃石、黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
24-3	甕	口縁部	外面；橙色7.5Y R7/ 6。にぶい褐色7.5Y R 6/3。内面；褐色10 Y R5/1～灰白色10Y R8/2。	細砂粒を含む。石英、 角閃石、赤色粒、黒色 粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。口 縁端部；ヨコナデ。	
24-4	甕	口縁部	外面；灰褐色7.5Y R 5/2。一部にぶい橙色5 Y R6/3。内面；にぶ い橙色2.4Y R6/3。	砂粒～細砂粒を含む。 角閃石、黒色粒。	外面；ハケのちナデ。 外面屈曲部；ユビオサ エ。内面；ユビオサエ のちナデ。	
24-5	甕	口縁部	外面；灰黄褐色10Y R 6/2。内面；にぶい黄 褐色10Y R5/4。	細砂粒を含む。黒色粒。	外面；ユビオサエのち ナデ。内面；ハケ（5 本/cm）のちナデ。	
24-6	甕	口縁部	外面；にぶい黄褐色10 Y R7/3。内面；暗赤 褐色5Y R3/6。	砂粒～細砂粒を含む。 赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
24-7	甕	口縁部	外面；にぶい赤褐色 2.5Y R5/4。内面； 黒褐色7.5Y R3/1。	砂粒を含む。角閃石、 白色粒。	外面；ハケ。内面；横 方向のハケ。	摩滅している。
24-8	甕	口縁部～ 底部	外面；にぶい橙色7.5 Y R7/4。内面；明褐 色7.5Y R5/6。	細砂粒を含む。赤色粒、 黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	
24-9	甕	口縁部	赤褐色10R4/4。	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒、赤色 粒、黒色粒。	（ハケのち？）ナデ。	摩滅している。

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
24-10	甕	口縁部	外面；赤黒色10R1.7/1, 一部灰褐色7.5Y R 5/2. 内面；褐色7.5Y R 5/1.	細砂粒を含む。角閃石.	口縁部外面；ユビオサエのちヨコナデ, 胴部外面；ナデ. 口縁部内面；ヨコナデ, 胴部内面；ユビオサエのちナデ.	
24-11	甕	口縁部～胴部	外面；橙色5Y R 6/6, にぶい黄橙色10Y R 7/4, 一部灰黄褐色10Y R 5/2. 内面；橙色5Y R 6/6.	粗砂粒・砂粒を含む。角閃石, 雲母, 白色粒, 赤色粒.	口唇部・突帯部；ヨコナデ. 突帯上部外面；内面；ナデ. 突帯下部外面；内面；ハケのちナデ.	口径31.8cm.
25-1	甕	口縁部	灰褐色5Y R 4/2.	粗砂粒を多く含む.	外面；横方向のハケ(5本/cm)のちナデ. 内面；ユビオサエのちナデ.	
25-2	甕	胴部	明褐色7.5Y R 5/6, 灰赤色2.5Y R 4/2.	細砂粒を含む。角閃石, 黒色粒.	外面；ナデ. 内面；ユビオサエのちナデ.	
25-3		胴部	外面；褐色7.5Y R 4/1. 内面；褐色7.5Y R 4/3.	砂粒を含む。角閃石, 赤色粒.	外面；ナデ. 内面；ユビオサエのちナデ.	断面三角形の突帯を貼付.
25-4	甕	口縁部	外面；褐色10Y R 4/1. 内面；にぶい黄橙色10Y R 7/3. 一部褐色10Y R 4/1.	細砂粒を含む。黒色粒.	外面；ケズリのちナデ. 内面；ユビオサエのちナデ.	口径21.8cm.
25-5	甕	口縁部	外面；7.5Y R 6/4. 内面；にぶい赤褐色5Y R 5/4, 一部暗赤灰色2.5Y R 3/1, 褐色7.5Y R 5/1.	細砂粒を含む。黒色粒.	ユビオサエのちナデ.	緒繩突帯を貼付.
25-6	甕	胴部～脚部	外面；にぶい橙色5Y R 6/3. 内面；にぶい黄橙色10Y R 6/3.	細砂粒を含む。赤色粒, 黒色粒.	ユビオサエのちハケのちナデ. 脚台内面；ナデ.	脚径7.4cm.
25-7	甕	胴部～底部	外面；明黄褐色10Y R 7/6～黄褐色10Y R 7/8. 一部暗赤灰色10BG 3/1. 内面；黄褐色7.5Y R 7/8～にぶい褐色7.5Y R 6/3.	細砂粒を含む。少量の礫(3～4mm)を含む。黒色粒.	ユビオサエのちナデ.	
25-8	甕	脚部	外面；灰白色10Y R 8/2. 内面；にぶい黄褐色10Y R 7/4～明黄褐色10Y R 7/6.	細砂粒を含む。角閃石, 黒色粒.	外面；ユビオサエのちナデ. 内面；ナデ.	
25-9	甕	底部	外面；浅黄褐色10Y R 8/3. 内面；黒色5Y R 1.7/1(スス付着のため)～褐色5Y R 4/1.	砂粒を含む。角閃石.	ユビオサエのちナデ.	内面にススが付着している。脚部との接合面が残る.
25-10	甕	口縁部～胴部	外面；にぶい橙色5Y R 7/4. 一部黒褐色10Y R 3/1. 内面；明赤褐色5Y R 5/6.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石, 黒色粒.	外面；ハケのちナデ. 一部ユビオサエ. 内面；ユビオサエのちナデ.	内面に板状工具痕が数条ある。口径12.9cm.
26-1	甕	底部	外面；明赤褐色5Y R 5/6. 内面；にぶい褐色7.5Y R 6/4.	粗砂粒を含む。石英, 角閃石.	ナデ(?)	器表面に砂粒が多数付着しているため調整など不明。底径(9.2)cm.
26-2	甕	脚部	橙色7.5Y R 6/6.	細砂粒を含む。角閃石.	底面；ナデ.	摩滅が著しく外面の調整は不明。底径(7.6)cm.
26-3	甕	底部	外面；にぶい橙色5Y R 7/4. 一部黒斑(赤黒色10R2/1)あり。内面；淡褐色5Y R 8/4.	砂粒を含む。白色粒, 赤色粒, 黒色粒.	外面；ハケのちナデ. 内面；ナデ. 底面；ハケ(8本/9mm)	底面がハケ調整されている。底径(8.8)cm.
26-4	甕	脚部	外面；にぶい褐色2.5Y R 6/4. 一部黒斑あり。内面；淡褐色2.5Y R 2/1.	粗砂粒～細砂粒を含む。石英, 角閃石, 黒色粒.	不明.	摩滅が著しい。脚径7.1cm.
26-5	甕	底部	外面；褐色7.5Y R 4/3. 内面；褐色7.5Y R 5/6.	細砂粒を含む。角閃石, 黒色粒.	内面；ナデ(?)	外面の摩滅が著しい。底径(6.3)cm.
26-6	甕	脚部	褐色5Y R 6/6, 一部褐色7.5Y R 5/1.	砂粒を含む。角閃石, 赤色粒, 黒色粒.	外面；ユビオサエのちナデ. 内面；ナデ.	底径(8.0)cm.
26-7	甕	脚部	褐色5Y R 6/6.	細砂粒を含む.	外面；ナデ. 内面；ユビオサエのちナデ.	底径(8.8)cm.
26-8	甕	底部	外面；にぶい赤褐色2.5Y R 4/4.	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒.	外面；ユビオサエのちナデ.	底径(7.2)cm.
26-9	甕	脚部	外面；黒褐色10Y R 3/1, 2/2～にぶい褐色5Y R 7/3. 内面；オリーブ黒色5Y 3/1.	砂粒を含む。石英, 角閃石.	外面；ハケのちユビオサエのちナデ. 内面；ナデ.	脚径6.4cm.
26-10	甕	脚部	灰白色5Y R 8/2, 一部赤黒色10R1.7/1.	細砂粒を含む。黒色粒.	脚部外面・内面；ヨコナデ. 底部外面；ナデ. 内面；ナデ.	脚径9.4cm.

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
26-11	甕	脚部	浅黄橙色7.5Y R8/3.	細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	ユビオサエのちヨコナデ。	脚径9.0cm.
26-12	甕	脚部	外面：浅黄橙色7.5Y R8/3. 内面：明褐灰色7.5Y R7/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。石英、黒色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	内面に工具痕が数条残る。脚径(10.2)cm.
26-13	甕	脚部	外面：赤褐色2.5Y R4/6～橙色2.5Y R6/6. 内面：にぶい橙色5Y R7/4. 脚内面：灰褐色7.5Y R7/3.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面・内面；ナデ。脚内面；ヨコナデ。	脚径7.9cm.
26-14	甕	脚部～底部	にぶい赤褐色2.5Y R5/4. 一部にぶい黄褐色10Y R7/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	ユビオサエのちナデ。脚内面；横方向のナデ。	脚径8.2cm
26-15	甕	胴部～脚部	外面：にぶい褐色7.5Y R5/4. 一部灰色5Y 4/1. 内面：橙色7.5Y R7/6～黄褐色7.5Y R7/8.	細砂粒。赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	脚径7.9cm.
26-16	甕	脚部	外面：にぶい赤褐色。2.5Y R5/4～5Y R5/3. 内面：にぶい赤褐色5Y R4/4～赤褐色2.5Y R4/6.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ユビオサエのちヨコナデ。	脚径9.6cm.
26-17	甕	脚部	外面：橙色5Y R6/6～淡橙色5Y R8/4. 脚部内面；にぶい赤褐色5Y R4/4. 内面；灰白色5Y R8/2.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面・内面；ナデ。脚裾端部；ヨコナデ。	脚径12.6cm.
26-18	甕	脚台部	外面：赤褐色10R6/6～にぶい赤褐色10R4/4. 一部灰色7.5Y R7/8. 黒褐色5Y R3/1. 内面：赤褐色10R6/8. 一部赤褐色2.5Y R4/1. 褐色7.5Y R6/6. 底部内面；褐灰色7.5Y R5/1. 淡赤褐色2.5Y R7/4.	砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、黒色粒。	ナデ。	脚径(10.7)cm.
26-19	甕	脚部	外面：にぶい赤褐色5Y R4/4～にぶい褐色7.5Y R5/4. 内面；にぶい赤褐色5Y R4/3.	粗砂粒から細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ナデ。内面・外底面；ユビオサエのちナデ。	脚径(8.8)cm. 内面に工具痕が残る。外底面の脚部付け根付近に接合線がみられる。
26-20	甕	脚部	外面：にぶい褐色7.5Y R7/3～にぶい赤褐色5Y R4/4. 黒褐色7.5Y R3/2の斑点が見られる。内面：極細赤褐色7.5Y R2/3にぶい赤褐色5Y R4/4.	細砂粒を含む。赤色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	脚径10.9cm.
26-21	甕	脚部	外面：明赤褐色5Y R5/6. 脚台内面；淡黄色2.5Y R8/3. 内面；橙色7.5Y R6/6.	砂粒～細砂粒を含む。赤色粒、黒色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ナデ。外部底面；ユビオサエのちハケ、ナデ。	脚径(11.0)cm.
27-1	壺	口縁部	外面：橙色7.5Y R7/6～黄褐色7.5Y R7/8. 内面；橙色7.5Y R6/8.	砂粒～細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ハケのちナデ。内面；ナデ。口縁端部；ユビオサエのちハケのちナデ。	摩滅が著しい。口径(10.5)cm.
27-2	壺	口縁部	外面：にぶい赤褐色5Y R5/3. 一部赤褐色2.5Y R2/1. 内面；にぶい黄褐色10Y R5/3. 一部褐灰色7.5Y R5/1.	細砂粒を含む。角閃石、白色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ナデ。	
27-3	壺	口縁部	外面：にぶい褐色5Y R7/4. 一部浅黄褐色7.5Y R8/3. 内面；浅黄褐色7.5Y R8/3.	微細。黒色粒。	外面；回転ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	口径(11.75)cm.
27-4	壺	口縁部	浅黄橙色10Y R5/4.	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒。	外面・内面；ナデ？(摩滅のため)。口唇部；ヨコナデ。	口径(24.8)cm.
27-5	壺	口縁部	外面：橙色7.5Y R6/6. 内面；浅黄褐色7.5Y R8/4. 黒褐色7.5Y R3/1.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤色粒、黒色粒。	外面；ハケのちナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	外面；スス付着。口径(14.8)cm.
27-6	壺	口縁部	外面；にぶい赤褐色2.5Y R5/4. 内面；赤褐色5Y R4/6.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ナデ。	口径13.5cm.
27-7	壺	口縁部	外面；灰白色10Y R8/2. 内面；灰白色2.5Y R8/2.	石英、角閃石、5×2mm大の赤色粒を含む。	外面；ナデ、ハケ。内面；ナデ(?)。	摩滅が著しい。口径(14.4)cm.
27-8	壺	口縁部	にぶい橙色2.5Y R6/4.	細砂粒を含む。黒色粒。	外面；ハケ(5本/cm)のちナデ。内面；ナデ。	口径(11.2)cm.
27-9	壺	口縁部	外面；赤褐色2.5Y R4/6. 内面；黒褐色10Y R3/1.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；ミガキ。内面；ナデ。	口径15.2cm.
27-10	壺	口縁部	外面；灰白色10Y R8/2. 一部にぶい黄褐色10Y R5/3. 内面；灰白色10Y R8/2.	細砂粒を含む。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ナデ。	摩滅が著しい。
27-11	壺	口縁部	外面；灰白色5Y R8/1. 内面；明褐灰色7.5Y R7/2.	細砂粒を含む。石英、角閃石、白色粒、赤色粒、黒色粒。	外面；ハケ。内面；ハケ+ヨコナデ+ユビオサエ。	口径15.6cm.



図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
29-1	壺	底部	明赤褐色5Y R5/8.	砂粒を含む。礫を少量含む。角閃石、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	工具痕が内面底近くにある。
29-2	壺	底部	外面；明褐色7.5Y R7/2。内面；にぶい橙色7.5Y R7/3.	砂粒・細砂粒を含む。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ(?)	底径(10.2) cm.
29-3	壺	底部	外面；橙色7.5Y R7/6と黄褐色7.5Y R7/8.一部オリーブ黒10Y 3/1-3/2。内面；明赤褐色5Y R5/8と浅黄褐色7.5Y R8/4.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石、赤色粒。	外面；ユビオサエのちナデ。内面；ユビオサエのちハケ+ナデ。	底径4.3cm.
29-4	壺	底部	外面；明赤褐色5Y R6/6。内面；灰黄色2.5Y 7/2。一部ススのため黒色。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石、白色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	底径(8.0) cm.
29-5	壺	胴部～底部	外面；明赤褐色2.5Y R5/6。内面；橙色5Y R6/6.	砂粒・細砂粒を含む。白色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	
29-6	壺	底部	外面；にぶい橙色5Y R6/4。～褐色5Y R6/6.一部褐色10Y R4/1.内面；橙色5Y R6/6.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石、白色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	底径5.6cm.
30-1	高杯	杯部	外面；淡褐色5Y R8/4.一部赤色顔料付着のため赤色10R4/6。内面；にぶい黄褐色10Y R7/2.	微細。赤色粒。	ナデ。	
30-2	高杯	杯底部～脚部	灰白色10Y R8/2。一部褐色10Y R6/1.	砂粒・細砂粒を含む。赤色粒。	ナデ。底部外面；ハケのちナデ。	
30-3	高杯	脚部	橙色2.5Y R7/6.	微細。赤色粒を含む。	外面；ナデ。内面；ケズリ。	脚径12.6cm.
30-4	高杯	脚部	外面；(赤色顔料付着のため)にぶい赤褐色2.5Y R4/4。内面；極暗赤褐色5Y R2/4.	微細。	外面；ミガキ?。内面；ナデ。	磨減が著しい。
30-5	高杯	脚部	外面；褐色2.5Y R6/6。(赤色顔料付着のため)一部赤褐色10R5/4。内面；にぶい褐色7.5Y R7/6～6/6.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	ナデ。	
30-6	高杯	脚部	外面；淡褐色5Y R8/4～灰白色10Y R8/1.内面；灰白色2.5Y 8/2.	微細。黒色粒。	ナデ。	磨減が著しい。脚径9.8cm.
30-7	高杯	脚部	外面；(赤色顔料付着のため)赤褐色10R6/8.一部暗赤褐色5Y R3/2の付着物有り。内面；褐色5Y R6/6.	細砂粒を含む。角閃石、黒色粒。	外面；(横方向1mm幅の)研磨。内面；ナデ。	
30-8	高杯	脚部	外面；褐色7.5Y R6/6～明褐色7.5Y R5/6.一部にぶい赤褐色2.5Y R4/4の付着有り。内面；褐色7.5Y R6/8.	細砂粒を含む。赤色粒、黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	磨減が激しい。底径(12.3) cm.
30-9	罎	完形品	外面；赤色顔料(赤色10R5/8)付着。内面；明褐色5Y R7/2.	微細。	外面；(ハケのち?)横方向のミガキ。	磨減が激しい。口径(11.1)cm。底径5.4cm。器高15.4cm.
30-10	罎	胴部～底部	外面；褐色5Y R7/6。内面；淡褐色5Y R8/4。一部黒斑有り。	細砂粒を含む。	外面；ナデ(?)。内面；ユビオサエのちナデ。	磨減している。底径4.1cm.
30-11	罎	胴部～底部	外面；(赤色顔料付着のため)褐色5Y R6/6。にぶい赤褐色5Y R4/3.一部(スス付着のため)黒色10Y R1.7/1.内面；灰白色10Y R7/1.	微細。黒色粒。	外面；ミガキ?。内面；ナデ。	底径3.3cm.
30-12	罎	胴部～底部	灰白色7.5Y R8/1.外面；一部明褐色5Y R7/1.	微細。赤色粒を含む。	外面；ナデのち横方向のミガキ。内面；ユビオサエのちナデ。	接合線が明瞭に残る。底径5.6cm.
30-13	罎	胴部～底部	褐色7.5Y R6/6.	微細。	ナデ(?)。	磨減している。底径(5.8)cm。底面に一部赤色顔料が付着している。
30-14	罎	頸部～底部	外面；灰白色5Y R8/2.一部褐色10Y R4/1.内面；黄灰色2.5Y 5/1.一部にぶい褐色7.5Y R5/4.	砂粒・細砂粒を含む。赤色粒。	外面；ナデ。内面；ユビオサエのちナデ。	底径1.8cm.
30-15	罎	頸部	外面；(赤色顔料付着のため)赤色。内面；明黄褐色。	細砂粒を少し含む。白色粒、黒色粒。	外面；横方向のミガキ。内面；ハケのちナデ。ユビオサエ。	脚部径(6.7) cm.
30-16	罎	胴部	外面；明赤褐色2.5Y R5/6。一部赤灰色2.5Y R4/1.内面；暗赤色10R3/4.	微細。角閃石、黒色粒。	外面上部；ケズリのちナデ。外面下部；ナデ。内面；ナデ。	傾き不明。

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
30-17	埴	底部	外面；浅橙色5Y R8/4、 褐色7.5Y R6/1。内 面；褐色7.5Y R5/1、 にぶい黄橙色10Y R7/ 2。	微細。赤色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	底径2.6cm。
30-18	埴	底部	外面；(赤色顔料付着の ため)赤色10R4/8、一部 黒褐色10Y R3/1。内 面；褐色10Y R5/1。	微細。黒色粒。	内面；ユビオサエのち ナデ。	底径(4.1)cm。
30-19	埴	底部	外面；(赤色顔料付着の ため)赤色7.5R4/8、一 部浅黄橙色7.5Y R8/ 3。内面；黄灰色2.5Y 5/1。一部明褐色7.5Y R6/8-灰白色2.5Y7/ 1。	微細。角閃石	外面；横方向のミガキ。 内面；ユビオサエのち ナデ。	底径3.7cm。
31-1	鉢	体部～底 部	外面・内面；にぶい黄橙 色10Y R7/4。底面；灰 黄褐色10Y R6/2。一部 黒褐色10Y R3/1。	石英、角閃石を多数含 む。	外面；ナデ。内面；ハ ケのちナデ。	底径4.0cm。
31-2	鉢	底部	外面・内面；橙色5Y R 6/6。底面；橙色5Y R 6/6。一部暗灰色N3/1。	砂粒を含む。角閃石、 黒曜石(?)、黒色粒。	外面；ユビオサエのち ナデ。内面；ナデ。	底径(4.8)cm。
31-3	鉢	底部	外面；青黒色5B G2/1。 内面；黒褐色2.5Y3/2。	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒。	外面；ハケ。内面；ナ デ。	
31-4	壺	底部	外面；にぶい黄橙色10Y R7/4。一部黒褐色10Y R3/1。内面；明赤褐色 5Y R5/8。一部橙色7.5 Y R7/6。	細砂粒を含む。角閃石、 黒色粒。	ユビオサエのちナデ。 底部外面；ナデ。	底径5.2cm。
31-5	壺	底部	外面；にぶい赤褐色5 Y R5/4。内面；にぶい 赤褐色5Y R4/4。	砂粒を含む。石英、角 閃石、白色粒。	摩滅のため不明。	摩滅している。底 径1.3cm。
31-6	鉢	完形品	外面；にぶい橙色5Y R6/4。内面；にぶい 橙色5Y R6/3。	細砂粒を含む。角閃石、 黒色粒。	ハケのちナデ。底部外 面；ナデ。	ナデ調整が粗雑。 口径(12.5)cm。
31-7	鉢	口縁部	外面；にぶい橙色7.5 Y R7/4。内面；にぶ い橙色7.5Y R6/4。	粗砂粒・砂粒を含む。 石英、角閃石、白色粒、 赤色粒、黒色粒。	外面；ハケ。内面；横 方向のナデ。ハケ(?) のちナデ。	摩滅している。
31-8	鉢	口縁部	外面；浅黄橙色7.5Y R8/3。内面；にぶい 橙色7.5Y R7/4。	砂粒を含む。角閃石。	口唇部；ヨコナデ。外面； ユビオサエ・ハケのちナ デ。内面；ナデ・ハケ。	
31-9	鉢	口縁部	外面；灰褐色5Y R5/2、 一部暗赤灰色2.5Y R3/ 1。内面；灰褐色7.5Y R 5/2。	細砂粒を含む。角閃石、 白色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	
31-10	鉢	口縁部	外面；にぶい黄橙色10Y R7/3。内面；にぶい黄 橙色10Y R7/2-褐色 5Y R6/1。	細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	
31-11	甕	口縁部	明褐色7.5Y R5/6。	細砂粒を含む。黒色粒。	外面；ナデ。内面；ユ ビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
31-12	鉢	口縁部	外面；灰褐色7.5Y R5/2。 内面；褐色5Y R5/1。	粗砂粒～細砂粒を含む。 石英、角閃石、黒色粒。	ユビオサエのちナデ。	
31-13	鉢	頸部	外面；淡黄橙色5Y R 8/4。内面；淡黄橙色 5Y R8/3。	細砂粒を含む。角閃石、 赤色粒。	ナデ。	胴部に斜位の沈線。
31-14	(手づくね 土器)	完形品	外面；赤灰色2.5Y R 4/1。内面；暗赤灰色 2.5Y R3/1。	細砂粒を含む。白色粒。	外面；ユビオサエのちケ ズリ。底部外面・内面； ユビオサエのちナデ。	口径 6.9cm。 脚径 3.0cm。 器高 5.5cm。
31-15	(手づくね 土器)	完形品	灰褐色5Y R6/2-緑 黒色10G Y2/1。	細砂粒を含む。赤色粒。	外面；ユビオサエのちナ デ。内面；ユビオサエ。	口径 5.9cm。 器高 2.9cm。
32-1	碗	口縁部～ 底部	外面；橙色7.5Y R7/6。 灰褐色5Y R4/2。内 面；橙色7.5Y R7/6。	微細。赤色粒。	回転台によるナデ。底 面；ナデ。	口径12.5cm。 底径 6.6cm。 器高 6.6cm。
32-2	碗	脚～胴部	外面；浅黄橙色7.5Y R 8/3。内面；明褐色7.5 Y R5/6。一部黒褐色 7.5Y R3/1。外・内面 とも赤色顔料(褐色2.5 Y R6/6)付着。	微細。	ナデ。	底面に粘土紐の巻跡 が見られる。内・外 面に一部ス(?) 状の黒色部が見られ る。底径6.8cm。
32-3	杯	完形品	外面；赤褐色2.5Y R 4/6。内面；暗赤色10 Y R3/4。	微細。黒色粒。	回転台によるナデ。	口径13.4cm。 底径 8.8cm。 器高 4.1cm。
32-4	皿	口縁部	灰白色7.5Y R8/1。	微細。灰色。	施釉。	
32-5	碗	脚部～底 部	施釉された部分は灰オ リーフ7.5Y5/3類似。 無釉の部分は黄灰色2.5 Y6/2。	灰白色。	施釉。	底径 5.5cm。

図番号	器種	部位	色調・釉調	胎土・磁胎	調整・施文	備考
27-12	壺	口縁部	外面：にぶい橙色2.5 Y R 6/4。内面：橙色7.5 Y R 6/8。	粗砂粒～微細な砂粒を含む。石英，角閃石，白色粒。	外面：ハケ？のちナデ。口唇部・内面：ナデ？	内面：所々剥落している。全体に摩滅している。口径(15.0) cm。
27-13	壺	頸部	外面：にぶい橙色2.5 Y R 6/4。内面：にぶい橙色7.5 Y R 7/3。	砂粒～細砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	内面の摩滅が著しい。
27-14	壺	口縁部	外面：にぶい橙色5 Y R 6/4。内面：にぶい黄橙色10 Y R 7/3。	砂粒を含む。石英，角閃石，白色粒，赤色粒，黑色粒。	外面：ハケのちナデ。	
27-15	壺	口縁部	外面：橙色5 Y R 7/8-浅黄橙色7.5 Y R 8/3，一部明褐色7.5 Y R 7/1。内面：明褐色5 Y R 7/2，一部明褐色7.5 Y R 7/1。	石英，角閃石，白色粒，黑色粒。	ナデ？	摩滅が著しい。口径(25.3) cm。
28-1	壺	口縁部	淡赤橙色2.5 Y R 7/4。口唇部上面：淡橙色5 Y R 8/3。	粗砂粒～細砂粒を含む。石英，角閃石，軽石，白色粒，赤色粒。	外面：ナデ・ヨコ方向のハケ。内面：ハケのちナデ。口唇部：ナデ。	口径(15.0) cm。
28-2	壺	口縁部	外面：褐色7.5 Y R 4/3。内面：橙色7.5 Y R 6/6。	砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	口唇部：ヨコナデ。その他：ナデ(?)	
28-3	壺	口縁部	外面：暗赤褐色7.5 R 3/3。内面：にぶい赤褐色2.5 Y R 5/4。	砂粒を含む。石英，角閃石。	口縁端部：ヨコナデ。全体：ナデ。	
28-4	壺	肩部	外面：橙色2.5 Y R 6/6。内面：にぶい橙色5 Y R 6/3。	砂粒～細砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	ナデ。	摩滅が著しい。
28-5	壺	肩部	外面：にぶい赤褐色5 Y R 5/4。内面：にぶい赤褐色2.5 Y R 5/4。	細砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	
28-6	壺	肩部	外面：橙色2.5 Y R 5/8。内面：明赤褐色5 Y R 5/8。	砂粒～細砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	外面：ナデ？。内面：ユビオサエのちナデ？。	摩滅が著しく調整が判然としない。
28-7	壺	胴部	外面：灰褐色5 Y R 5/2。内面：橙色7.5 Y R 6/6，一部褐色7.5 Y R 4/1。	砂粒を含む。石英，角閃石，白色粒，赤色粒，黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。
28-8	壺	肩部	外面：にぶい橙色7.5 Y R 6/4，一部黄灰色2.5 Y R 6/1，褐色2.5 G Y 2/1(黒斑?)。内面：褐色7.5 Y R 4/3。	砂粒～細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ナデ。突帯上部・下部：横方向のナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	突帯に斜位の刻みあり。
28-9	壺	胴部	外面：淡橙色5 Y R 6/4，胴部下部明褐色5 Y R 6/1，一部青黒色5 P B 2/1。内面：にぶい橙色5 Y R 7/4。	砂粒を多く含む。石英，角閃石，白色粒。	ハケのちナデ。	頸部径(8.4) cm。胴部径(20.6) cm。
28-10	壺	頸部～底部	橙色5 Y R 6/8。	砂粒を含む。石英，黑色粒。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。一部ハケ目残存。接合痕が見られる。	
28-11	壺	胴部	外面：にぶい褐色7.5 Y R 5/3～灰褐色7.5 Y R 5/2，一部黒色N/2。内面：黒色N/2と明褐色7.5 Y R 5/6が縞状になっている。	砂粒～細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：剥落のため不明。	
28-12	壺	底部	外面：にぶい橙色5 Y R 7/4，一部灰白色2.5 Y 7/1。内面：にぶい赤褐色2.5 Y R 4/3。	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	
28-13	壺	底部	外面：橙色2.5 Y R 7/6。内面：褐色5 Y R 8/3。	細砂粒を含む。黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	摩滅が著しい。底径(8.4) cm。
28-14	壺	底部	外面：橙色2.5 Y R 6/6。底面：赤灰色2.5 Y R 4/1。内面：灰褐色5 Y R 5/2。	砂粒を含む。石英，白色粒，赤色粒。	ナデ。	
28-15	壺	底部	外面：にぶい赤褐色2.5 Y R 4/4。内面：褐色7.5 Y R 4/4。	細砂粒を含む。黑色粒。	外面：ナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	底径(7.0) cm。
28-16	壺	底部	外面：淡赤褐色2.5 Y R 7/4，一部灰褐色7.5 Y R 6/2，黒斑(灰色5 Y 4/1)あり。内面：褐色7.5 Y R 6/6。	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石，黑色粒。	ユビオサエのちナデ。	底径(5.1) cm。
28-17	壺	底部	外面：黒褐色10 Y R 3/1，一部にぶい橙色5 Y R 7/4。内面：褐色10 Y R 5/1。	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英，角閃石，赤色粒。	外面：ハケのちナデ。	外面と底面に黒斑あり。底径(5.4) cm。

## II. 鹿児島大学構内遺跡（郡元団地H-11区地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オパール分析結果

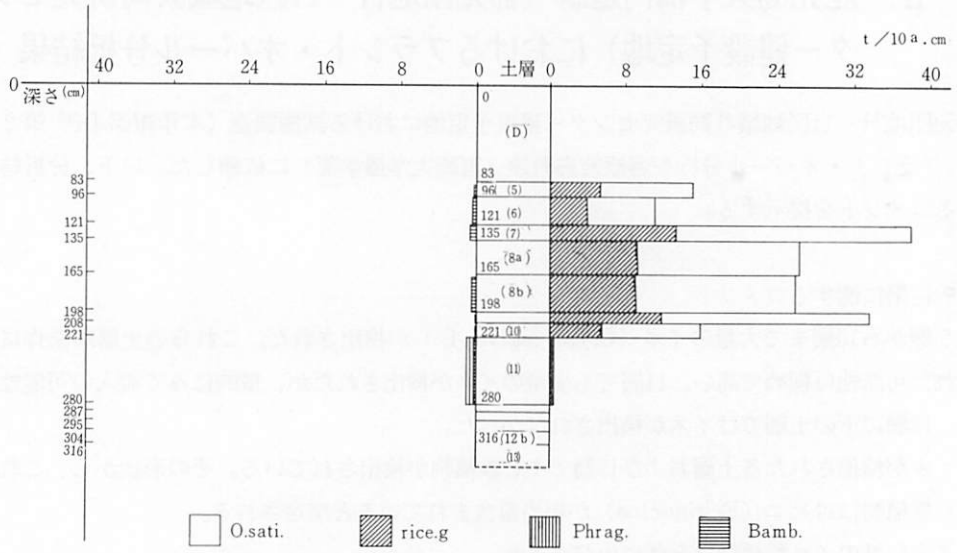
郡元団地H-11区地域共同研究センター建設予定地における試掘調査（本年報第I部 第2章）では、プラント・オパール分析を藤原宏志教授（宮崎大学農学部）に依頼した。以下、分析結果に関するコメントを提示する。

### 分析結果に関するコメント

- 1 5層から10層まで大量のイネ（*Oryza sativa* L.）が検出された。これらの土層が稲作に利用された可能性は極めて高い。11層でも少量のイネが検出されたが、量的にみて流入の可能性が高い。12層以下の土層ではイネが検出されなかった。
- 2 イネが検出された各土層および13層でキビ族植物が検出されている。その形状から、これらのキビ族植物にはヒエ（*Echinochloa*）が相当量含まれていると推定される。
- 3 イネ以外のイネ科植物は全体に少なかった。
- 4 7層から9層で検出されるイネは極めて多量であり、同時代の他遺跡に比較しても不自然と思えるほどである。あるいは、当時、ここで栽培されたイネの系統が特殊なものであったかも知れない。プラント・オパール形状解析を行い、イネ系統の検討を試みる必要もあろう。

表4 プラント・オパール定量分析結果

層名	植物体乾重（t/10a. cm）						
	イネ ( <i>O. sati.</i> )	イネ粳 (rice g.)	キビ族 ( <i>Pani.</i> )	キビ族種実 ( <i>Pani. seed</i> )	ヨシ ( <i>Phrag.</i> )	タケ亜科 ( <i>Bamb.</i> )	ウシクサ族 ( <i>Andoro.</i> )
D	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
5	15.090	5.286	2.846	1.292	0.000	0.224	3.471
6	11.156	3.909	9.259	4.205	0.000	0.364	1.882
7	38.002	13.314	3.285	1.492	0.000	0.646	2.337
8a	26.262	9.200	4.843	2.199	0.000	0.000	0.985
8b	25.805	9.040	10.447	4.744	0.000	0.514	1.858
9	33.672	11.797	16.768	7.614	0.000	0.110	2.272
10	15.888	5.566	12.362	5.614	0.000	0.081	2.513
11	0.427	0.150	1.773	0.805	1.007	0.140	0.180
12a	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12b	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12c	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12d	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
13	0.000	0.000	4.163	1.890	0.000	0.000	0.338



第33図 プラント・オパール定量分析結果

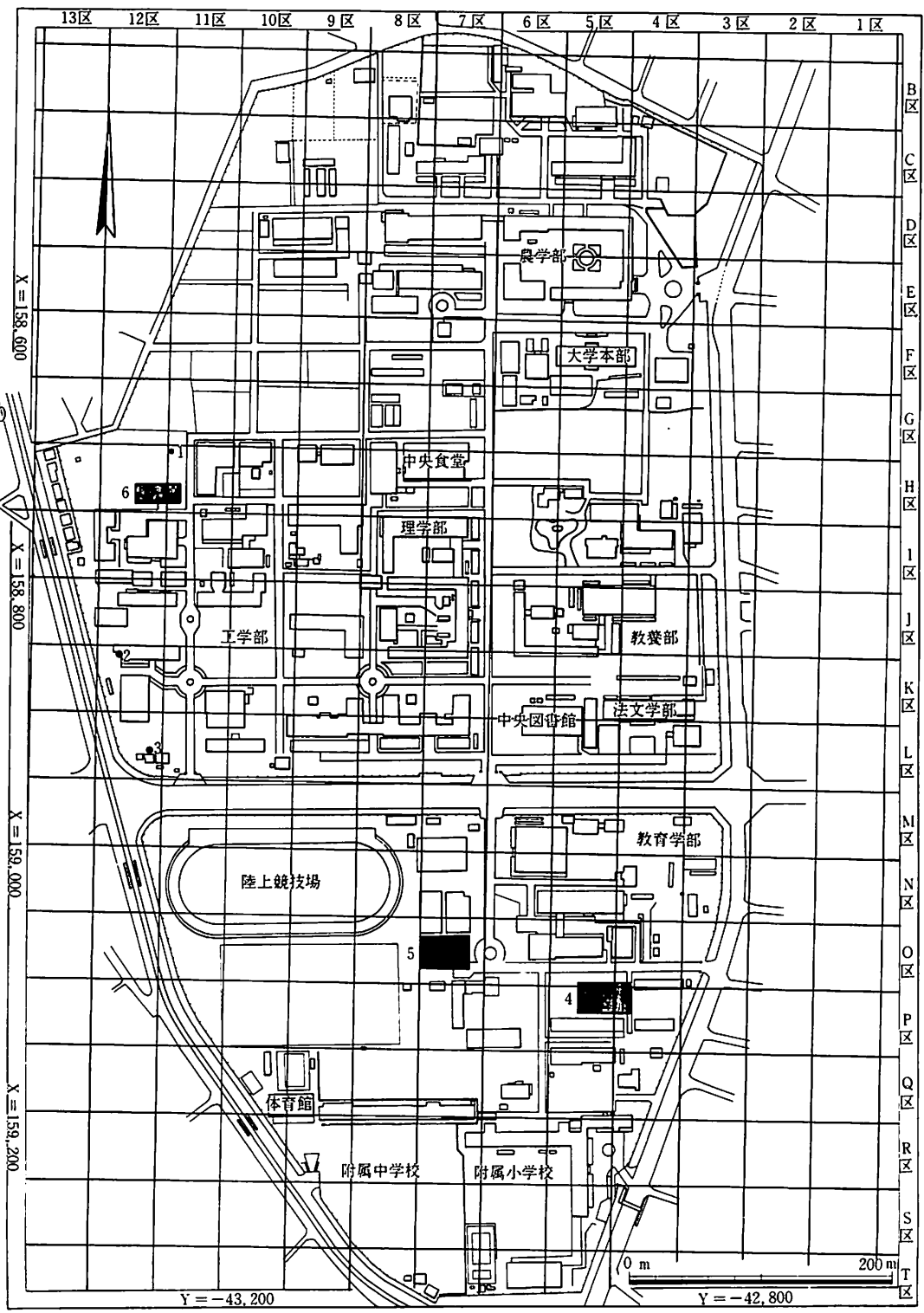
# 圖 版



図版 2

鹿児島大学郡元団地構内図 S II

1/5,000

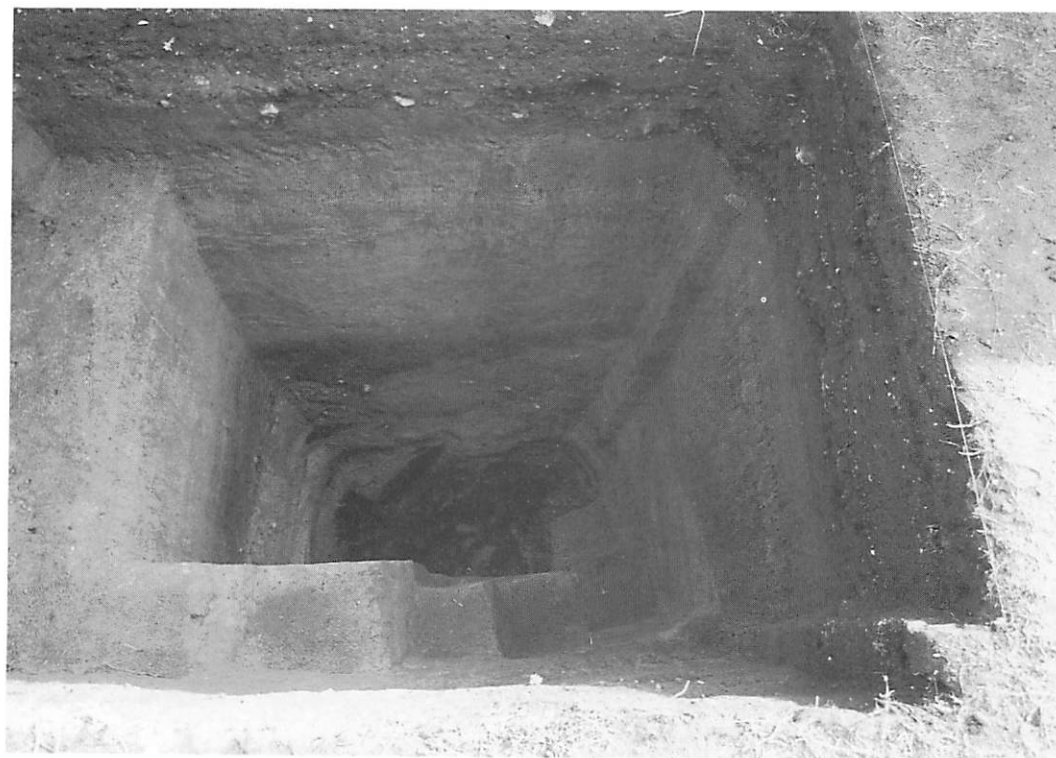


1. 地域共同センター建設予定地
2. 工学部応用化学工学科エレベーター建設予定地
3. 稲盛ホール建設予定地
4. 教育学部音楽美術棟建設予定地
5. 福利厚生施設建設予定地
6. 工学部情報工学科校舎





(1) 調査地点 (東から)



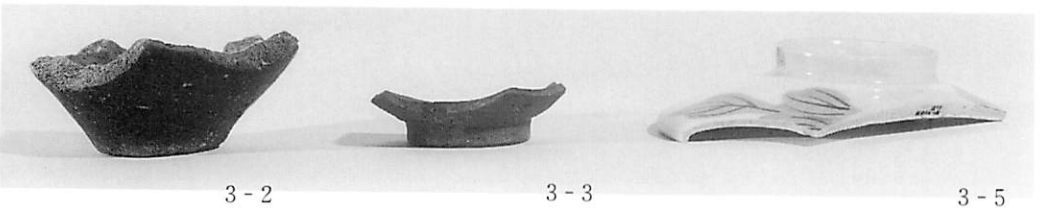
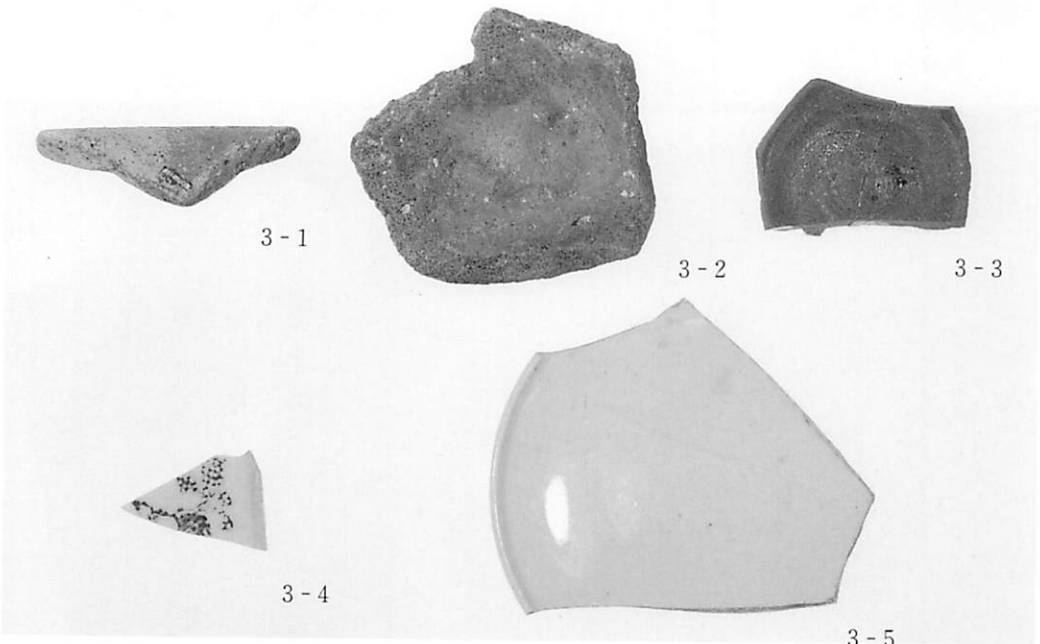
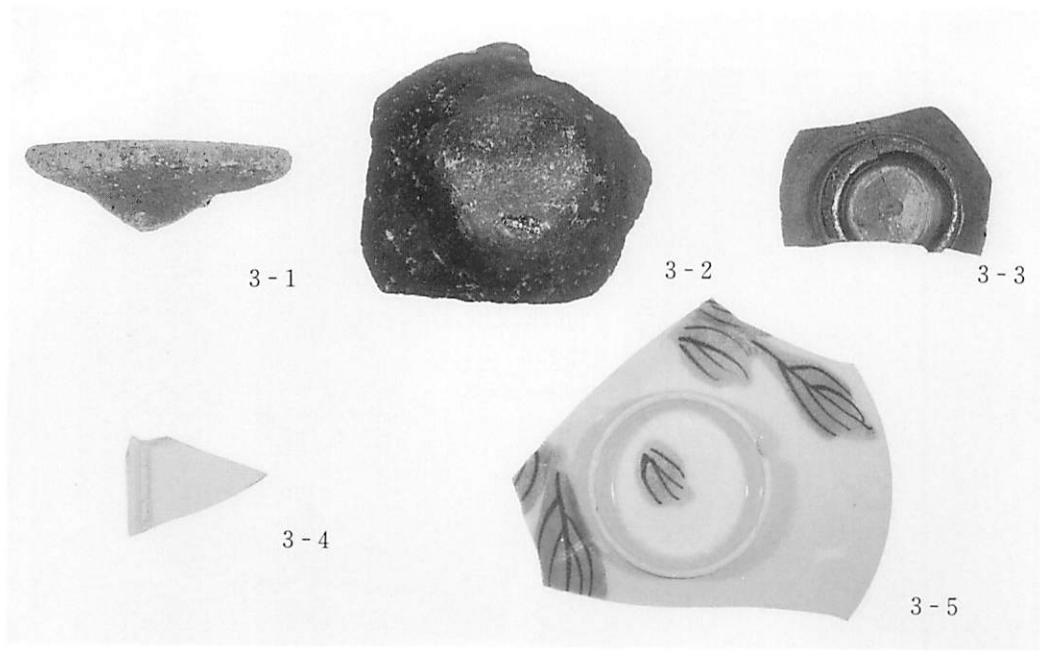
(2) トレンチ完掘状況



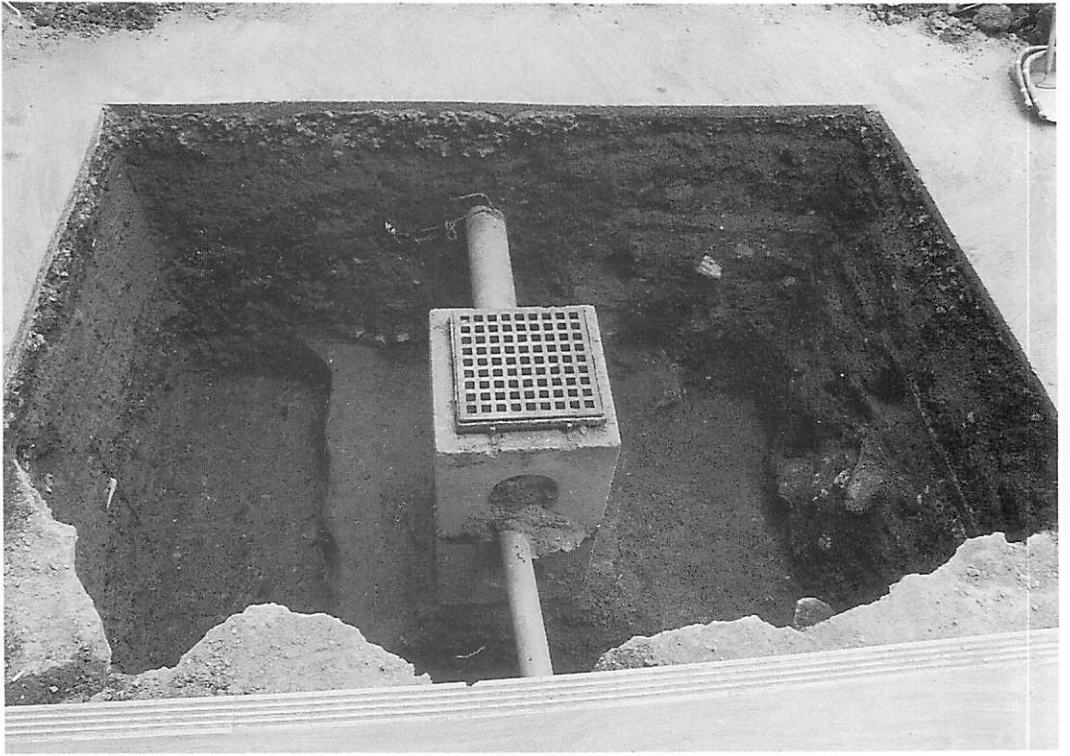
(3) 木片出土状況 (真上から)



(4) 木片出土状況 (北から)



出土遺物



(1) 調査地点（北から）



(2) 北壁





(1) 調査地点 (南から)



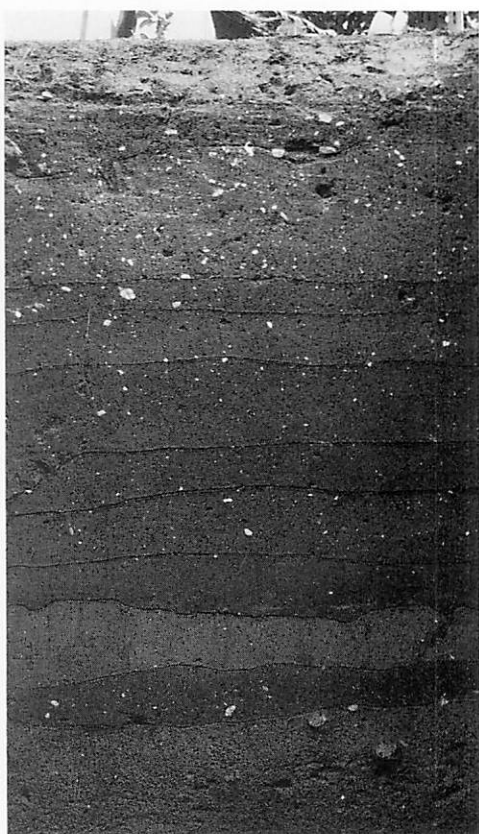
(2) No 1 トレンチ遺構面検出状況



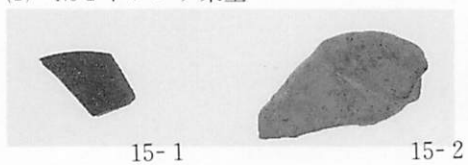
(3) No 2 トレンチ⑱層上面検出状況



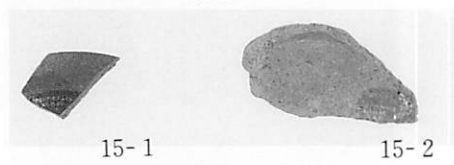
(1) No 1 トレンチ東壁



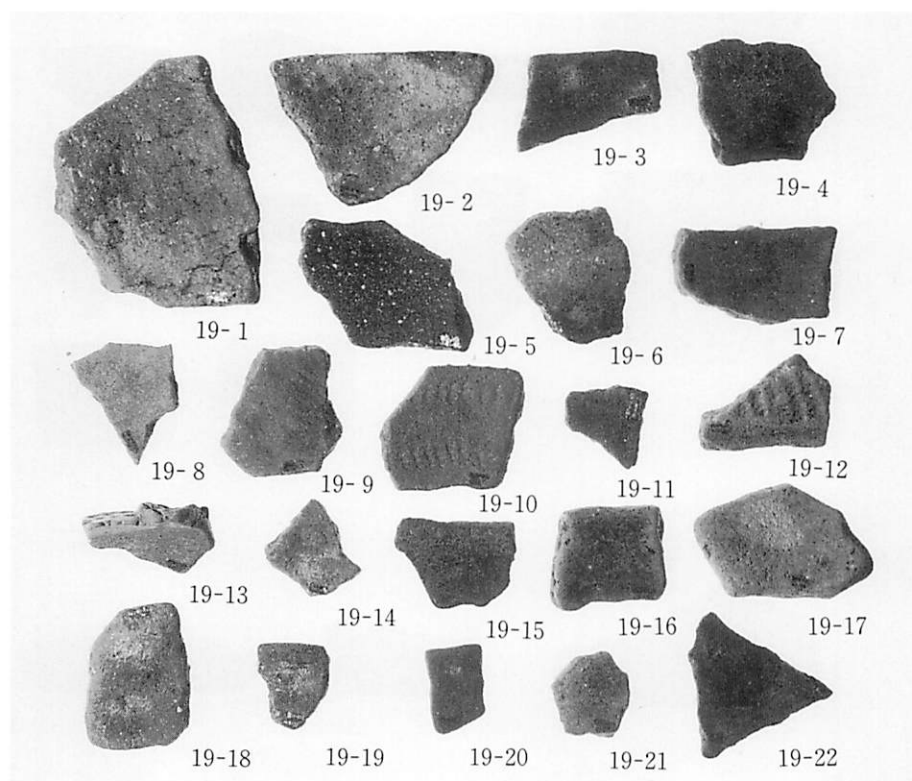
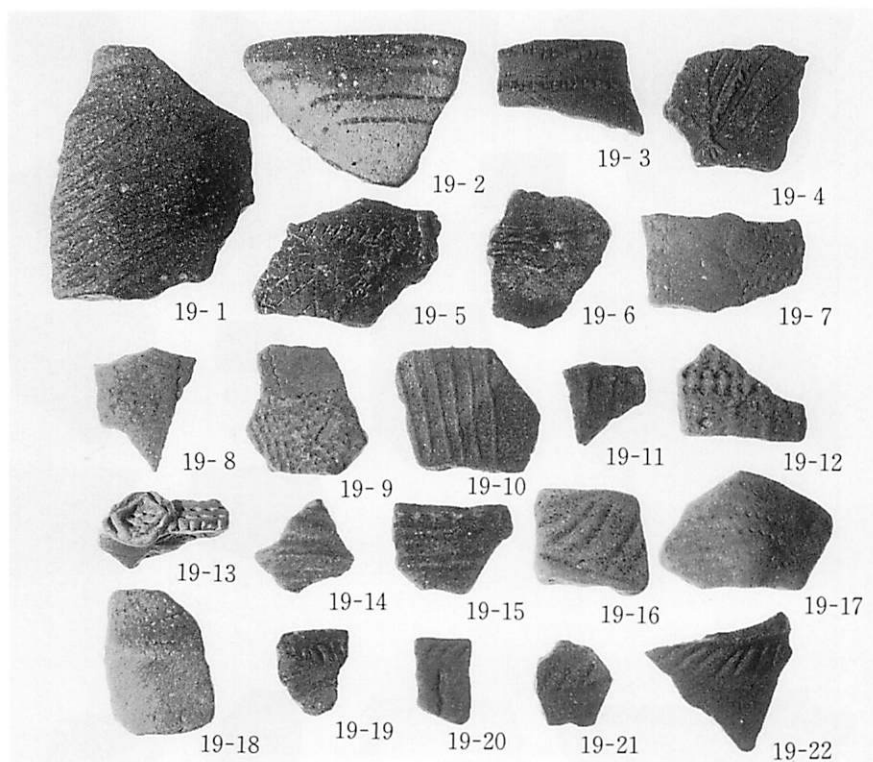
(2) No 2 トレンチ東壁

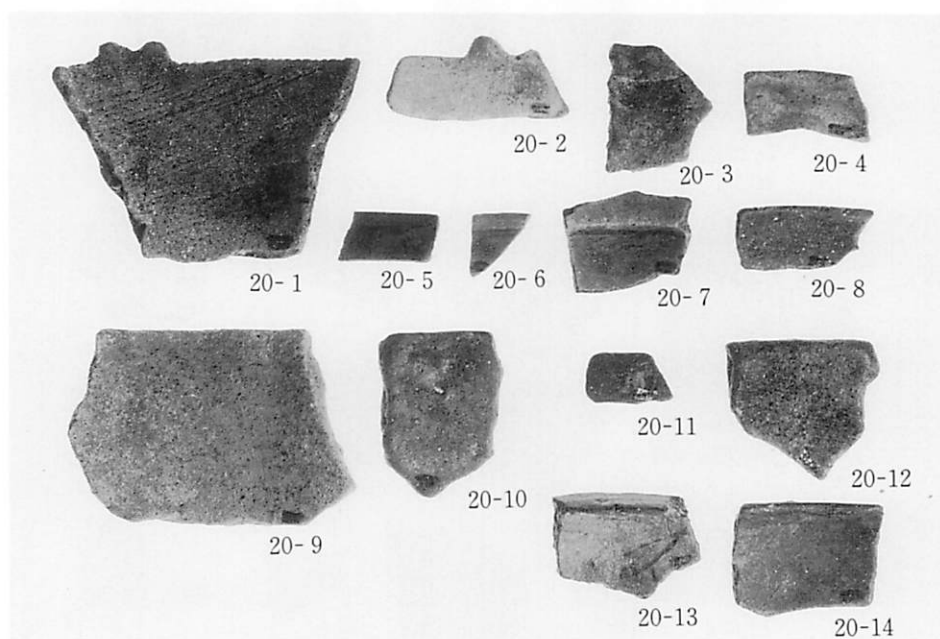
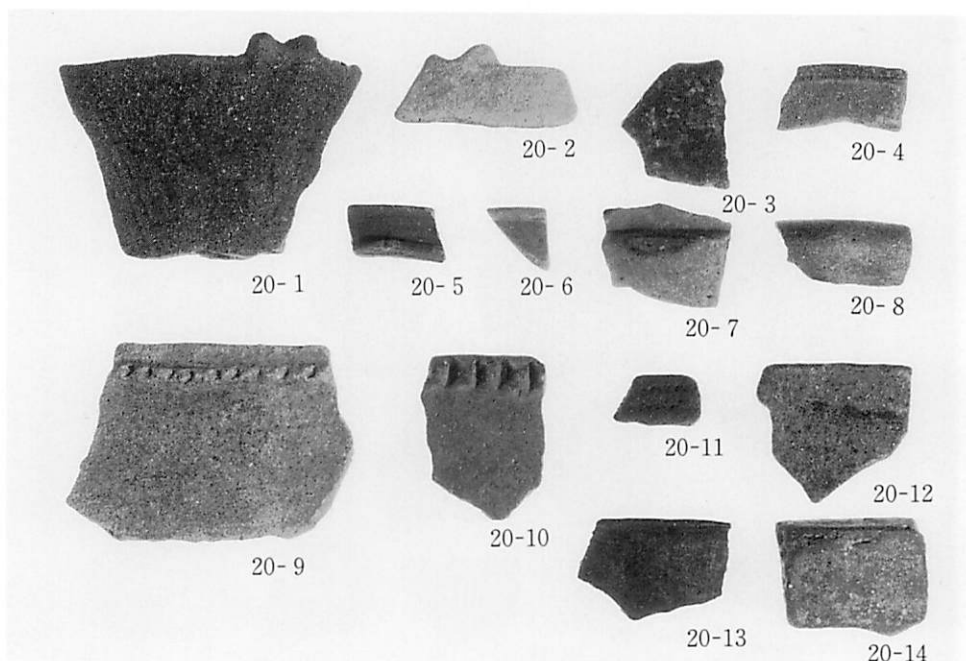


(3) 出土遺物 (表)

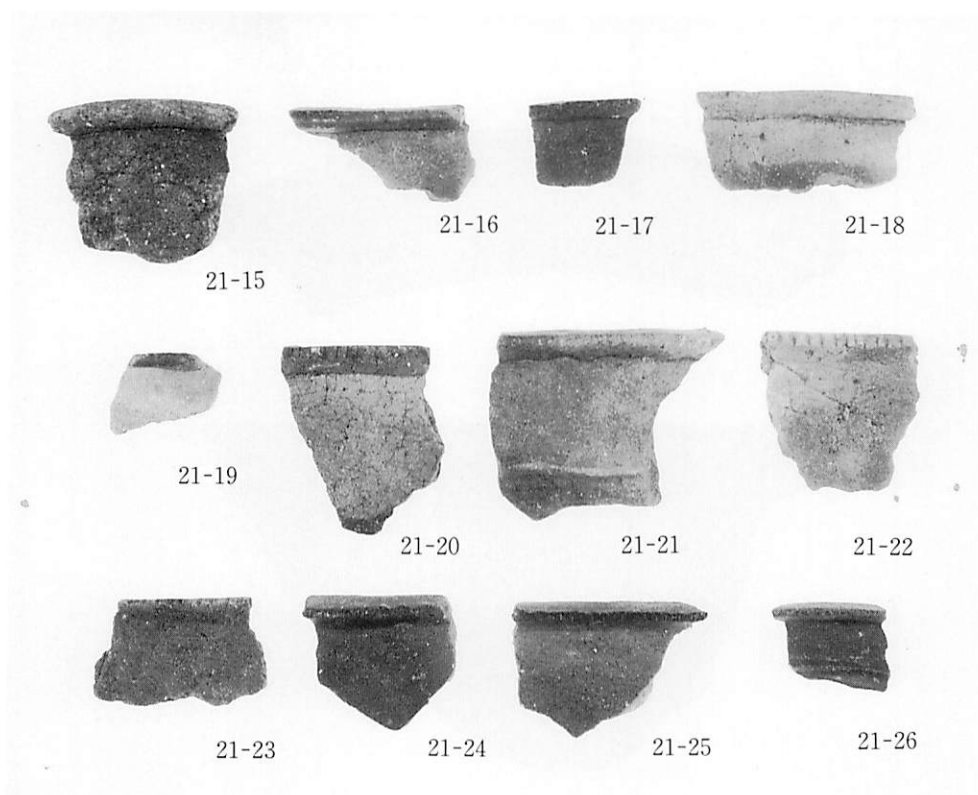
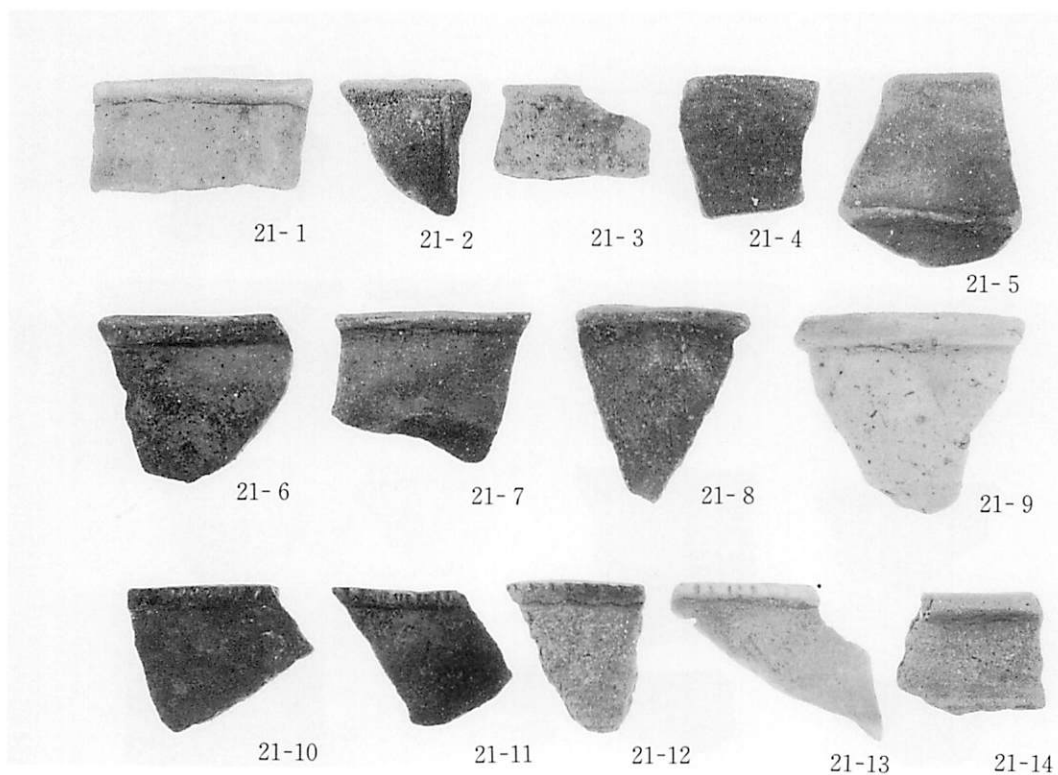


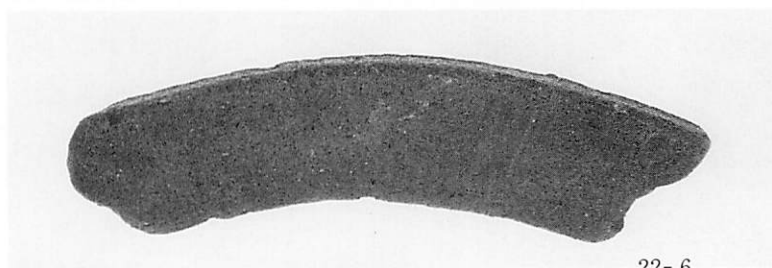
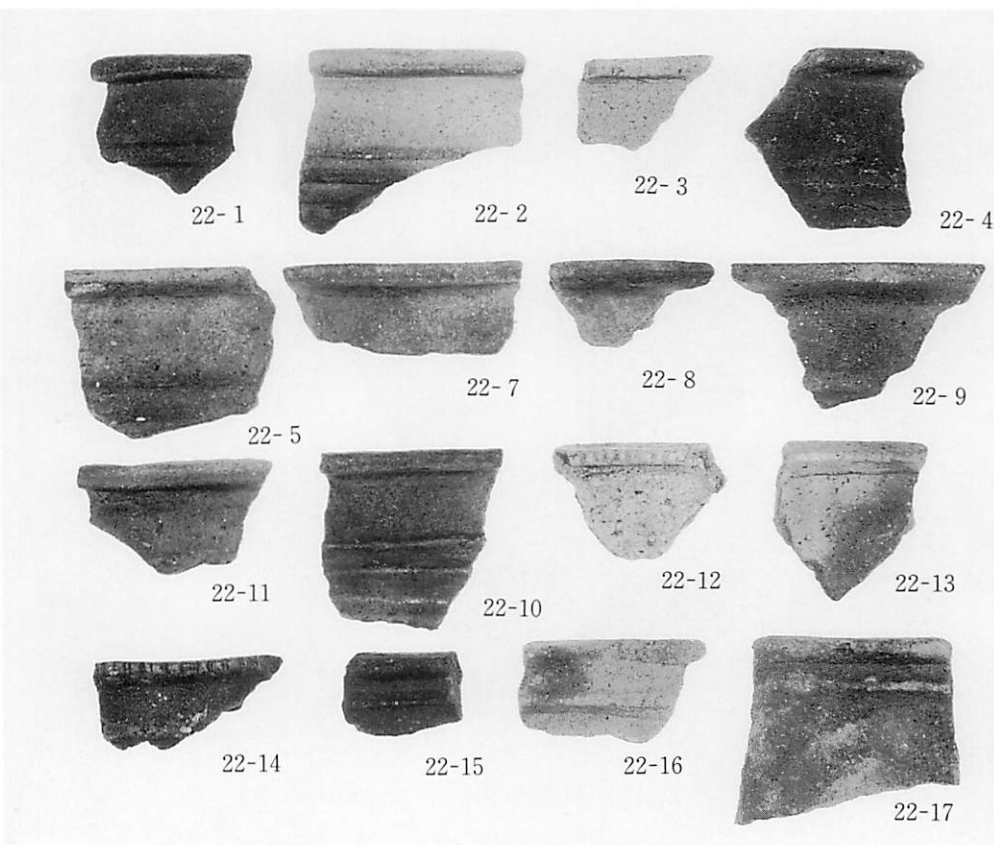
出土遺物 (裏)

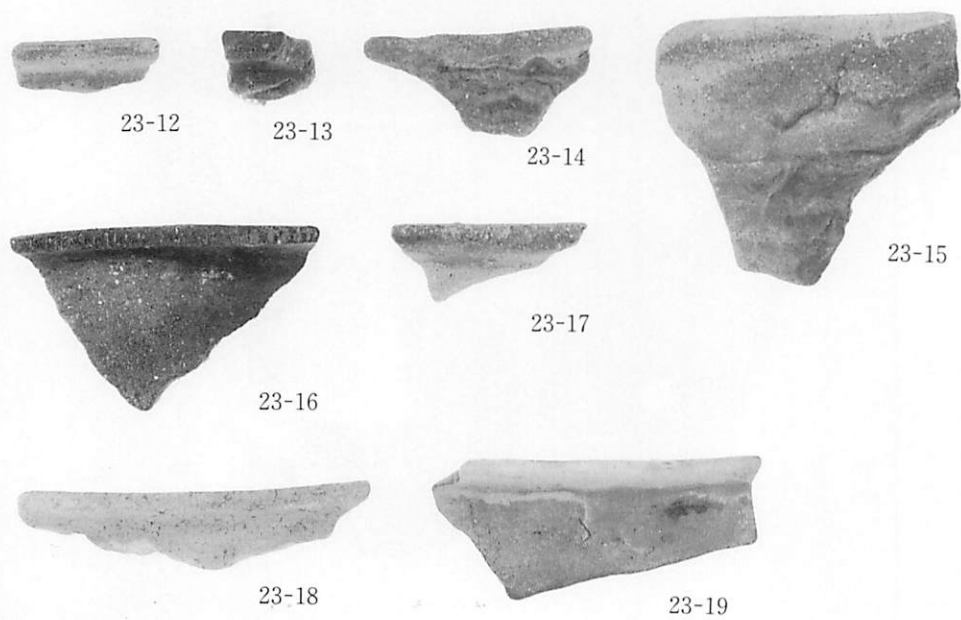
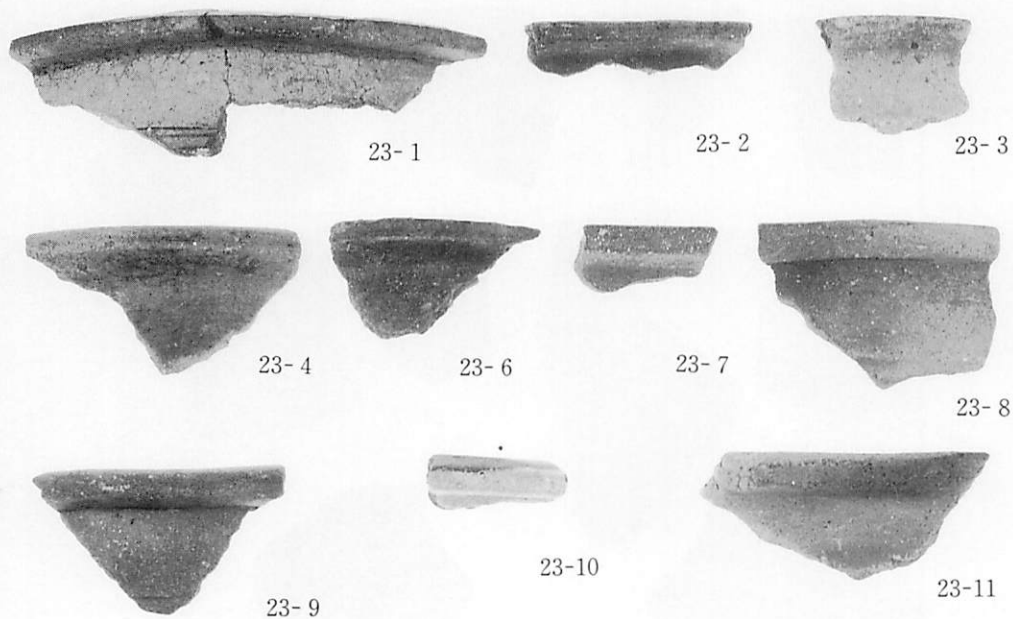




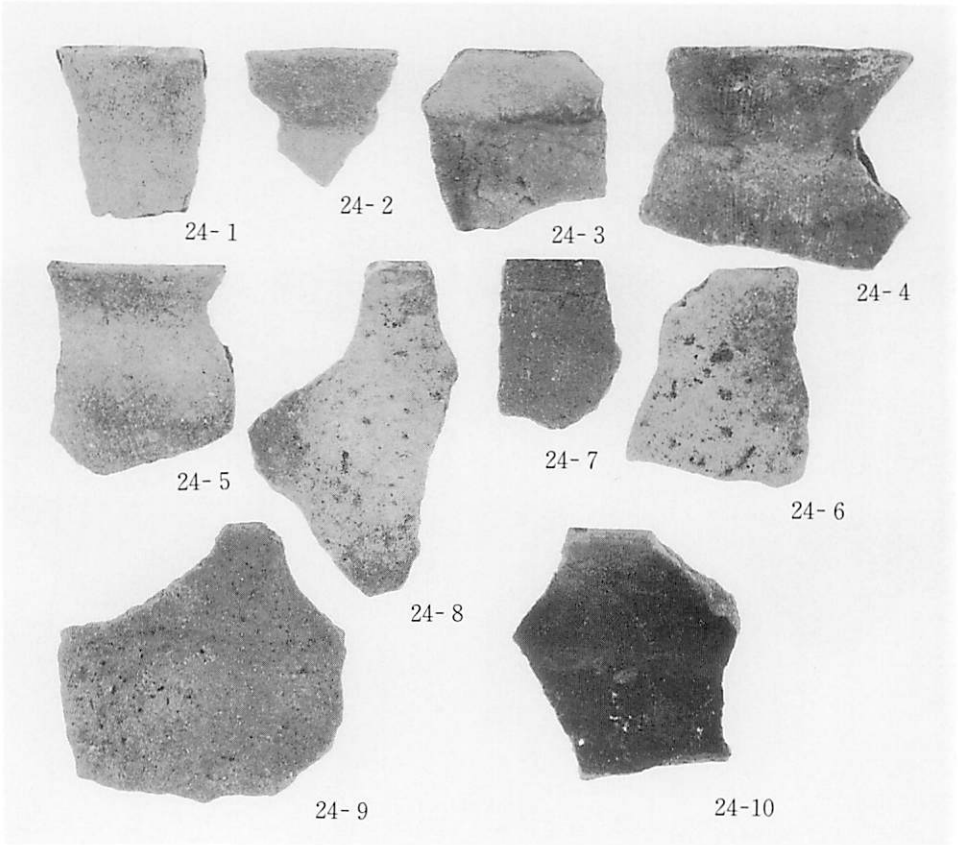


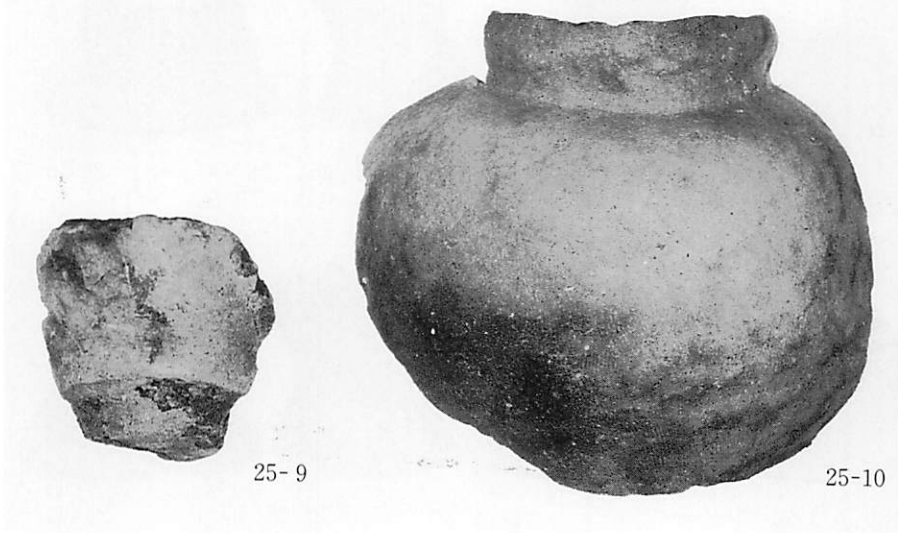
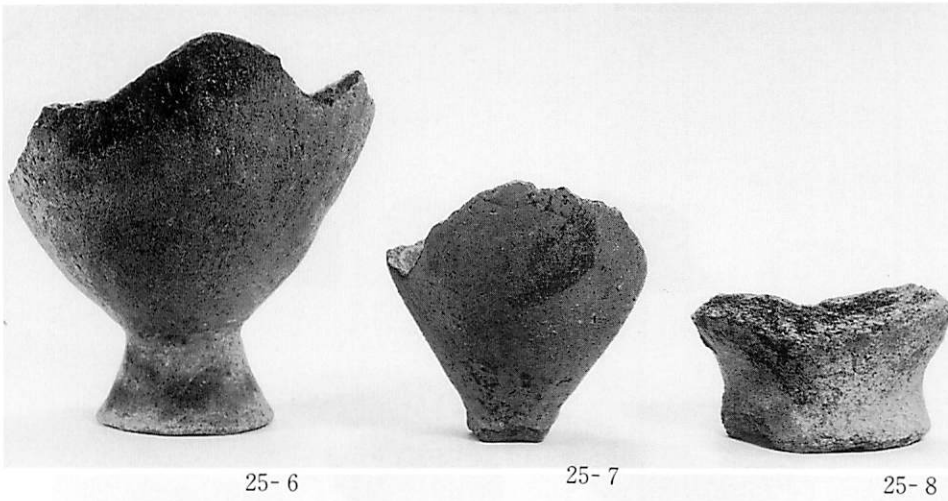
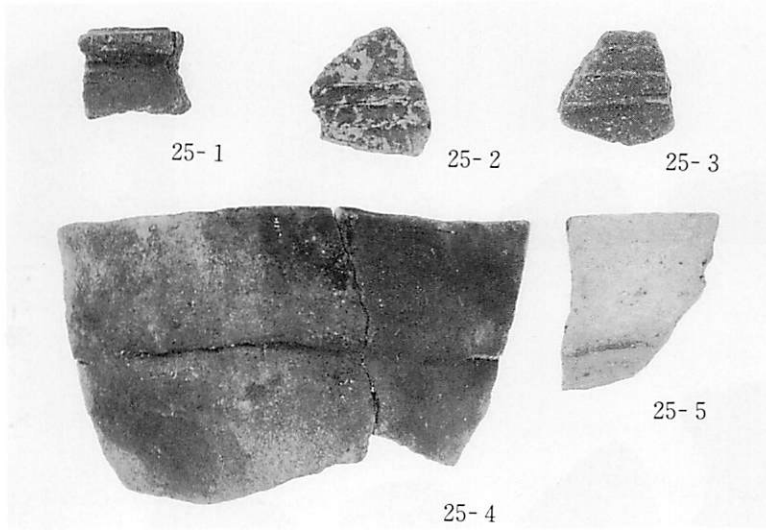


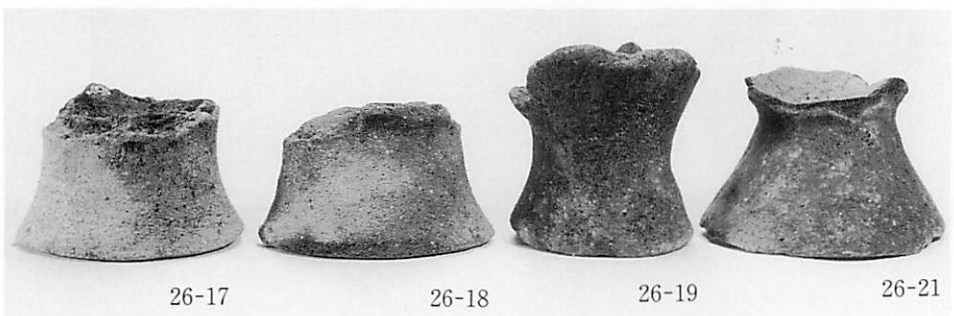
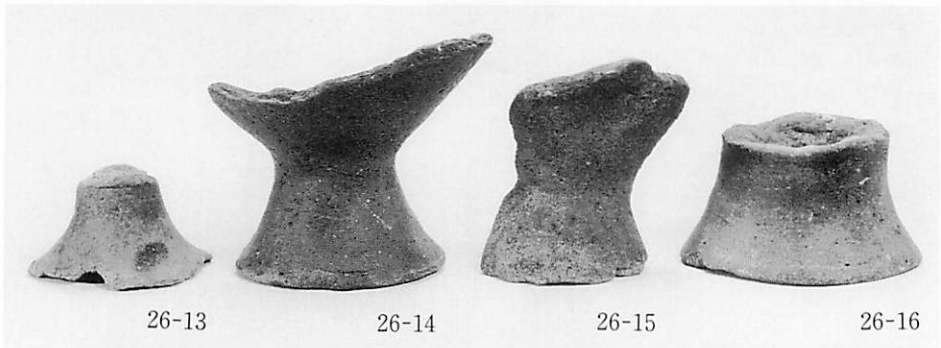
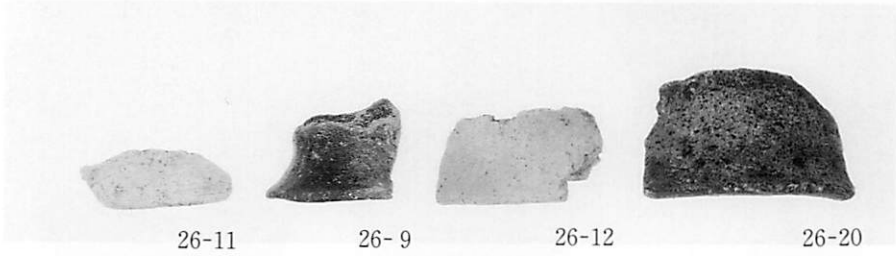
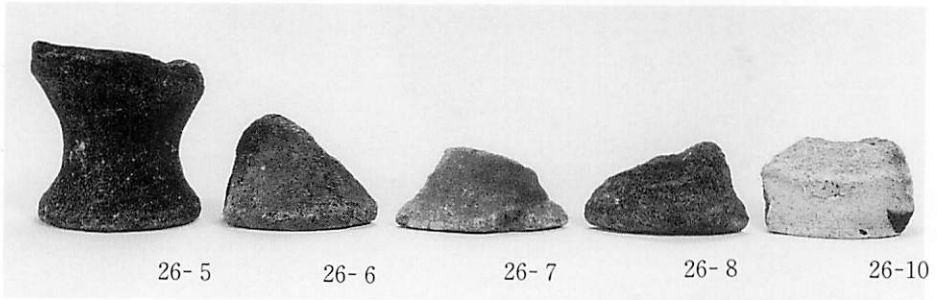
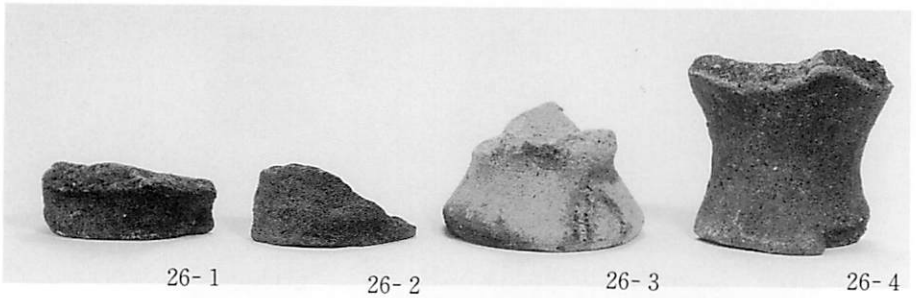




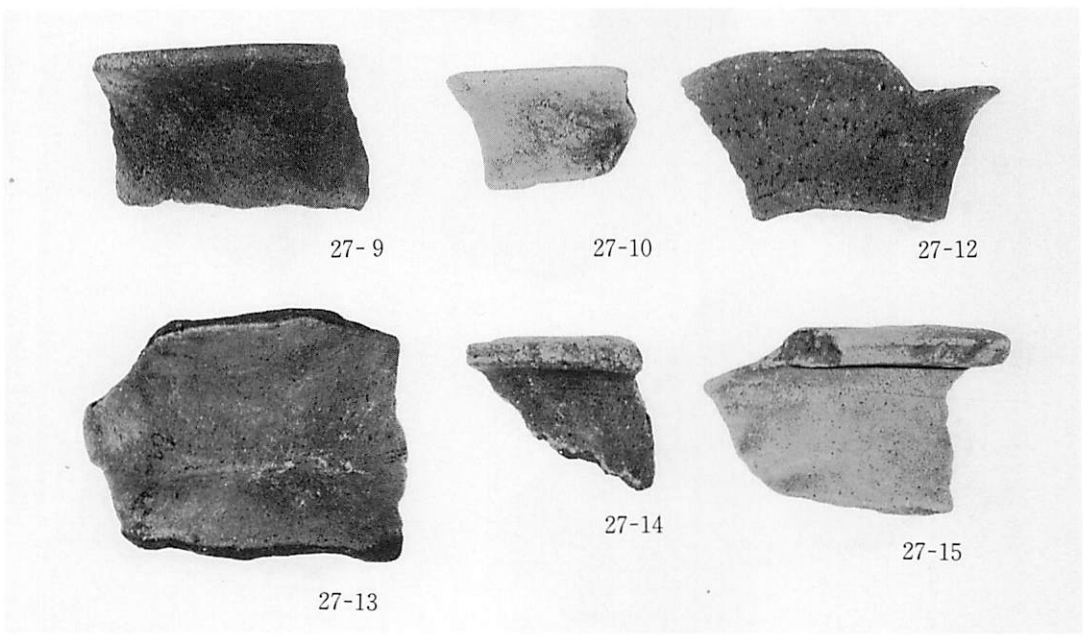
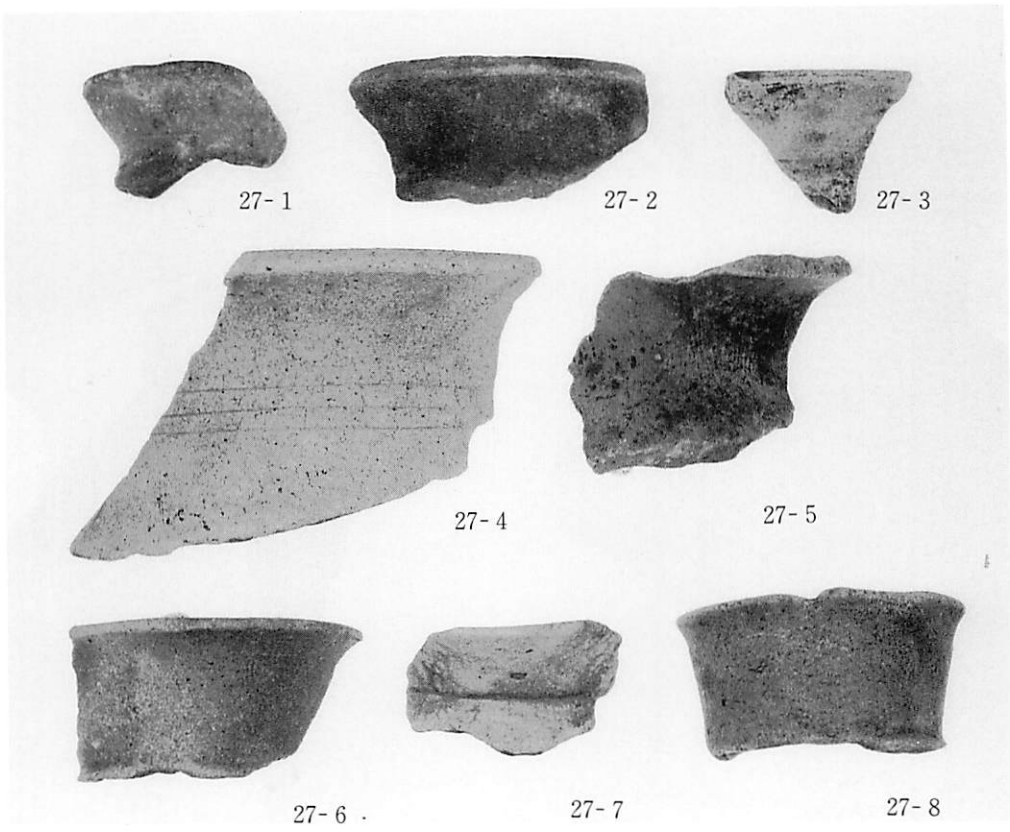
図版 14 郡元団地H-11・12区発掘調査河2出土遺物(6)









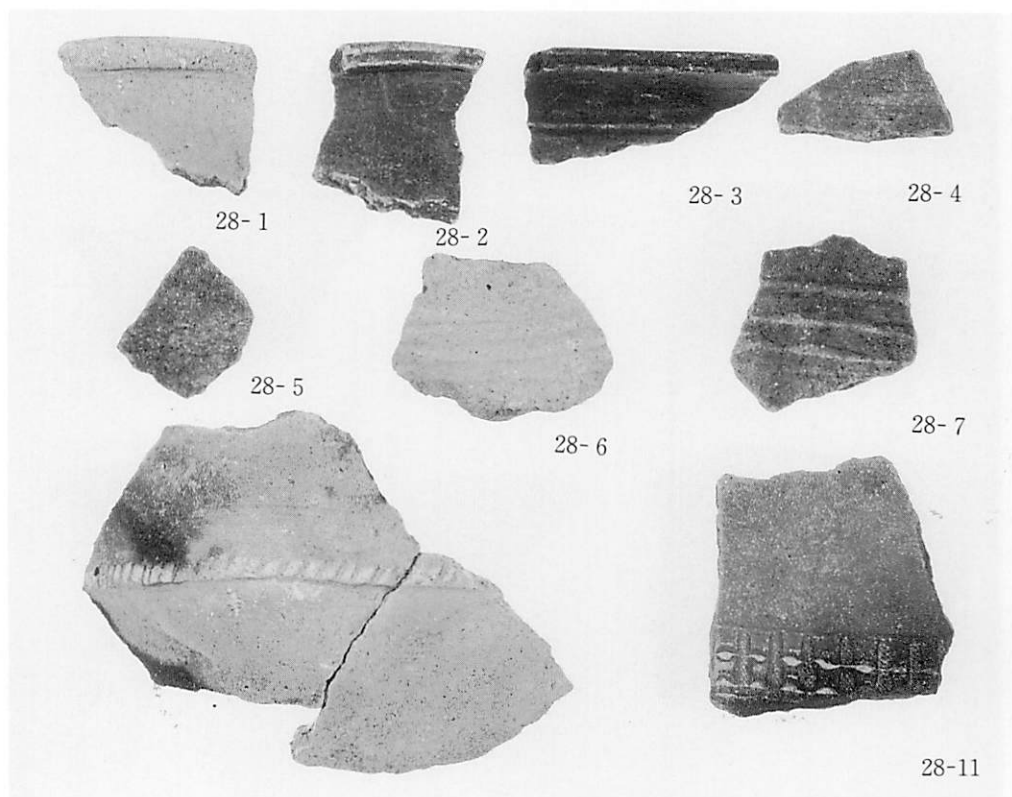




27-11



28-9



28-8

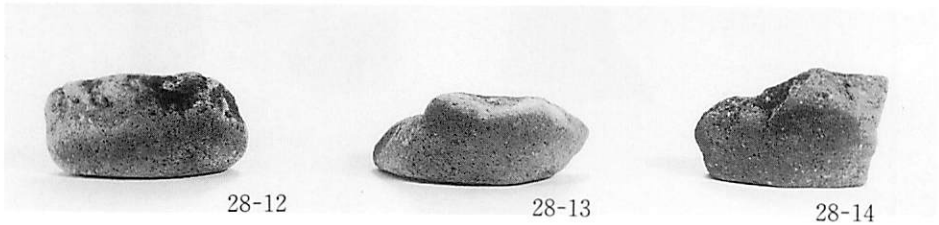




28-10



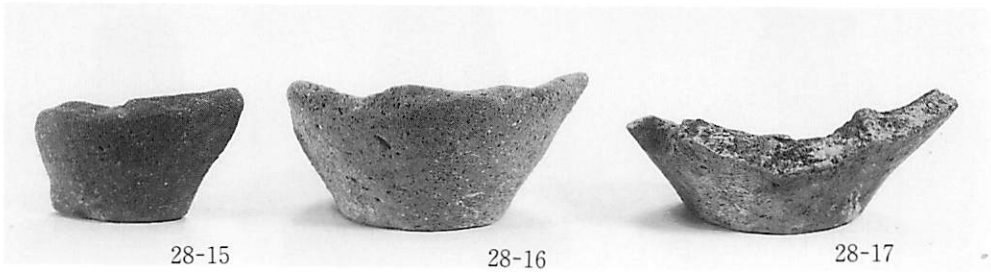
29-1



28-12

28-13

28-14



28-15

28-16

28-17



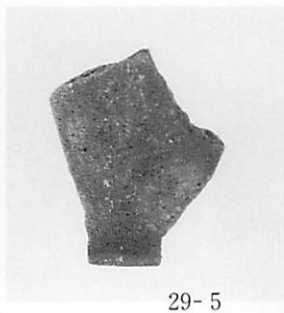
29-2

29-3

図版20 郡元団地H-11・12区発掘調査河2出土遺物(12)



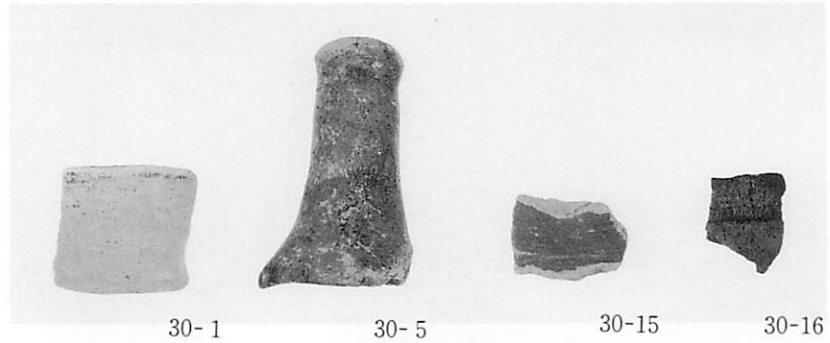
29-4



29-5



29-6

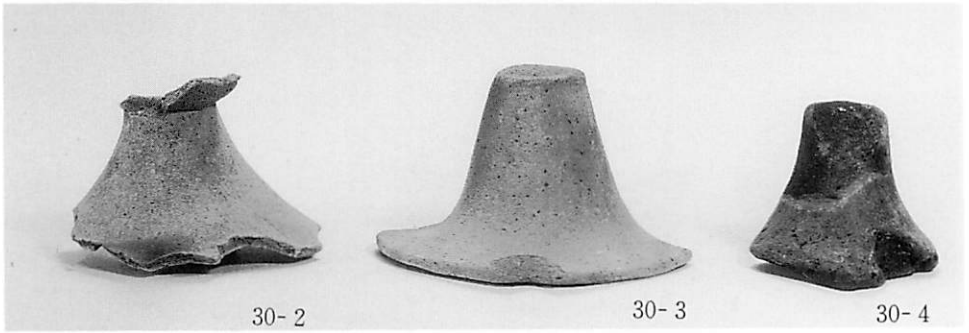


30-1

30-5

30-15

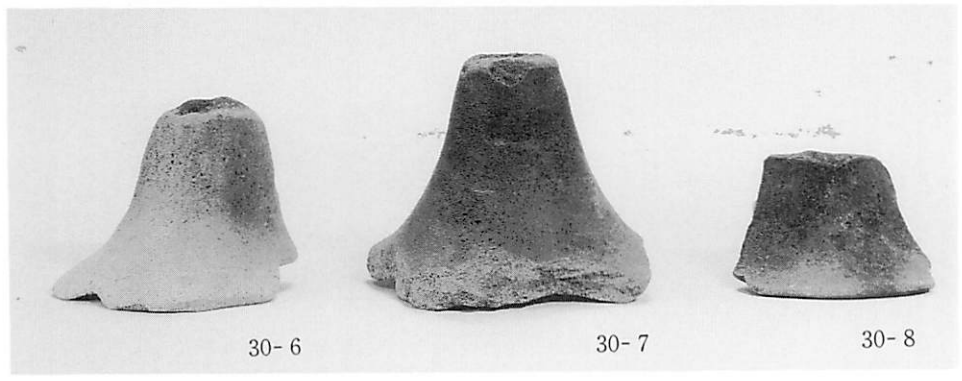
30-16



30-2

30-3

30-4



30-6

30-7

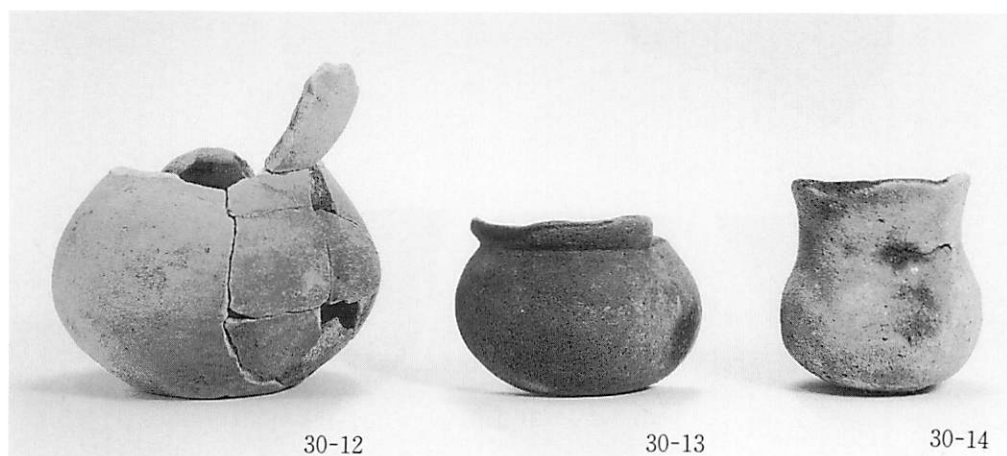
30-8



30-9

30-10

30-11



30-12

30-13

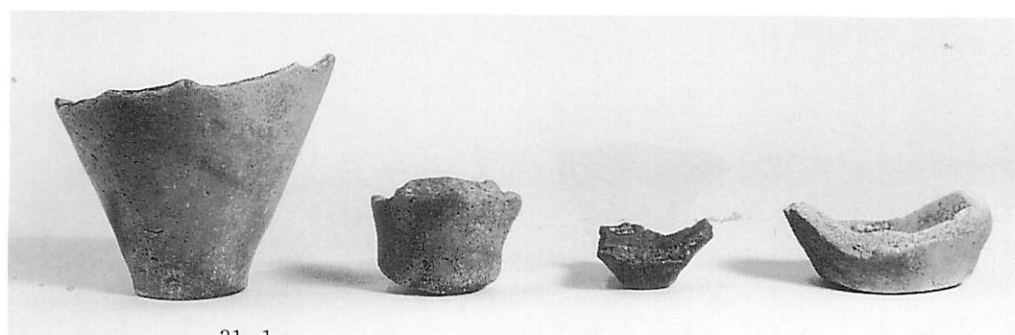
30-14



30-17

30-18

30-19

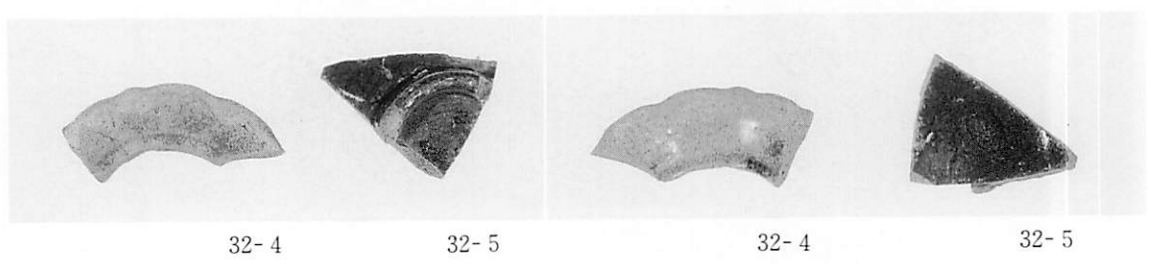
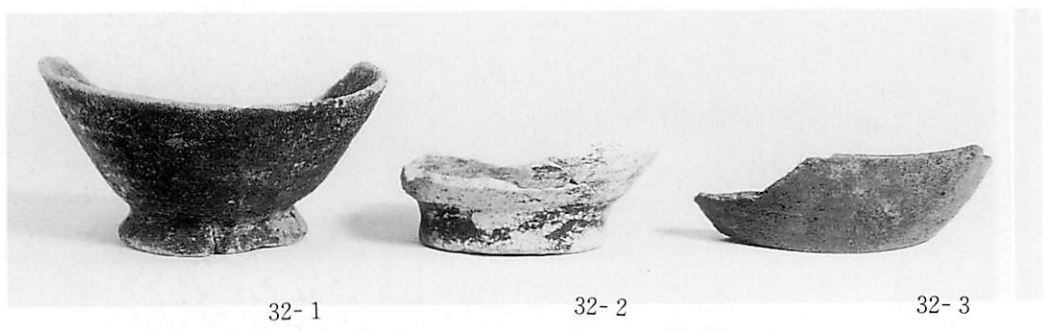
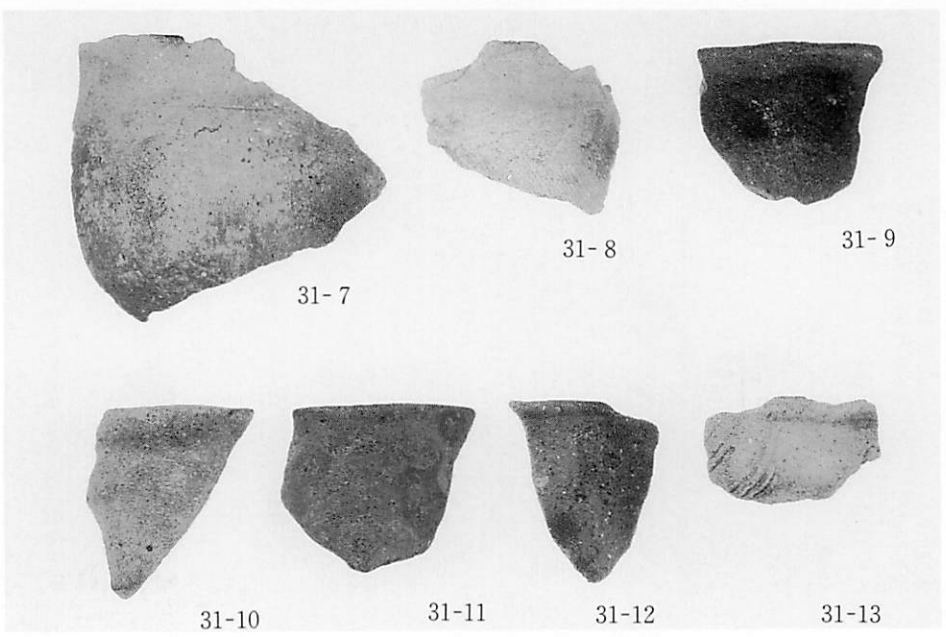
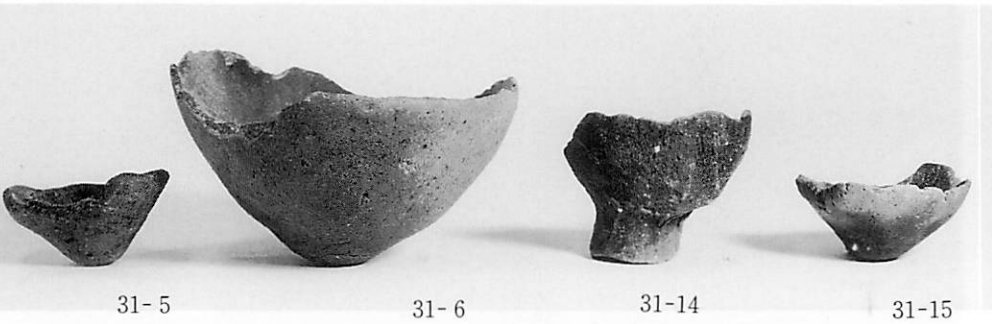


31-1

31-2

31-3

31-4



鹿兒島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅷ

1993年3月

編集発行 鹿兒島大学埋蔵文化財調査室  
鹿兒島市郡元一丁目21-24  
電話 (0992) 85-7270